様式１－１

大学等名	京都ノートルダム女子大学
プログラム名	情報活用力プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位　大学等全体のプログラム

③ 教育プログラムの修了要件　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

国際言語文化学部・英語英文学科／国際日本文化学科

④ 修了要件

国際言語文化学部では、「情報活用力プログラム」を構成する「基礎基幹」科目群から必修5科目（下記1～5）8単位と選択必修7科目（下記6～12）8単位以上、「専門」科目群から必修2科目（下記13、14）4単位、選択必修7科目（下記15～21）4単位以上、「関連」科目群から選択必修24科目（下記22～45）10単位以上を取得すること。

「基礎基幹」:1. 情報演習Ⅰa 又は 情報演習Ⅰb、2. 情報演習Ⅱ、3. 情報技術リテラシー、4. 情報の科学と倫理、5. AIとデータサイエンス入門、6. 文章作成法Ⅰ、7. 文章作成法Ⅱ、8. SNSコミュニケーションスキル、9. 情報処理、10. プログラミング演習、11. 英語英文学基礎演習Ⅰ（英語英文学科対象）又は基礎演習Ⅰ（国際日本文化学科対象）、12. 英語英文学基礎演習Ⅱ（英語英文学科対象）又は基礎演習Ⅱ（国際日本文化学科対象）
「専門」:13. アルゴリズム基礎、14. AIとデータサイエンス、15. インターネット社会論、16. マーケティング論、17. 情報教育、18. 子供のネット安全教育の理論と実践、19. ICT活用教育、20. 英語英文学演習Ⅰ（英語英文学科対象）又は専門演習Ⅰ（国際日本文化学科対象）、21. 英語英文学演習Ⅱ（英語英文学科対象）又は専門演習Ⅱ（国際日本文化学科対象）
「関連」:22. 生命倫理、23. 暮らしの統計学、24. アカデミック・ライティング、25. 短期インターンシップ、26. キャリア形成ゼミ、27. インターンシップ、28. ことばのしくみ、29. 対人コミュニケーション、30. ことばの音と形態、31. ことばと社会、32. ことばと意味、33. 家庭電気・機械及び情報処理、34. ビジネスの基礎Ⅰ、35. ビジネスの基礎Ⅱ、36. ソーシャルマーケティング論、37. 女性起業論、38. 生活環境の心理学、39. 消費者行動の心理学、40. 知覚・認知心理学、41. 学習・言語心理学、42. 中等教育実習Ⅰ、43. 中等教育実習Ⅱ、44. 卒業研究（情報分野を含むこと）、45. ICTビジネス論

必要最低単位数　34　単位　　履修必須の有無　令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
情報技術リテラシー	2	○	○		○		プログラミング演習	2			○		○
情報の科学と倫理	2	○	○	○			アルゴリズム基礎	2	○		○	○	
AIとデータサイエンス入門	2	○	○		○	○	AIとデータサイエンス	2	○			○	
情報処理	2					○							

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
情報の科学と倫理	2	○	○		○		○				AIとデータサイエンス	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AIとデータサイエンス入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	インターネット社会論	2		○			○	○			
SNSコミュニケーションスキル	2		○																		

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
AIとデータサイエンス入門	2	○	AIとデータサイエンス	2	○
アルゴリズム基礎	2	○			

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報演習Ⅰa	その他	短期インターンシップ	その他
情報演習Ⅰb	その他	キャリア形成ゼミ	その他
情報演習Ⅱ	その他	インターンシップ	その他
文章作成法Ⅰ	その他	ことばのしくみ	その他
文章作成法Ⅱ	その他	対人コミュニケーション	その他
英語英文学基礎演習Ⅰ	その他	ことばの音と形態	その他
基礎演習Ⅰ	その他	ことばと社会	その他
英語英文学基礎演習Ⅱ	その他	ことばと意味	その他
基礎演習Ⅱ	その他	家庭電気・機械及び情報処理	その他
マーケティング論	その他	ビジネスの基礎Ⅰ	その他
情報教育	その他	ビジネスの基礎Ⅱ	その他
子供のネット安全教育の理論と実践	その他	ソーシャルマーケティング論	その他
ICT活用教育	その他	女性起業論	その他
英語英文学演習Ⅰ	その他	生活環境の心理学	その他
専門演習Ⅰ	その他	消費者行動の心理学	その他
英語英文学演習Ⅱ	その他	知覚・認知心理学	その他
専門演習Ⅱ	その他	学習・言語心理学	その他
生命倫理	その他	中等教育実習Ⅰ	その他
暮らしの統計学	その他	中等教育実習Ⅱ	その他
アカデミック・ライティング	その他	卒業研究	その他
		ICTビジネス論	その他

⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・順列、組合せ、集合、ベン図「情報技術リテラシー」(4回目) ・デジタル情報量「情報の科学と倫理」(6, 7回) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回) ・相関係数、相関関係と因果関係「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回)
	1-7	・アルゴリズムの基礎「情報の科学と倫理」(8回) ・アルゴリズムサーチ(線形探索)、最大値最小値、ソート(バブルソート、選択ソート、挿入ソート、シェルソート、クイックソート)、アルゴリズムの評価「プログラミング演習」(7, 8, 9回) ・アルゴリズムの表現(フローチャート)「アルゴリズム基礎」(3回) ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「アルゴリズム基礎」(8, 9回)
	2-2	・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「情報技術リテラシー」(2, 3回目) ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「AIとデータサイエンス入門」(3回) ・配列、木構造(ツリー)、グラフ「アルゴリズム基礎」(6, 10回) ・構造化データ、非構造化データ「AIとデータサイエンス入門」(4回)、「AIとデータサイエンス」(3回)
	2-7	・文字型、整数型、浮動小数型、変数、代入、関数、引数、戻り値「AIとデータサイエンス入門」(6, 7回) ・プログラミング入門(変数、代入、順次・分岐・反復の理解)「情報処理」(5, 6, 7回目) ・変数、代入、四則演算、論理演算、関数、引数、順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「プログラミング演習」(3, 4, 6, 12,13, 14回目)
(2)AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・高度情報化社会の問題点「情報の科学と倫理」(13回) ・データ駆動型社会、Scocity5.0「AIとデータサイエンス入門」(2, 14回) ・機器の発達とSNS、パソコン通信からインターネットへ「SNSコミュニケーションスキル」(2, 3回) ・データサイエンス活用事例「AIとデータサイエンス」(2回) ・Society5.0、ビッグデータの定義とデータ駆動型社会「インターネット社会論」(1, 7, 8回目)
	1-2	・データの収集、加工、分割/統合「AIとデータサイエンス入門」(3, 12回) ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)
	2-1	・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「情報の科学と倫理」(4回)、「AIとデータサイエンス入門」(2回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス、ビッグデータ活用事例「AIとデータサイエンス」(2回)
	3-1	・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「AIとデータサイエンス入門」(13回) ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「AIとデータサイエンス」(6回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは?「インターネット社会論」(7回目)
	3-2	・知的財産権の保護、デジタルシティズンシップ、情報通信とセキュリティ「情報の科学と倫理」(11, 12回) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AI倫理、AIの社会受容性「AIとデータサイエンス入門」(14回), 「AIとデータサイエンス」(14回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは?「インターネット社会論」(7回目)
	3-3	・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AIとデータサイエンス入門」(8, 9, 13回) ・実世界で進む機械学習の応用と発展(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(11, 12, 13回)
	3-4	・ニューラルネットワークの原理「AIとデータサイエンス入門」(13回), 「AIとデータサイエンス」(10回) ・実世界で進む深層学習の応用と革新(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(10回)
	3-9	・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「AIとデータサイエンス入門」(2, 14回) ・AIの学習と推論、評価、再学習「AIとデータサイエンス」(11, 12, 13回) ・複数のAI技術を活用したシステム「AIとデータサイエンス」(2, 11, 12, 13回)
(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。	Ⅰ	「データ表現とアルゴリズム」 ・Wolfram言語によるアートプログラミング実習「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Web検索等の実用ソフトウェアのアルゴリズムの理解と課題発見「アルゴリズム基礎」(12, 13, 14回) ・分析用テキストデータ、画像データの収集/加工実習「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回)
	Ⅱ	「AI・データサイエンス基礎」 ・テキストマイニング技術を用いたデータビジュアライゼーション実習—「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Wolfram言語による機械学習プログラミング実習—「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・情報社会に必要な情報科学の基礎的知識・技能を身につけている。
・情報が社会に与える影響を理解できる。
・新たな情報を作り出し、課題を発見できる。
・課題の解決に向けて主体的に解決策を検討することができる。

様式１－２

大学等名	京都ノートルダム女子大学
プログラム名	情報活用力プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位　大学等全体のプログラム

③ 教育プログラムの修了要件　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

現代人間学部・生活環境学科／心理学科／こども教育学科

④ 修了要件

現代人間学部では、「情報活用力プログラム」を構成する「基礎基幹」科目群から必修5科目（下記1～5）8単位と選択必修7科目（下記6～12）8単位以上、「専門」科目群から必修2科目（下記13、14）4単位、選択必修6科目（下記15～20）4単位以上、「関連」科目群から選択必修26科目（下記21～46）10単位以上を取得すること。
「基礎基幹」：1. 情報演習Ⅰａ又は 情報演習Ⅰｂ、2. 情報技術リテラシー、4. 情報の科学と倫理、5. AIとデータサイエンス入門、6. 文章作成法Ⅰ、7. 文章作成法Ⅱ、8. SNSコミュニケーションスキル、9. 情報処理、10. プログラミング演習、11. 生活環境基礎演習Ⅰ（生活環境学科対象）又は心理学基礎演習Ⅰ（心理学科対象）又はこども教育基礎演習（こども教育学科対象）、12. 生活環境基礎演習Ⅱ（生活環境学科対象）又は心理学基礎演習Ⅱ（心理学科対象）又はこども教育フィールド研修（こども教育学科対象）
「専門」：13. アルゴリズム基礎、14. AIとデータサイエンス、15. インターネット社会論、16. マーケティング論、17. 情報教育、18. 子供のネット安全教育の理論と実践、19. ICT活用教育、20. 生活環境特論（生活環境学科対象）又は心理学演習（心理学科対象）又はこども教育演習（こども教育学科対象）
「関連」：21. 生命倫理、22. 暮らしの統計学、23. アカデミック・ライティング、24. 短期インターンシップ、25. キャリア形成ゼミ、26. インターンシップ、27. ことばのしくみ、28. 対人コミュニケーション、29. ことばの音と形態、30. ことばと社会、31. ことばと意味、32. 家庭電気・機械及び情報処理、33. ビジネスの基礎Ⅰ、34. ビジネスの基礎Ⅱ、35. ソーシャルマーケティング論、36. 女性起業論、37. 生活環境の心理学、38. 消費者行動の心理学、39. 知覚・認知心理学、40. 学習・言語心理学、41. 初等教育実習Ⅰａ、42. 初等教育実習Ⅱａ、43. 初等教育実習Ⅰｂ、44. 初等教育実習Ⅱｂ、45. 卒業研究（情報分野を含むこと）、46. ICTビジネス論

必要最低単位数　34　単位

履修必須の有無　令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ．データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
情報技術リテラシー	2	○	○		○		プログラミング演習	2			○		○
情報の科学と倫理	2	○	○	○			アルゴリズム基礎	2	○		○	○	
AIとデータサイエンス入門	2	○	○		○	○	AIとデータサイエンス	2	○			○	
情報処理	2					○							

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ．AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
情報の科学と倫理	2	○	○		○		○				AIとデータサイエンス	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AIとデータサイエンス入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	インターネット社会論	2		○			○	○			
SNSコミュニケーションスキル	2		○																		

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ．AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
AIとデータサイエンス入門	2	○	AIとデータサイエンス	2	○
アルゴリズム基礎	2	○			

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報演習Ⅰａ	その他	キャリア形成ゼミ	その他
情報演習Ⅰｂ	その他	インターンシップ	その他
情報演習Ⅱ	その他	ことばのしくみ	その他
文章作成法Ⅰ	その他	対人コミュニケーション	その他
文章作成法Ⅱ	その他	ことばの音と形態	その他
生活環境基礎演習Ⅰ	その他	ことばと社会	その他
心理学基礎演習Ⅰ	その他	ことばと意味	その他
こども教育基礎演習	その他	家庭電気・機械及び情報処理	その他
生活環境基礎演習Ⅱ	その他	ビジネスの基礎Ⅰ	その他
心理学基礎演習Ⅱ	その他	ビジネスの基礎Ⅱ	その他
こども教育フィールド研修	その他	ソーシャルマーケティング論	その他
マーケティング論	その他	女性起業論	その他
情報教育	その他	生活環境の心理学	その他
子供のネット安全教育の理論と実践	その他	消費者行動の心理学	その他
ICT活用教育	その他	知覚・認知心理学	その他
生活環境特論	その他	学習・言語心理学	その他
心理学演習	その他	初等教育実習Ⅰａ	その他
こども教育演習	その他	初等教育実習Ⅱａ	その他
生命倫理	その他	初等教育実習Ⅰｂ	その他
暮らしの統計学	その他	初等教育実習Ⅱｂ	その他
アカデミック・ライティング	その他	卒業研究	その他
短期インターンシップ	その他	ICTビジネス論	その他

⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・順列、組合せ、集合、ベン図「情報技術リテラシー」(4回目) ・デジタル情報量「情報の科学と倫理」(6, 7回) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回) ・相関係数、相関関係と因果関係「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回)
	1-7	・アルゴリズムの基礎「情報の科学と倫理」(8回) ・アルゴリズムサーチ(線形探索)、最大値最小値、ソート(バブルソート、選択ソート、挿入ソート、シェルソート、クイックソート)、アルゴリズムの評価「プログラミング演習」(7, 8, 9回) ・アルゴリズムの表現(フローチャート)「アルゴリズム基礎」(3回) ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「アルゴリズム基礎」(8, 9回)
	2-2	・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「情報技術リテラシー」(2, 3回目) ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「AIとデータサイエンス入門」(3回) ・配列、木構造(ツリー)、グラフ「アルゴリズム基礎」(6, 10回) ・構造化データ、非構造化データ「AIとデータサイエンス入門」(4回)、「AIとデータサイエンス」(3回)
	2-7	・文字型、整数型、浮動小数型、変数、代入、関数、引数、戻り値「AIとデータサイエンス入門」(6, 7回) ・プログラミング入門(変数、代入、順次・分岐・反復の理解)「情報処理」(5, 6, 7回目) ・変数、代入、四則演算、論理演算、関数、引数、順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「プログラミング演習」(3, 4, 6, 12,13, 14回目)
(2)AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・高度情報化社会の問題点「情報の科学と倫理」(13回) ・データ駆動型社会、Scocity5.0「AIとデータサイエンス入門」(2, 14回) ・機器の発達とSNS、パソコン通信からインターネットへ「SNSコミュニケーションスキル」(2, 3回) ・データサイエンス活用事例「AIとデータサイエンス」(2回) ・Society5.0、ビッグデータの定義とデータ駆動型社会「インターネット社会論」(1, 7, 8回目)
	1-2	・データの収集、加工、分割/統合「AIとデータサイエンス入門」(3, 12回) ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)
	2-1	・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「情報の科学と倫理」(4回)、「AIとデータサイエンス入門」(2回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス、ビッグデータ活用事例「AIとデータサイエンス」(2回)
	3-1	・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「AIとデータサイエンス入門」(13回) ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「AIとデータサイエンス」(6回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは?「インターネット社会論」(7回目)
	3-2	・知的財産権の保護、デジタルシティズンシップ、情報通信とセキュリティ「情報の科学と倫理」(11, 12回) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AI倫理、AIの社会受容性「AIとデータサイエンス入門」(14回), 「AIとデータサイエンス」(14回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは?「インターネット社会論」(7回目)
	3-3	・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AIとデータサイエンス入門」(8, 9, 13回) ・実世界で進む機械学習の応用と発展(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(11, 12, 13回)
	3-4	・ニューラルネットワークの原理「AIとデータサイエンス入門」(13回), 「AIとデータサイエンス」(10回) ・実世界で進む深層学習の応用と革新(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(10回)
	3-9	・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「AIとデータサイエンス入門」(2, 14回) ・AIの学習と推論、評価、再学習「AIとデータサイエンス」(11, 12, 13回) ・複数のAI技術を活用したシステム「AIとデータサイエンス」(2, 11, 12, 13回)
(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。	Ⅰ	「データ表現とアルゴリズム」 ・Wolfram言語によるアートプログラミング実習「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Web検索等の実用ソフトウェアのアルゴリズムの理解と課題発見「アルゴリズム基礎」(12, 13, 14回) ・分析用テキストデータ、画像データの収集/加工実習「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回)
	Ⅱ	「AI・データサイエンス基礎」 ・テキストマイニング技術を用いたデータビジュアライゼーション実習—「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Wolfram言語による機械学習プログラミング実習—「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・情報社会に必要な情報科学の基礎的知識・技能を身につけている。
・情報が社会に与える影響を理解できる。
・新たな情報を作り出し、課題を発見できる。
・課題の解決に向けて主体的に解決策を検討することができる。

様式１－３

大学等名	京都ノートルダム女子大学
プログラム名	情報活用力プログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位　大学等全体のプログラム

③ 教育プログラムの修了要件　学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

社会情報課程

④ 修了要件

社会情報課程では、「情報活用力プログラム」を構成する「基礎基幹」科目群から必修5科目（下記1～5）8単位と選択必修7科目（下記6～12）8単位以上、「専門」科目群から必修2科目（下記13、14）4単位、選択必修6科目（下記15～20）4単位以上、「関連」科目群から選択必修24科目（下記21～44）10単位以上を取得すること。
「基礎基幹」:1. 情報演習Ⅰａ又は 情報演習Ⅰｂ、2. 情報演習Ⅱ、3. 情報技術リテラシー、4. 情報の科学と倫理、5. AIとデータサイエンス入門、6. 文章作成法Ⅰ、7. 文章作成法Ⅱ、8. SNSコミュニケーションスキル、9. 情報処理、10. プログラミング演習、11. 社会情報基礎演習Ⅰ、12. 社会情報基礎演習Ⅱ
「専門」:13. アルゴリズム基礎、14. AIとデータサイエンス、15. インターネット社会論、16. マーケティング論、17. 情報教育、18. 子供のネット安全教育の理論と実践、19. ICT活用教育、20. 社会情報演習
「関連」:21. 生命倫理、22. 暮らしの統計学、23. アカデミック・ライティング、24. 短期インターンシップ、25. キャリア形成ゼミ、26. インターンシップ、27. ことばのしくみ、28. 対人コミュニケーション、29. ことばの音と形態、30. ことばと社会、31. ことばと意味、32. 家庭電気・機械及び情報処理、33. ビジネスの基礎Ⅰ、34. ビジネスの基礎Ⅱ、35. ソーシャルマーケティング論、36. 女性起業論、37. 生活環境の心理学、38. 消費者行動の心理学、39. 知覚・認知心理学、40. 学習・言語心理学、41. 中等教育実習Ⅰ、42. 中等教育実習Ⅱ、43. 卒業研究（情報分野を含むこと）、44. ICTビジネス論

必要最低単位数　34　単位

履修必須の有無　令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ．データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
情報技術リテラシー	2	○	○		○		プログラミング演習	2			○		○
情報の科学と倫理	2	○	○	○			アルゴリズム基礎	2	○		○	○	
AIとデータサイエンス入門	2	○	○		○	○	AIとデータサイエンス	2	○			○	
情報処理	2					○							

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ．AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
情報の科学と倫理	2	○	○		○		○				AIとデータサイエンス	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AIとデータサイエンス入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	インターネット社会論	2		○			○	○			
SNSコミュニケーションスキル	2		○																		

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ．AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
AIとデータサイエンス入門	2	○	AIとデータサイエンス	2	○
アルゴリズム基礎	2	○			

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報演習Ⅰａ	その他	ことばのしくみ	その他
情報演習Ⅰｂ	その他	対人コミュニケーション	その他
情報演習Ⅱ	その他	ことばの音と形態	その他
文章作成法Ⅰ	その他	ことばと社会	その他
文章作成法Ⅱ	その他	ことばと意味	その他
社会情報基礎演習Ⅰ	その他	家庭電気・機械及び情報処理	その他
社会情報基礎演習Ⅱ	その他	ビジネスの基礎Ⅰ	その他
マーケティング論	その他	ビジネスの基礎Ⅱ	その他
情報教育	その他	ソーシャルマーケティング論	その他
子供のネット安全教育の理論と実践	その他	女性起業論	その他
ICT活用教育	その他	生活環境の心理学	その他
社会情報演習	その他	消費者行動の心理学	その他
生命倫理	その他	知覚・認知心理学	その他
暮らしの統計学	その他	学習・言語心理学	その他
アカデミック・ライティング	その他	中等教育実習Ⅰ	その他
短期インターンシップ	その他	中等教育実習Ⅱ	その他
キャリア形成ゼミ	その他	卒業研究	その他
インターンシップ	その他	ICTビジネス論	その他

⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	・順列、組合せ、集合、ベン図「情報技術リテラシー」(4回目) ・デジタル情報量「情報の科学と倫理」(6, 7回) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回) ・相関係数、相関関係と因果関係「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回)
	1-7	・アルゴリズムの基礎「情報の科学と倫理」(8回) ・アルゴリズムサーチ(線形探索)、最大値最小値、ソート(バブルソート、選択ソート、挿入ソート、シェルソート、クイックソート)、アルゴリズムの評価「プログラミング演習」(7, 8, 9回) ・アルゴリズムの表現(フローチャート)「アルゴリズム基礎」(3回) ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「アルゴリズム基礎」(8, 9回)
	2-2	・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「情報技術リテラシー」(2, 3回目) ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「AIとデータサイエンス入門」(3回) ・配列、木構造(ツリー)、グラフ「アルゴリズム基礎」(6, 10回) ・構造化データ、非構造化データ「AIとデータサイエンス入門」(4回)、「AIとデータサイエンス」(3回)
	2-7	・文字型、整数型、浮動小数型、変数、代入、関数、引数、戻り値「AIとデータサイエンス入門」(6, 7回) ・プログラミング入門(変数、代入、順次・分岐・反復の理解)「情報処理」(5, 6, 7回目) ・変数、代入、四則演算、論理演算、関数、引数、順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「プログラミング演習」(3, 4, 6, 12,13, 14回目)
(2)AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	・高度情報化社会の問題点「情報の科学と倫理」(13回) ・データ駆動型社会、Scocity5.0「AIとデータサイエンス入門」(2, 14回) ・機器の発達とSNS、パソコン通信からインターネットへ「SNSコミュニケーションスキル」(2, 3回) ・データサイエンス活用事例「AIとデータサイエンス」(2回) ・Society5.0、ビッグデータの定義とデータ駆動型社会「インターネット社会論」(1, 7, 8回目)
	1-2	・データの収集、加工、分割/統合「AIとデータサイエンス入門」(3, 12回) ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)
	2-1	・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「情報の科学と倫理」(4回)、「AIとデータサイエンス入門」(2回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス、ビッグデータ活用事例「AIとデータサイエンス」(2回)
	3-1	・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「AIとデータサイエンス入門」(13回) ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「AIとデータサイエンス」(6回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは?「インターネット社会論」(7回目)
	3-2	・知的財産権の保護、デジタルシティズンシップ、情報通信とセキュリティ「情報の科学と倫理」(11, 12回) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AI倫理、AIの社会受容性「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは?「インターネット社会論」(7回目)
	3-3	・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AIとデータサイエンス入門」(8, 9, 13回) ・実世界で進む機械学習の応用と発展(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(11, 12, 13回)
	3-4	・ニューラルネットワークの原理「AIとデータサイエンス入門」(13回)、「AIとデータサイエンス」(10回) ・実世界で進む深層学習の応用と革新(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(10回)
	3-9	・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「AIとデータサイエンス入門」(2, 14回) ・AIの学習と推論、評価、再学習「AIとデータサイエンス」(11, 12, 13回) ・複数のAI技術を活用したシステム「AIとデータサイエンス」(2, 11, 12, 13回)
(3)本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用 企画・実施・評価」から構成される。	Ⅰ	「データ表現とアルゴリズム」 ・Wolfram言語によるアートプログラミング実習「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Web検索等の実用ソフトウェアのアルゴリズムの理解と課題発見「アルゴリズム基礎」(12, 13, 14回) ・分析用テキストデータ、画像データの収集/加工実習「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回)
	Ⅱ	「AI・データサイエンス基礎」 ・テキストマイニング技術を用いたデータビジュアライゼーション実習—「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Wolfram言語による機械学習プログラミング実習—「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

・情報社会に必要な情報科学の基礎的知識・技能を身につけている。
・情報が社会に与える影響を理解できる。
・新たな情報を作り出し、課題を発見できる。
・課題の解決に向けて主体的に解決策を検討することができる。

講義コード	GBL1401A0J
科目名	情報演習Ⅰａ
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	吉田　智子
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	1
曜日時限	月曜・5 限

①科目の教育目標（Course Description）

コンピュータシステムの基本的な操作（電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要となる基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要不可欠な技能である。学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）
・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
・研究活動推進のための E-Mail の利用、情報検索の活用
・タッチタイピングの習得
・論文作成のための日本語文書作成
・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用
・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
・ファイルの拡張子に関して・ファイルの管理・フォルダの概念の理解

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
コンピュータシステムの利用に関しての操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することが	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自

		できる	も含）を作成することができる	在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Web による情報収集と蔵書検索システムの利用	Web による情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Web による情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Web による情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　ファイルの拡張子について、E-Mail の利用、manaba について、印刷の管理

第 2 回目

大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用　本学の図書館の活用（OPAC の利用・文献探索・データベース活用法など）

第 3 回目

コンピュータ環境の利用　入力の基礎、ファイル管理、基本的な情報検索、タッチタイピング練習

第 4 回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(1)　Word について、基本的な文書を作成しよう

第 5 回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(2)　図や表を挿入しよう

第 6 回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(3)　文書を印刷しよう、　**【通常課題 1：Word】**の作成と提出

第 7 回目

表計算ソ フトの基本操作(1)　Excel について、データを入力しよう

第 8 回目

表計算ソフトの基本操作(2)　表を作成しよう（罫線の設定、数式の入力、関数の入力、他）

第 9 回目

表計算ソフトの基本操作(3)　表を印刷しよう（用紙の設定、ヘッダーとフッターの設定、他）、　**【通常課題 2：Excel】**の作成と提出

第 10 回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(1)　PowerPoint について、プレゼンテーションを作成しよう

第 11 回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(2)　オブジェクトを挿入しよう（図形の作成、画像の挿入、表の作成、他）、プレゼンテーションの構成を変更しよう

第 12 回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(3)　プレゼンテーションに動きを設定しよう（アニメーションの設定）、プレゼンテーションを印刷しよう　**【通常課題 3：PowerPoint】**の作成と提出

第 13 回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(4)　長文のレポートを編集しよう

第 14 回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(5)　文章を校閲しよう、タッチタイピングの確認と総復習

第 15 回目

Word 実技確認テストとまとめ　【最終課題】としての実技確認テストの実施、終了後に講評

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

Windows パソコンでの実習をベースに授業を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや授業中に示された資料を通じて理解する。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

復習を兼ねた複数の課題を**【通常課題】**として作成・提出してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日に実施される**【最終課題】**としての「実技確認テスト」は必ず受けること。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度・授業態度（授業への取り組み姿勢を含む）（30%）、3 つの**【通常課題】**（40%）、実技確認テストとしての**【最終課題】**（30%）の総合点で評価する。

留意事項（Other Information）

第 2 回目に予定されている「大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用」の実施時期は、クラスによって変更することがある。P 検（ICT プロフィシェンシー検定）の３級以上、もしくは MOS（Microsoft Office Specialist）の 2 科目以上　（Word ともう 1 科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して３年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPA に算入されない）。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『情報リテラシー　アプリ編＜改訂版＞（Windows 10／Office 2019 対応）』/FOM 出版/2020/978-4-86510-418-9

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL1402P0J
科目名	情報演習Ｉｂ
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	吉田　智子
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	1
備考	メディア利用
曜日時限	土曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

コンピュータシステムの基本的な操作（パスワード変更、電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要となる基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要不可欠な技能である。学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。なお、このクラスは第１回目のみ対面授業を予定しているが、それ以降は、オンライン授業（オンデマンド方式）での授業実施を予定している。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）
・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法
・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解
・大学内コンピュータシステム利用のログイン、ログアウトの必要性の理解
・研究活動推進のための E-Mail の利用、情報検索の活用
・タッチタイピングの習得
・論文作成のための日本語文書作成
・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用
・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用
・ファイル管理・フォルダの概念の理解

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
コンピュータシステムの利用に関しての操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などはできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる

表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Web による情報収集と蔵書検索システムの利用	Web による情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Web による情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を Web による情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス【対面授業】　ガイダンス、E-mail の利用、manaba について、印刷の管理、タッチタイピング練習

第 2 回目

コンピュータ環境の利用【第 2 回目以降、オンライン授業を予定】　OS の理解、フォルダとファイルの管理、ファイル管理、ファイルの拡張子に関する理解、入力の基礎、情報検索

第 3 回目

大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用　本学の図書館の活用（OPAC の利用・文献探索・データベース活用法など）

第 4 回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(1)　Word について、基本的な文書を作成しよう

第 5 回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(2)　図や表を挿入しよう

第 6 回目

表計算ソフトの基本操作(1)　Excel について、データを入力しよう

第 7 回目

表計算ソフトの基本操作(2)　表を作成しよう（罫線の設定、数式の入力、関数の入力、他）

第 8 回目

表計算ソフトの基本操作(3)　表を印刷しよう（用紙の設定、ヘッダーとフッターの設定、他）

第 9 回目

表計算ソフトの基本操作(4)　グラフを作成しよう（グラフの機能、グラフの作成、他）

第 10 回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(1)　PowerPoint について、プレゼンテーションを作成しよう

第 11 回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(2)　オブジェクトを挿入しよう（図形の作成、画像の挿入、表の作成、他）、プレゼンテーションの構成を変更しよう

第 12 回目

プレゼンテーションソフトの基本操作(3)　プレゼンテーションに動きを設定しよう（アニメーションの設定）、プレゼンテーションを印刷しよう

第 13 回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(3)　長文のレポートを編集しよう

第 14 回目

日本語文書作成ソフトの基本操作(4)　文章を校閲しよう、タッチタイピングの確認と総復習

第 15 回目

実技確認テストとまとめ　実技確認テストとしての最終課題の実施と manaba での提出。終了後に manaba などで講評

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

Windows パソコンでの実習をベースに授業を行う。テキストでは、Windows10／Office2019 をベースに解説しているため、macOS の利用者の場合、テキスト内容が実際の操作と異なる場合がある。このクラスは第１回目は対面授業を予定しているが、それ以降は、オンライン（manaba などを利用したオンデマンド方式）での授業実施を予定している。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

復習を兼ねた複数の課題を manaba で提出してもらうので、期日までに必ず提出すること。さらに、最終日に実施される「実技確認テスト」としての【最終課題】は必ず受け、直ちに manaba で提出する必要がある。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

通常課題の提出を中心とした授業参加度を「60%」、「実技確認テスト」としての【最終課題】の提出を「40%」とした総合点で評価する。

留意事項（Other Information）

入学時などの情報スキルチェックテストの結果などに基づいて、この科目の履修者が指定される「選抜者クラス」である（つまり、許可されたもの以外は、このクラスを受講することができない）。manaba を利用したオンライン（オンデマンド方式）で授業が実施されるため、授業概要、特にどのような提出物をいつ提出する必要があるかを授業開講時に把握しておく必要がある。オンデマンド方式で実施するため、質問のある学生は、教員が情報演習室内に待機している「情報学習アドバイジング」の時間やシステム管理課のサービス窓口（ユージニア館 2 階の情報サポート窓口やシステム管理課）を利用するなど、対面での指導が受けられる機会を積極的に活用して主体的に学びを進めること。P 検（ICT プロフィシェンシー検定）の３級以上、もしくは MOS（Microsoft Office Specialist）の 2 科目以上 （Word ともう 1 科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて（こちらでコピーを取って原本は返却します）、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して３年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPA に算入されない）。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『情報リテラシー　アプリ編＜改訂版＞（Windows 10／Office 2019 対応）』/FOM 出版/2020/978-4-86510-418-9

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL2400A0J
科目名	情報演習Ⅱ
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	吉田　智子、伊藤　泰子
科目区分	共通教育科目
学年	2 年次
開講学期	前期
⑤単位	1
備考	定員 35 人　「情報演習Ⅰ」を履修していることが望ましい
曜日時限	月曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

大学や企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフトに関して、応用スキルを習得し、社会で必要とされる IT 応用力を養うことを目的とする。コースで使用するソフト（Microsoft Office2019 製品）の知識、操作などのレベルを客観的に測る基準とされる、Microsoft Office Specialist【MOS】資格への対応力も養い、資格取得のための一助とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

以下の操作の応用スキル（研究活動、社会人として活用できるレベル）を習得する。

・日本語文書ソフト
・表計算ソフト（表計算、グラフ、データベース、関数、データ分析）
・プレゼンテーションソフト
・ソフトとソフト間の相互利用

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能、目次の自動生成など、必要な機能を使って、レポートや論文を作成することができる	MOS Word 2019 で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	各種の関数を利用、複数のシートの操作、データベースの活用など、必要な機能を使って操作することができる	MOS Excel 2019 で試される各種の操作を含めて、自由自在に操作することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、必要な機能を使って操作することができる	オブジェクトの活用を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
各種ソフトの選択と統合	作成する文書に適したソフトを選んだり、統合したりできない	授業での指示を参考に、作成する文書に応じたソフトを選んだり、他のソフトで作ったものを統合したりできる	例題で紹介されたソフトの選択と統合を応用させて、ソフトを統合させた文書を作成することができる	Word、Excel、PowerPoint で実現可能な文書が自由自在に作成できる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス、日本語文書作成ソフトの基本操作　「情報演習Ⅰ」の内容確認、レポート作成機能などの基本操作の確認

第 2 回目
日本語文書作成ソフトの応用操作(1)　表現力をアップする機能を使ってみよう
第 3 回目
日本語文書作成ソフトの応用操作(2)　長文のレポートを編集しよう、文章を校閲しよう
第 4 回目
プレゼンテーションソフトの応用操作(1)　スライドの基本的な作成方法（「情報演習１」の内容確認）、別のアプリのデータを利用しよう
第 5 回目
プレゼンテーションソフトの応用操作(2)　スライド共通のデザインを設定しよう、スライドショーに役立つ機能を利用しよう
第 6 回目
プレゼンテーションソフトの応用操作(3)　プレゼンテーションの流れ、**【通常課題 1：PowerPoint 文書】**の作成と提出
第 7 回目
表計算ソフトの応用操作(1)　表計算ソフトの基本的な操作、表を編集しよう
第 8 回目
表計算ソフトの応用操作(2)　表を印刷しよう（改ページプレビュー、他）、グラフを作成しよう、**【通常課題 2：Excel 文書】**の作成と提出
第 9 回目
表計算ソフトの応用操作(3)　データベースを操作しよう、複数のシートを操作しよう
第 10 回目
表計算ソフトの応用操作(4)　関数を使いこなそう
第 11 回目
表計算ソフトの応用操作(5)　ユーザー定義の表示形式を設定しよう、条件付き書式を設定しよう、**【通常課題 3：Excel 文書】**の作成と提出
第 12 回目
表計算ソフトの応用操作(6)　データベースを活用しよう（データサイエンスの入り口としての統計の基礎と分析）
第 13 回目
表計算ソフトの応用操作(7)　高度なグラフを作成しよう、ピボットテーブルを作成しよう
第 14 回目
表計算ソフトの応用操作(8)　Microsoft Office Specialist 【MOS】Excel 2019 の紹介と総復習
第 15 回目
実技確認テストとまとめ　【最終課題】としての実技確認テストの実施、終了後に講評（講評には、manaba を利用する場合もある）
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
実施しない
②教育・学習の方法（Course Methods）
実習を行いながら操作と概念を習得する。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや資料を通じて理解する。
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
復習を兼ねた複数の課題を【通常課題】として作成・提出してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日に実施される【最終課題】としての「実技確認テスト」は必ず受けること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
15
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
授業参加度・授業態度（授業への取り組み姿勢を含む）（30%）、3 種類の**【通常課題】**（30%）、**【最終課題】**としての実技確認テスト（40%）の総合点で評価する。
留意事項（Other Information）
MOS（Microsoft Office Specialist）の 3 科目以上（Word/Excel/PowerPoint/Access のうちの 3 科目以上）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入

し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して３年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPA に算入されない）。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

「情報リテラシー アプリ編＜改訂版＞ (Windows 10／Office 2019 対応)」/FOM 出版/2020/978-4-86510-418-9/学内販売

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL2250A0J
科目名	情報技術リテラシー
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	伊藤　泰子
科目区分	共通教育科目
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	金曜・1 限

①科目の教育目標（**Course Description**）

いまや情報技術は、国家の社会基盤となりつつある。このような社会の中では、情報技術に関する一定の知識・技能を持つ人材が必要とされている。この科目では、国家試験である「IT パスポート試験」の技術水準をガイドラインとし、IT（information technology：情報技術）人材として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を習得することを目標とする。コンピュータのしくみ・基礎理論を理解し、どのような技術があるか学習し、それをどのように活用すべきかを考えていく。現在のネットワーク社会において必要不可欠なデータベース、ネットワーク、セキュリティなどの知識も習得する。

教育・学習の個別課題（**Course Objectives**）

・コンピュータ基礎理論を理解する　　・コンピュータシステムを知る
・データベースの基礎知識を学ぶ　　・インターネットのしくみと知識を学ぶ
・セキュリティの基礎知識を学ぶ

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
コンピュータの基礎理論	記憶容量の最小単位がわからない	bit や Byte、2 進数表記について知っている	基数変換、bit 数による表現範囲がわかる	コンピュータ上の文字表現、色の表現など 2 進数表現を使って説明できる
コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムの OS の名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ソフトウェアとハードウェアの理解	ソフトウェアとハードウェアが何かわからない	ソフトウェアとハードウェアを知っている	ソフトウェアとハードウェアの具体例を説明できる	PC の性能表を見ておおよその説明をすることができる
インターネットのしくみの理解	インターネットに興味がない	代表的なプロトコルを知っている	IP アドレスやドメイン名について知っている	IP アドレスのクラスやサブネットマスクを理解できる
セキュリティの知識	セキュリティに興味がない	セキュリティの必要性がわかる	どのようなセキュリティ技術があるか知っている	セキュリティの必要性や技術について、他人に説明できる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　授業概要の説明、IT パスポートの紹介

第 2 回目

情報に関する基礎理論 1　2 進数、基数変換など

第 3 回目

情報に関する基礎理論 2　情報量、A/D 変換、文字の表現など

第 4 回目

コンピュータの基礎知識 1　ハードウェアの種類と役割

第 5 回目

コンピュータの基礎知識２　インターフェイスの種類と役割

第 6 回目

コンピュータの基礎知識３　ソフトウェア、OS について

第 7 回目

アルゴリズム　アルゴリズムの知識とプログラミング（疑似言語）の解読

第 8 回目

マルチメディア　マルチメディア技術やファイル形式について

第 9 回目

データベースの基礎知識　データベースの種類、データベース設計、データ操作など

第 10 回目

ネットワーク１　ネットワーク方式、プロトコルなど

第 11 回目

ネットワーク２　インターネットのしくみ、サービスなど

第 12 回目

情報セキュリティ　脅威とその特徴について

第 13 回目

情報セキュリティ対策１　セキュリティ対策の種類と特徴について

第 14 回目

情報セキュリティ対策２　暗号化技術について

第 15 回目

まとめテスト、解答・解説

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

・講義中心で行うが、必要に応じて実習も交える。　・定期的に小テストを行う。

・フィードバックとして、テスト実施後に解答の解説を行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

講義対象とする教科書の内容は事前に告知するのでその部分を読んで予習しておく。さらに章ごとに小テストを実施するので、毎回きちんと復習しておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度（４０%）、テスト（６０%）

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『令和 4-5 年度版 IT パスポート試験 対策テキスト&過去問題集令和 4-5 年度版/富士通エフ・オー・エム株式会社(FOM 出版)/FOM 出版/2022/978-4-938927-42-4/学内販売予定

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫システム構築、Web サイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

講義コード	GEN1202N0J
科目名	情報の科学と倫理
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	神月　紀輔
科目区分	共通教育科目 ＞ 共通教育科目（実践的科目）
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	メディア利用
曜日時限	土曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになっている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなってきている。本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを知るとともに，扱われる情報の価値や，人権問題にも目を向け基礎的な情報倫理の知識も知ることを目標とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. コンピュータの構造について学ぶ
2. 情報のデジタル化とアルゴリズムについて学ぶ
3. データサイエンスや AI の社会的意義を基礎的に学ぶ
4. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	情報の扱い自体を意識できない。	情報を人の扱うものとして考える	人のための情報のやり取りとはどのようなものか考える	デジタル技術を応用し，人の未来のための使い方を考える
知識・理解力	アナログとデジタルの区別がついていない	情報のデジタル化についてその仕組みを理解し，内部構造を理解できる。	情報のデジタル化の仕組みが理解でき，PC の内部構造や，その他の機器の構造を理解できる	さまざまなアルゴリズムを理解し，デジタル化された機器の長所・短所がわかる。
言語力	情報機器に関する用語を理解しようとしない。	プログラムを動かすための言語があることを理解する。	簡単なプログラミングができる。	プログラミング言語を理解し，生活の中で役立てる。
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	デジタル化の応用が生活の中にあることを考える	プログラミング的思考をする力がある	機器も含めて，人と人のコミュニケーションも生かして問題を解決しようとする
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない	先行研究をもとに，情報技術について考えようとする	考えた結果を，周囲の人たちと共有し，さらに自分の考えを深めようとする。	レベル 4 に加えて，情報ネットワークなども正しく用いて，考えを深める。
創造・発信力	自分勝手な，情報の発信を行う。	自ら，周囲の状況を踏まえて，情報の扱い方を考える	デジタル技術などを踏まえて，情報の扱い方を考える。	レベル 4 に加えて，情報モラルも加味しながら情報の扱い方を考える

③④授業計画

第 1 回目

授業の概要紹介

第 2 回目
情報理論とデジタル・アナログ
第 3 回目
ハードウェアとソフトウェア
第 4 回目
コンピュータの仕組みと OS，コンピュータの歴史
第 5 回目
コンピュータの発展　小テスト 1 回目と解説
第 6 回目
情報のデジタル化　数字，文字
第 7 回目
情報のデジタル化　音声，画像
第 8 回目
アルゴリズムとその考え方
第 9 回目
情報の検索と収集　小テスト 2 回目と解説
第 10 回目
情報の信頼性と信憑性
第 11 回目
知的財産権の保護
第 12 回目
情報通信の仕組みとセキュリティ
第 13 回目
高度情報化社会の展望と問題点，デジタルシティズンシップ
第 14 回目
情報モラルの考え方，小テスト 3 回目と解説
第 15 回目
全体のまとめ，自己評価
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
実施しない
②教育・学習の方法（Course Methods）
この講義は，全講義をオンライン学習によって行う。manaba コースを用いて講義前に授業資料・教材を配信する。
講義の流れ
1　manaba コースのコースニュースに予定を配信する
2　授業時間開始時に，manaba コースのコンテンツに教材を配信する。
3　コンテンツの指示に従って学習を進める
4　respon で毎回のコメントを提出し，自分の理解度を把握しておく
5　1 に戻る
6　月に 1 回のペースで小テストを行い，自分で学習の進捗を確かめる
respon を用いて講義ごとの振り返りを行い、授業への質問・感想などの記入を求め，授業内でフィードバックを行う。小テストを行うことにより，学びの定着を目指すので，小テストごとに学習の振り返りをするとよい。コンテンツの資料は全講義が終了するまで，復習や抜けた講義のために，いつでも閲覧できるようにしておく。
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
新たなトピックに入る前にキーワードや参考文献を提示するので学習を進めておくこと。なお、参考文献は図書館の指定図書のコーナーに配架する予定である。
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
45
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
30 点満点の小テストを 3 回実施し，授業への参加度（コメントの入力態度を含む）・毎回の respon への授業コメントおよ

び自己評価を加えた 10 点を加算し 100 点満点で評価を行う。3 回の小テストで合計点が 60 点に満たない場合は，補講期間に追試を実施する。

留意事項（Other Information）

オンラインによる学習のため，動画をみたり，respon の提出ができるように，PC やスマホの準備をしておく。

質問は manaba コースのスレッドで受け付ける。初回に受講の仕方を説明する。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

配布資料を中心に解説するので教科書は指定しない。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『情報とコンピューティング』/河村一樹/オーム社/2011/9.78427421086E12

『コンピュータを使わない情報教育アンプラグドコンピュータサイエンス』/兼宗進/イーテキスト研究所/2007/9.784904013007E12

『アルゴリズムの絵本』/(株)アンク/翔泳社/2003/9.784798104522E12

『パソコンの仕組みの絵本』/(株)アンク/翔泳社/2010/9.784798122526E12

『OS の仕組みの絵本』/(株)アンク/翔泳社/2011/9.784798124629E12

上記の参考文献は配布プリントに引用する予定である。また、これらの参考文献以外も講義時に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GEN2450A0J
科目名	AI とデータサイエンス入門
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	北村　美穂子、金光　安芸子
科目区分	共通教育科目
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・3 限

①科目の教育目標（**Course Description**）

AI(人工知能)とは何でしょうか？また，AI と聞いて何を思い浮かべるでしょうか？人間のようにおしゃべりするロボットでしょうか？人間の仕事を奪う脅威でしょうか？本科目では，近年，進歩が著しく，ビジネスにも広く活用されつつある AI と，AI 技術に密接に関連するデータサイエンスの基礎について学習します．AI については，人間の知能とどう違うのかを主眼におき，特に，コンピュータで言葉を扱う技術，自然言語処理について学びます．また，データサイエンスについては簡単な統計の知識やデータを可視化する方法を学びます．身につけた知識を実習で体感できるよう，プログラミング実習も行います．最後に社会的な問題にも触れ，人間と AI が共存する社会について考察できる知識を養うことを目標とします．

教育・学習の個別課題（**Course Objectives**）

データサイエンスの基礎・概要を学ぶ

プログラミング言語を理解・習得する

AI リテラシーを学ぶ

社会における AI・データの役割を学ぶ

ルーブリック表

DP	レベル **1**(不可レベル)	レベル **2**	レベル **3**	レベル **4**
データサイエンスの基礎・概要の理解	データの可視化・分析の方法がわからない	データの可視化・分析の方法を知っている	データを可視化・分析できる	データを可視化･分析して，課題を発見できる
プログラミング言語の理解と習得	プログラミング言語に興味がない	サンプルのプログラムを見ながら自分で書ける	サンプルのプログラムをベースに異なるプログラムを自分で書ける	サンプルのプログラムをベースに，目的に合うプログラムを自分で考えて書ける
AI リテラシーの習得	AI リテラシーに興味がない	AI リテラシーの力として，AI のしくみや原理の理解が必要なことを知っている	AI リテラシーの力として AI のしくみや原理を理解しようとし，専門知識を学んでいる	AI リテラシー関連の専門知識(機械翻訳など) が豊富で，他人にも説明できる
社会における **AI**・データの役割の理解	社会における AI・データの役割に興味がない	社会における AI・データの役割をなんとなく理解している	社会における AI・データの役割を理解している	社会における AI・データの役割を理解し，例をあげて説明することができる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　授業の目的・進め方についての説明，Wolfram アカウントの設定

第 2 回目

AI の背景にある技術とは　コンヒ?ュータのしくみ，AI リテラシーとは，社会の変化，身の回りの AI，ヒ?ック?テ?ータ，DX ，Wolfam 言語の基本操作の説明と実習

第 3 回目

データ活用のための基礎技術　データの種類，コンピュータ内でのデータの扱い（数字，文字，文字コード），数値や文字に関するプログラミング実習

第 4 回目
データ活用のための技術（構造化データと非構造化データ）　コンピュータ内でのデータの扱い（画像，音声），日常社会におけるデータ，画像や音声のデータを扱うプログラミング実習
第 5 回目
2-4 のまとめ，小テストおよび講評
第 6 回目
プログラミング言語概論(1)　プログラミングとは，機械が得意なこと・人間が得意なこと，自然言語との違い,アートプログラミング実習
第 7 回目
プログラミング言語概論(2)　プログラミング言語の歴史，種類とその特徴，アートプログラミングでの作品制作
第 8 回目
AI の事例(1) 機械翻訳　機械で言葉を扱うには（機械翻訳を例に），Wolfram|Alpha を用いた実習
第 9 回目
AI の事例(2) 自然言語処理全般　知識処理，知的情報検索，テキストマイニング，テキスト処理のプログラミング実習
第 10 回目
6-9 のまとめ，小テストおよび講評
第 11 回目
データサイエンスの基礎　データサイエンスに必要な数学・統計の基本，　データの収集・加工，基本的な統計計算とグラフ表示のプログラミング実習
第 12 回目
データビジュアライゼーション　日常社会におけるデータ可視化，様々なビッグデータ，データ可視化のプログラミング実習（ワードクラウド，地理データの可視化など）
第 13 回目
AI の技術（機械学習）　AI と人間の学習の違い，　教師あり・教師なし学習，機械学習のプログラミング実習（分類，予測，特徴検出など）
第 14 回目
AI が社会に与える影響　社会の中の AI，IoT とビッグデータ，データ駆動型社会，身近なデータを用いた AI・データサイエンスの体験実習
第 15 回目
まとめテストおよび講評と本授業の総括
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
なし
②教育・学習の方法（Course Methods）
毎回，講義とプログラミング実習を交えた授業を行なう．実習では主に Wolfram 言語を使い，講義で学習した内容を実際に体験することで理解を深める．また，必要に応じて作成したプログラムを提出する．授業後は毎回 respon を使って理解度をはかり，コメントを収集する．月に 1 回程度の小テストを実施し，理解度を確認する．テストの結果を元に講評を行い，必要に応じて再度講義に取り入れるなどして理解の定着を図る．プログラム実習や課題は自宅からオンラインでもできるので，授業で学んだことを復習すること．積極的・主体的に学んでほしい．
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
教科書の指定したところや事前に配布する教材（動画の場合あり）で，予習をして授業に参加すること．さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は事前に予告するので，準備をして参加すること．
AI・データサイエンス関係の事柄に日頃から興味を持ち，ニュースなどをよく見ておくこと．
前時の内容の復習をしっかりしておくこと．
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
30
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
授業参加（30%），レポート・課題（30%），小テスト・まとめテスト（40%）の総合点で評価する．
留意事項（Other Information）
プログラミングの知識・経験は問わないが，PC の基本操作やテキスト入力ができることを前提として授業を進める．授業

の内容をベースにして，オリジナルのプログラムを作って提出するなど，発展的な取り組みを歓迎する．

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

はじめての AI リテラシー（技術評論社）岡嶋裕史・吉田雅裕　（学内販売）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

Wolfram データサイエンス: https://www.wolfram.com/featureset/data-science/

Wolfram|Alpha: https://www.wolframalpha.com/

Wolfram Programming Lab : https://www.wolfram.com/programming-lab/

実務経験のある教員による実践的科目

現在, 最先端の AI 技術を含むプログラム言語をベースにしたアプリケーションのマーケティングや開発業務に携わっている教員が，その経験を生かし講義を行う．日本の IT 企業にて自然言語処理処理の研究開発に長年携わる，現在は Wolfram Alpha LLC コンサルタント.

講義コード	GBL1200A0J
科目名	文章作成法Ⅰ
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	吉田　智子
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	後期前半
⑤単位	1
備考	全 7.5 コマ
曜日時限	月曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

この授業では、学術的な文章作成の基礎を身につけることを最終的な目標とする。まず学術的な文章を読み込むことによって、文章の特徴を体で理解する。次に読み込んだ文章をモデルにすることで、類似した文章を書く力を身につける。模範となる多くの文章のインプットにより、自ら書く能力及び指摘された修正理由を理解する能力を獲得する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

(1) 音読トレーニングの手法を用いて、模範となる文章を読み込む。

(2) 相手に意味が伝わる読み方を工夫しながら、覚えるまで繰り返し読む。

(3) 読み込んだ文章の書き取りを行い、文体及び全体の構造など文章の流れを理解する。

(4) 読み込んだ模範の文章を模倣しながら文章を書き、複数の目で確認する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
言語･思考力	読み込んだ文章の意味が読み取れない。	読み込んだ文章の意味が理解でき、書き言葉を認識できる。	読み込んだ文章に対して、段落ごとの主題が理解できる。	読み込んだ文章を補法して、言いたいことを書き言葉で書く書くことができる。
創造･発信力	読み込んだ文章の内容と関連する言葉をみつけることができない。	読み込んだ文章の内容を自分の言葉で表すことができ、書き言葉と話し言葉との変換ができる。	読み込んだ文章に対して、各段落の内容を自分の言葉で説明できる。	読み込んだ文章と自分が書いた文章とを比較して、文体及び文章の構造の違いを説明できる。

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　文章作成力を養うために、なぜ音読トレーニングが必要なのかを理解する。

第 2 回目

文章の音読と鑑賞(1)　「文章１」の音読トレーニングを行い、聞き手の立場となって他人の音読を聞く。
朗読家によるストーリーの鑑賞も行い、伝わりやすい読み方について意見を交わす。

第 3 回目

文章の音読と文章の構成の分析　「文章２」の音読や書き取りを行い、文章の構成を分析し、概要がわかるタイトルをつける。書き取った文章の段落構成を行う。

第 4 回目

文章の穴埋め・タイトルつけ　聞き手を想定して、聞き手に合った読み方を考え暗記するまで読み込む。概要がわかるタイトル及びサブタイトルをつけてみる。「絶対語感、アルファ読み、ベータ読み」を理解し、自分の言語能力開発の目標を定める。

第 5 回目

文章の音読と鑑賞(2)　「文章３」の音読トレーニングを行う。再び朗読家によるストーリーの鑑賞も行い、自分の声を最大限に活かした読み方を見つける。

第 6 回目

文章によるコミュニケーション技術入門　「文章４」の音読、書き取り、タイトルつけなどの実習を行う。「一語一義（one word - one meaning）、一文一概念（one sentence - one idea）、一段落一話題（one paragraph - one topic）」を理解する。

第 7 回目

根拠を示すレポートの作成　模範の文章を参考に、根拠を示すレポートを作成する。作成したレポートの本文、タイトル、出典表示などを、これまで学んできたコミュニケーション技術のルールに照らし合わせて点検する。さらに、学術レポートの基準に照らして点検し、問題があれば書きなおす。

第 8 回目

書いたレポートの発表会　完成したレポートをグループ内で音読し合う。読み方、文章の構成、タイトルなどについて意見交換を行う。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母語である日本語の文章の構造を理解し習得する。読み込んだ文章を参考に、根拠を示すレポートを作成する。授業ではグループワークも行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

日々の生活において常に、自分の音読が役に立ちそうな場面を考える。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

課題（50%）、授業参加度（50%）から評価を算出する。

留意事項（Other Information）

後期の前半 7.5 回の授業なので、後期の 8 回目から開始する「文章作成法 ⅡA」との同時履修が可能である（同時履修を推奨）。外部講師（朗読家）を招いて実施する授業も複数回、予定されている。なお、この授業で実施される音読トレーニングの手法は外国語の習得にも役立つので、各自の学習中の外国語でも実践することをお勧めする。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『日本語の絶対語感』/ 外山滋比古 / 大和書房 / 2015 / 9784479305545

『コミュニケーション技術～実用的文章の書き方～』 / 篠田義明 / 中公新書/ 1986 / 9784121008077

『音読で外国語が話せるようになる科学』門田修平 / サイエンス・アイ新書 / 2020 / 9784815600747

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 / 佐渡島紗織・吉野亜矢子 / ひつじ書房 / 2010 / 9784894763685

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

テクニカルライターとして、複数のコンピュータ雑誌に実用的な文章を発表し続けてきた教員が、その経験を生かした講義を行う。

講義コード	GBL1201A0J
科目名	文章作成法Ⅱ
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	吉田　智子
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	後期後半
⑤単位	1
備考	全 7.5 コマ
曜日時限	月曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

この授業では、学術的な文章作成の基礎を身につけて、自分の考えを書き言葉で論理的に表現できるようになることを最終的な目標とする。模範的な学術文章の読み込みと書きとりを行いながら、学術的な文章の特徴を分析する。その後、学術論文の文章を利用した音声教材を作ることで学術的な文章を体得し、論文を書くための表現力を高める。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

(1) 音読トレーニングの手法を用いて、模範となる文章を読み込む。

(2) 読み込んだ文章の全体の構造及び文体、段落間の論理関係、引用のし方などを分析する。

(3) 学術論文の文章を利用した音声教材を作成することで、学術的な文章を体得する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
言語･思考力	読み込んだ文章の文体(書き言葉と話し言葉の違い)が理解できない。	読み込んだ文章の全体の構造、文体が理解できる。	一文一義の文が理解できる。	段落間の論理関係が成立するレポートが書ける。
創造･発信力	話し言葉を書き言葉に変えることができない。	読み込んだ文章の文体を変えたり説明することが説明できる。	一文一義の文を理解し、書くことができる。	表現したい内容を構造のある文章に書くためにアウトラインを構成することができる。

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　「文章作成法 I」の内容確認と本授業のガイダンスを行う。

第 2 回目

論文音読プロジェクト（1）　「論文１」の音読と書き取りを行い、書き取った文章の段落構成を行う。

第 3 回目

論文音読プロジェクト（2）　「論文２」の音読と書き取りを行い、書き取った文章にタイトルをつける作業を行う。論文特有の文章表現や段落構成を学ぶ。

第 4 回目

論文音読プロジェクト（3）　これまで読み込んできた論文を参考に、各自の興味のある論文を見つけてきて音読し、書き取りを行う。

第 5 回目

音声教材作成プロジェクト（1）　各自で見つけてきた論文の全体のキーワードを書き出し、内容を把握する。音声教材に利用する文章を決める。

第 6 回目

音声教材作成プロジェクト（2）　音声教材に利用する文章に対して段落ごとに概要を整理し、教材として何が伝えられるかを考える。効果的に伝えるための音読練習をする。

第 7 回目

音声教材作成プロジェクト（3）　プレゼンテーションソフト（PowerPoint）でスライドを作成し、音を録音して音声教

材を作成する。

第 8 回目

音声教材の発表会とフィードバック　完成した音声教材をグループ内で発表し合う。読み方、文章の構成、タイトルなどについて意見交換を行う。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

音読トレーニングを行う方法で文章を読み込み、まずは母語である日本語の文章の構造を理解し習得する。学術論文の一部の文章を利用し、音声教材を作成する。教材の作成には PC を利用する。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

日々の生活において、自分の音読が役に立ちそうな場面を考える。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

課題（50%）、授業参加度（50%）から評価を算出する。

留意事項（Other Information）

「文章作成法Ⅰ」の内容を習熟していることが前提である。後期の後半 7.5 回の授業なので、後期の 8 回目の後半（45 分間）からスタートする。後期の前半 7.5 回実施される「文章作成法 IA」との同時履修が可能である。

外部講師を招いて実施する授業も予定されている。なお、この授業で実施される音読トレーニングの手法は外国語の習得にも役立つので、学習中の外国語でも実践することをお勧めする。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『日本語の絶対語感』/ 外山滋比古 / 大和書房 / 2015 / 9784479305545

『コミュニケーション技術～実用的文章の書き方～』 / 篠田義明 / 中公新書/ 1986 / 9784121008077

『音読で外国語が話せるようになる科学』門田修平 / サイエンス・アイ新書 / 2020 / 9784815600747

『これから研究を書くひとのためのガイドブック』 / 佐渡島紗織・吉野亜矢子 / ひつじ書房 / 2010 / 9784894763685

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

テクニカルライターとして、複数のコンピュータ雑誌に実用的な文章を発表し続けてきた教員が、その経験を生かした講義を行う。

講義コード	GBL1452N0J
科目名	ＳＮＳコミュニケーションスキル
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	神月　紀輔
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・5 限

①科目の教育目標（Course Description）

インターネットや SNS(Social Network Service）の仕組みや内容を概観し，特性を理解しながら望ましいネットコミュニケーションのあり方を考え実践する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

・SNS の特性を知ること
・ネット上でのコミュニケーションの方法を考えることができる
・ネット上のトラブル回避や，相談期間の使い方を知る
・どのような機器になっても，コミュニケーションに必要な事柄を考えることができる

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	ネットの特性を理解しようとしない	人の話を聞こうとする	自分以外の人の考えに耳を傾ける	広い視野で物事を判断しようとする
知識・理解力	デジタルの知識を得ようとしない	デジタル技術の仕組みを知ろうとする	デジタル技術の仕組みを理解している	仕組みを理解したうえで, SNS のコミュニケーションの特性を理解している
言語力	わかりにくい言葉で話す	わかりやすい言葉を選ぶことができる	専門的な英語の略語などの意味を理解できている	英語でのメッセージのやり取りの方法を知っている
思考・解決力	トラブルがあっても放置する	コミュニケーションのトラブルについて考える	得られた知識を使いコミュニケーションについて問題を解決しようとする	動画や静止画・スタンプ・絵文字などの特性を理解し，ネットへの投稿ができる。
共生・協働する力	人と一緒に問題解決に当たらない	問題解決を周囲の人と当たろうとする	人の助けになろうとする。	関係機関やネット上の検索なども用いて，周囲の人と一緒に問題解決に当たる
創造・発信力	SNS などを使ってのネットコミュニケーションに興味がない	自分で考えて発信することができる	周囲の人や通信の相手のことを考えた発信ができる	相手にわかりやすい手段を創造し，よりよいコミュニケーションをすることができる。

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション　この授業の進め方（対面）

第 2 回目

現在の青少年のネット利用（オンライン）

第 3 回目

機器の発達と SNS（オンライン）

第 4 回目

パソコン通信からインターネットへ（オンライン）

第 5 回目
SNS の黎明期　電子掲示板（BBS）　（オンライン）
第 6 回目
電子メールと SNS，i-mode（オンライン）
第 7 回目
SNS の躍進　Mixi　（オンライン）
第 8 回目
SNS の発展　Facebook　Twitter（オンライン）
第 9 回目
LINE　Instagram　TicTok など（オンライン）
第 10 回目
SNS コミュニケーションの特性（オンライン）
第 11 回目
LINE マスターになろう（オンライン）
第 12 回目
子供たちに指導するには（オンライン）
第 13 回目
トラブルに巻き込まれたら（オンライン）
第 14 回目
未来型 SNS　これからの SNS（オンライン）
第 15 回目
まとめと自己評価（オンライン）
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
行わない
②教育・学習の方法（Course Methods）
身の回りにあるネットコミュニケーションの特性などに興味を持ちながら授業を受け，その内容を基に新たに自分としてどのように SNS やネット上のコミュニケーションを進めればいいか考える。基本的には復習中心でよいが，既習の内容をどのように生かしていくかの思考力は自分で伸ばす必要がある。授業後は毎回 respon を使って理解度をはかり，コメントを収集する。
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
日々の情報関係の事柄に興味を持ち，ニュースなどをよく見ておくこと。前時の内容の復習をしっかりしておくこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
30
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
授業を受ける態度（40%）：コメントなどの提出（内容も含む）　以前の自分と変わったかの自己評価（40%）：1 回目と 15 回目にアンケートをとり，それを基に自己評価する。コミュニケーションを取ろうとする態度（20%）：この授業におけるオンラインでのコミュニケーションに参加しようとする姿勢を評価する
留意事項（Other Information）
トピックは新しい SNS ができた場合などで変更することがある。
テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）
使用しない
参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）
授業中に紹介する
参考 URL(URL for Reference)
実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL2450A0J
科目名	情報処理
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	伊藤　泰子
科目区分	共通教育科目
学年	2 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	定員 26 人
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールと Web ページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Web ページの制作では、HTML タグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

・コンピュータの基礎知識　　・インターネットの機能としくみ
・電子メールのコミュニケーション特性　　・Web を利用した情報検索
・情報発信の役割を持つ Web サーバーや全文検索システムのしくみの理解
・プログラミング入門　　・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割
・HTML で記述する WWW の情報提供のしくみと可能性　　・HTML と CSS による Web ページ制作実習

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムの OS の名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ネットワークリテラシーの習得	ネットワークリテラシーに興味がない	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみの理解が必要なことを知っている	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみを理解しようとし、専門知識を学んでいる	ネットワークリテラシー関連の専門知識が豊富で、他人にも説明できる
Web ページによる情報発信の方法と可能性の理解	Web ページによる情報発信に興味がない	授業で扱う例題どおりの Web ページであれば HTML を記述して、公開できる	自分が情報発信したい内容の Web ページを制作して、公開できる	著作権や、画像のファイルサイズも考慮し、適切なタイトルや項目名の Web ページを制作して、公開できる
プログラミングの記述と可能性の理解	プログラミングの記述にも可能性にも興味がない	OS やアプリケーションがプログラムで記述されていることを知っている	授業で扱う例題のプログラムが理解できる	授業で扱う例題どおりのプログラムであれば記述して、実行できる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　　・授業概要の説明　・簡単な Web ページ作成体験

第 2 回目

コンピュータの基礎知識　　・メモリ、補助単位　・ハードウェア　・ソフトウェア

第 3 回目

インターネットでできること　・インターネット上の機能（電子メール、Web ページなど）の理解と利用　・電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解

第 4 回目

データ・ファイル形式について　・メーリングリストの登録　・バイナリデータ、テキストデータのデータ形式と役割　・画像形式の種類と特徴

第 5 回目

コマンドを利用したコンピュータ操作　・ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解　・コマンド実習

第 6 回目

Web ページの批判的閲覧　・Web ページを利用した情報検索

第 7 回目

World Wide Web について　・HTML で記述する WWW の情報提供のしくみと可能性

第 8 回目

Web ページ制作実習(1)　HTML 基本　・文書構造の定義

第 9 回目

Web ページ制作実習(2)　HTML 応用　・画像挿入　・リンク設定　・表作成など

第 10 回目

Web ページ制作実習(3)　CSS 基本　・文書構造要素に対するデザイン作成

第 11 回目

Web ページ制作実習(4)　CSS 応用　・ID やクラスを使った細かなデザイン作成

第 12 回目

プログラミング実習　・JavaScirpt を利用したプログラミング実習

第 13 回目

Web ページ課題作成(1)　・サイト企画

第 14 回目

Web ページ課題作成(2)　・コンテンツ、デザイン作成

第 15 回目

課題提出とまとめ　・ファイル転送による Web ページの学内公開、　・まとめテスト、解答・解説

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、小テストやレポート課題も課す。教科書として、『改訂新版インターネット講座』を使う。フィードバックとして、試験・レポート提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

毎回の授業の講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は事前に予告するので、準備をして参加すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度（30%）、レポート・課題（20%）、テスト（50%）の総合点で評価する。

留意事項（Other Information）

本科目を履修するにあたっては、「情報演習 I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『改訂新版インターネット講座』/吉田智子　他著/北大路書房/2014//学内販売予定

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

http://www.notredame.ac.jp/~yito/ipro.html

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫システム構築、Web サイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

講義コード	GBL2451N0J
科目名	プログラミング演習
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	伊藤　泰子
科目区分	共通教育科目
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	定員 24 人
曜日時限	火曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

プログラミングを通して、コンピュータの働きや処理方法を理解していく。今後の様々な課題を、情報技術を活用しながら解決していけるような、論理的・創造的な思考、及びプログラミング技術を養うことを目標とする。はじめはビジュアルプログラミングソフト・Scratch を利用し、簡単なブロック操作でプログラムの流れを理解する。次に基本的なアルゴリズムについて学習し、適切な問題解決方法について考える。最後は JavaScript を使い、本格的なコード記述式のプログラムを作成し、実践的なプログラミングスキルを習得する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

・基本制御構造を理解
・イベントに対応したプログラムの作成
・代表的なアルゴリズムの理解と評価
・コード記述式のプログラムの作成

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
制御構造の理解	制御構造がわからない	個々の制御構造が理解できる	制御構造を組み合わせてコーディングできる	逐次・選択・反復を適切な順序で組み合わせて、要求に応じたプログラムを完成できる
イベントに対応したプログラム作成	イベントがわからない	イベントの種類がわかる	イベントに対応した処理が実行できる	ユーザーエクスペリエンスを意識したプログラムを作成できる
アルゴリズムの理解	アルゴリズムを知らない	代表的なアルゴリズムを知っている	代表的なアルゴリズムが理解できる	代表的なアルゴリズムをプログラムで表現できる
プログラミングの記述と可能性の理解	プログラミングの記述にも可能性にも興味がない	授業で扱う例題どおりのプログラムであれば記述して、実行できる	与えられた課題のプログラムを記述して、実行できる	自分が作りたいプログラムの仕様を考えて記述し、実行できる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　・授業概要の説明　・Scratch　アカウントの作成など

第 2 回目

Scratch の基本　・ステージ、スプライト、スクリプトとは　・「動き」「見た目」「音」ブロックの利用

第 3 回目

プログラムの基本１　・「制御」ブロックの利用　・繰り返し処理、分岐処理

第 4 回目

プログラムの基本２　・「変数」ブロックの利用

第 5 回目

イベント処理　・「イベント」ブロックの利用

第 6 回目

Scratch の応用　・ブロック定義、リストの利用

第 7 回目

アルゴリズム１　・サーチ（線形探索）、最大値最小値

第 8 回目

アルゴリズム２　・ソート（バブルソート、選択ソート、挿入ソート）

第 9 回目

アルゴリズム３　・ソート（シェルソート、クイックソート）・アルゴリズムの評価

第 10 回目

Web ページ作成技術　・HTML と CSS

第 11 回目

JavaScript１　・JavaScript とは

第 12 回目

JavaScript２　・基本制御構造（順次、反復、選択）

第 13 回目

JavaScript３　・イベントを利用したコードプログラミング

第 14 回目

JavaScript４　・さらにイベントを活用したプログラミング作成

第 15 回目

JavaScript５　・JavaScript 課題作成

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

実習形式で行う。適宜、演習課題や小テストも課す。フィードバックとして、課題・テスト提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

積み上げ式の授業なので、特に予習をする必要はないが、復習は必ず行う。毎回宿題を出すので、自分のペースでじっくり復習しながら問題を解いていく。わからない部分は必ず質問すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度（３０%）、課題（５０%）、テスト（２０%）

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

使用しない。適宜、必要資料を配布。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

ウェブプログラミング演習　http://www.notredame.ac.jp/~yito/js/index.html

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫システム構築、Web サイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。

講義コード	EGF1100A0J
科目名	英語英文学基礎演習Ⅰ
ND6	DP1：自分を育てる力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	小山　哲春、大川　淳、田口　茂樹、木島　菜菜子、喜多　容子、東郷　多津
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 英語英文学科
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	月曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

本科目は、英語英文学科初年次生を対象とし、大学での「学び」について理解し、基本的な「学び方」を習得することを目的とします。それまでとは違う大学というシステムの中で４年間自律的に学び成長するために、大学初年度に身につけるべき知識、態度、アプローチ、スキルなどを総合的に学ぶための科目です。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

１．大学における学びの仕組み（単位の取得やカリキュラム）を理解し、そのシステムの中で有効に機能するための知識と技能を身につけること。

２．大学における自立的な学びの方法を理解し、具体的な方法（授業への臨み方、情報収集と整理の仕方、レポートや論文作成の方法、プレゼンテーションやディスカッションの技術）を習得する。

３．英語英文学科の４年間のカリキュラムを理解し、その中で自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を構築する。

４．英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション、学科紹介、大学の魅力、有意義な大学生活と環境　／　個別セッション

第 2 回目

ノートの取り方

第 3 回目

情報の調べ方／図書館オリエンテーション

第 4 回目

個別セッション　（情報収集に基づいたディスカッション）

第 5 回目

書くことの重要性／レポートや論文を書く／剽窃

第 6 回目

個別セッション（Report 1 の Peer Review）

第 7 回目

クリティカルシンキング／議論の立て方

第 8 回目

個別セッション（Report 2 の Peer Review と演習）

第 9 回目

議論の立て方 revisited / Supporting Materials

第 10 回目

CA Final 返却 + コメント /　書くことの重要性／レポートや論文を書く／剽窃 revisited

第 11 回目

個別セッション（Final Paper Draft の Peer Review と演習）

第 12 回目

個別セッション（Final Paper Revision の Peer Review と演習）

第 13 回目

Oral Presentation 1（第１日：　学籍番号順　前半グループ）

第 14 回目

Oral Presentation 2（第 2 日：　学籍番号順　中盤グループ）

第 15 回目

Oral Presentation 3（第 3 日：　学籍番号順　後半グループ）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

全体講義および演習と個別セクションに分かれての演習をセットとし、これを繰り返しながら上記の個別課題の達成を目指す。個人の課題とグループ課題等をバランスよく取り入れ、既存知を受動的に受け入れるのではなく、能動的に自らの中に知識と技術を確立していくための方法を採用する。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

毎回の授業において、各トピックに適切な準備方法が提示される。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

(1) Short Paper x 5: 50%

(2) Report x 2: 30%

(3) Final Paper: 20%

留意事項（Other Information）

クラス指定

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『知のツールボックス』/専修大学出版企画委員会編/専修大学出版局/2009/9.78488125226E12/学内販売予定

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSB1600P0J
科目名	基礎演習Ⅰ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	石川　裕之、平野　美保、朱　鳳、蜂矢　真弓、鷲見　朗子、中里　郁子、吉田　朋子、河野　有時、岩崎　れい、久野　将健、鎌田　均
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 国際日本文化学科
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	必修　クラス指定
曜日時限	木曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

「基礎演習」は、国際日本文化学科１年次生を対象として、大学での「学び」について理解するとともに、「学び方」の基礎を習得するための授業である。前期の基礎演習は、大学の授業や単位の仕組みを理解し、これから求められる「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を養うことを目標とする。また、大学での新しい人間関係を構築していくことを目指している。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1　大学での「学び」について理解する。
2　大学の授業や単位の仕組みを理解する。
3　図書館の利用の仕方を理解し、文献や資料を収集する。
4　時事問題を理解する。
5　レポートの書き方の基礎的な方法を理解する。
6　レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。
7　学生や教員と互いに学び合う関係を築く。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組み、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組み、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見をもち、他者に伝えようとしない。	自分の意見をもち、他者に伝えようとすることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段と手法とによって伝えることができる。

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　ガイダンス—大学での「学び」

第 2 回目

授業の受け方　実践的なノート・テイキング

第 3 回目

日本語表現　日本語表現演習（1）—会話と語彙／理解を深めるためのノート・テイキング

第 4 回目

日本語表現　日本語表現演習（2）—敬語表現／時事問題

第 5 回目

日本語表現　日本語表現演習（3）—言葉の意味／図書館について

第 6 回目

日本語表現　日本語表現演習（4）—文法と言葉遣い／図書館を利用して資料を検索する

第 7 回目

日本語表現　日本語表現演習（5）—手紙での言葉遣い／著作権　剽窃と引用

第 8 回目

日本語検定模擬試験（オンライン）　日本語検定模擬試験

第 9 回目

個人面談　個人面談／時事問題

第 10 回目

レポートの書き方（オンライン）　レポートの書き方

第 11 回目

文献読解　文献読解（1）—内容把握

第 12 回目

文献読解（オンライン）　文献読解（2）—精読

第 13 回目

文献読解　文献読解（3）—要約作成とクリティカル・リーディング

第 14 回目

文献読解　文献読解のまとめ—ふり返りとレポート作成

第 15 回目

まとめ　基礎演習前期まとめ—後期にむけて

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1　授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。
2　一部の回はオンラインで実施する。
3　日本語検定試験にむけた演習を行う。
4　情報検索方法を学び、実践する。
5　収集した資料を読み内容を理解する。
6　理解した内容をレポートにまとめてみる。
7　レポートに対するコメントを読み、レポートを完成させる。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1　テキストを読んで、内容を理解しておく。
2　疑問に思ったことや分からなかったことを書き出しておく。
3　課題に対して積極的に取り組む。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

以下の方法・基準によって評価する。

（1）課題への取組姿勢と内容：70％
（2）学期末提出レポート：30％
ただし、欠席５回以上で、単位の取得は困難となる。

留意事項（Other Information）

テーマや授業の順序は変更することがある。オンライン授業の回は変更することがある。
外部講師による招待講演を実施することがある。
学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナヴィゲーター』（くろしお出版、2007・４）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGF1150A0J
科目名	英語英文学基礎演習Ⅱ
ND6	DP1：自分を育てる力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	小山　哲春、大川　淳、田口　茂樹、木島　菜菜子
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 英語英文学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	月曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

本科目では、前期基礎演習 I で習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック（英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学・英語学、外国語習得・教授法、等）に関して具体的な学びに触れながら、二年次以降の専門教育の履修が円滑に進むよう準備を行う。特に論文（レポートおよび Academic Paper）の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。
2. 上記それぞれの学術領域における基本的な論文（レポート・Academic Paper）の書き方を習得し、二年次以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。
3. 英語英文学科の学生として学びのコミュニティーを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

③④授業計画

第 1 回目

Orientations / Critical Thinking Revisited

第 2 回目

Argumentation & Debate

第 3 回目

領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review（文献の批判的レビュー）

第 4 回目

領域別演習 Session 1 Week 2: on Research Questions（問題・課題の設定）

第 5 回目

領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis （分析の行い方）

第 6 回目

領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review & Revision

第 7 回目

領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review（文献の批判的レビュー）

第 8 回目

領域別演習 Session 2 Week 2: on Research Questions（問題・課題の設定）

第 9 回目

領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis （分析の行い方）

第 10 回目

領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review & Revision

第 11 回目

領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review（文献の批判的レビュー）

第 12 回目

領域別演習 Session 3 Week 2: on Research Questions（問題・課題の設定）

第 13 回目

領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis （分析の行い方）

第 14 回目

領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review & Revision

第 15 回目

Review & Discussion

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して導入講義演習を行う。

<2> それぞれの領域における Critical Literature Review を行う。

<3> 受講生が自らの意思で選択した１領域（あるいは複合領域）における研究論文を完成させる。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

学期を通じ、各領域（文学、言語学、コミュニケーション学）で研究論文を１本づつ完成させる。各領域の研究論文執筆にそれぞれ４週間を費やし、４週間の中で Critical Literature Review、Peer Review、Revision 等の演習を行う。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

45

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

(1) 授業参加（出席、講義へのリアクション、作業、WS の提出等）25 %

(2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 = 15 %

(3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper：試験に相当：各領域で解説) 20 x 3 = 60 %

留意事項（Other Information）

本科目は、4 名の教員による共同開講形式で展開され、合同演習と個別演習によって構成される。個別演習期間は受講生はグループに分割され、それぞれのグループが個別演習（文学、言語学、コミュニケーション学領域）をそれぞれ順に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては授業中の指示に従うこと。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSB1650P0J
科目名	基礎演習Ⅱ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	石川　裕之、平野　美保、朱　鳳、蜂矢　真弓、鷲見　朗子、中里　郁子、吉田　朋子、河野　有時、岩崎　れい、久野　将健、鎌田　均
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 国際日本文化学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	必修　クラス指定
曜日時限	木曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

後期の「基礎演習」は、前期での学びをさらに深め、２年次の「発展演習」へと繋げていく授業である。この授業では、「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を高めるとともに、基本的なプレゼンテーションの方法を習得することを目標とする。また、教員や友人と互いに学び合う関係を構築していくことを目指している。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

（1）資料を読み、書かれた内容を理解する。
（2）資料に書かれた内容について考察する。
（3）基本的なプレゼンテーションの方法を習得する。
（4）人の意見を聞く態度を養う。
（5）学生や教員と互いに学び合う関係を築く。
（6）レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組み、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組み、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について、理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見をもち、他者に伝えようとしない。	自分の意見をもち、他者に伝えようとすることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段と手法とによって伝えることができる。

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション、文献読解（1）―人口減少の先にあるものは―

第 2 回目

文献読解（2）―いのちの現場から―（オンライン）

第 3 回目

文献読解（3）―流動化する世界―（オンライン）

第 4 回目

レポート作成（1）―大学での学びとライティング、わかりやすく説明する―

第 5 回目

レポート作成（2）―説得力のある主張をする―

第 6 回目

レポート作成（3）―レポートの基礎知識、レポートを書く―、大学図書館を利用てみる

第 7 回目

レポート作成（4）―引用・注・参考文献表、ミニレポートを書く―

第 8 回目

一斉授業―分属説明会―

第 9 回目

個別面談

第 10 回目

プレゼンテーション（1）―大学での学びとプレゼンテーション、プレゼンテーションとは―

第 11 回目

プレゼンテーション（2）―高度なプレゼンテーションをする―

第 12 回目

プレゼンテーション（3）―ドキュメントを使ったプレゼンテーション

第 13 回目

プレゼンテーション（4）―発表とピアレビュー―

第 14 回目

公共図書館を利用してみる

第 15 回目

学期末レポート準備、基礎演習（後期）まとめ―発展演習にむけて―

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

（1）授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。

（2）一部の回はオンラインで実施する。

（3）文献や資料を読み内容を理解する。

（4）文献や資料に書かれた内容について考察する。

（5）自身の考察をレポートにまとめる。

（6）プレゼンテーションの基礎的な方法を理解する。

（7）プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する。

（8）プレゼンテーションの内容をレポートにまとめる。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

（1）テキストを読んで、内容を理解しておく。

（2）課題に関連する参考文献や資料を調査する。

（3）自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

以下の方法・基準によって評価する。

（1）課題への取組姿勢と内容：70%

（2）学期末レポート：30%

ただし、欠席５回以上で、単位の取得は困難となる。

留意事項（Other Information）

テーマや授業の順序は変更することがある。オンライン授業の回は変更することがある。

外部講師による招待講演を実施することがある。

学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

中澤務・森貴史・本村康哲編『知のナヴィゲーター』くろしお出版、2007 年

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL200
科目名	アルゴリズム基礎
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	北村　美穂子
科目区分	共通教育科目
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2

①科目の教育目標（Course Description）

本授業では，コンピュータプログラミングでの基本的なアルゴリズム（ソート，探索，グラフ理論）や，実社会で使われているソフトウェアのアルゴリズムを学ぶことにより，自ら「問題を解決するための手順」を導くための思考法を身につけることを目標とする.

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス

第 2 回目

アルゴリズムとは

第 3 回目

アルゴリズムの記述方法

第 4 回目

アルゴリズムの作成　その１【実習・第１回課題提出】

第 5 回目

アルゴリズムとプログラミング

第 6 回目

アルゴリズムとデータ構造

第 7 回目

簡単なコンピュータアルゴリズム【実習】

第 8 回目

基本アルゴリズム１（ソート）

第 9 回目

基本アルゴリズム２（探索）

第 10 回目

基本アルゴリズム３（グラフ理論）

第 11 回目

アルゴリズムの作成　その１【実習・第２回課題提出】

第 12 回目

Web 検索のアルゴリズム

第 13 回目

セキュリティのアルゴリズム

第 14 回目

人工知能とアルゴリズム

第 15 回目

確認テストとまとめ

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

②教育・学習の方法（Course Methods）

アルゴリズム」の本質（対象データと手順）を理解する

・コンピュータアルゴリズムの基礎（ソート，探索，グラフ理論）を習得し，自ら実践する
・身近なツールや AI（人工知能）の分野で使われているアルゴリズムを学ぶ
・問題解決に役立つ思考法を習得する

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

参加積極性(respon 回答等)を考慮した授業参加度 30%，課題提出(2 回)50%，確認テスト 20%の総合点で評価する．

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

おうちで学べるアルゴリズムの基本，鈴木 浩一，翔泳社

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL3400
科目名	ＡＩとデータサイエンス
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	北村　美穂子
科目区分	共通教育科目
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2

①科目の教育目標（Course Description）

本授業は，AI とデータサイエンス入門での学びを応用・実践するためのデータ分析手法や機械学習の手法や応用事例を学ぶ．また，近年急速に発展した生成系 AI に代表される深層学習の基礎技術も学び，社会における活用，その倫理的課題についても考える．種々の手法については，実データ、実課題を用いた演習を行うことで，現実の課題へのアプローチ方法および AI やデータサイエンスの適切な活用方法を学び，データによる意思決定やデータ活用によって新しい価値を提案できる力を身につける．

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス

第 2 回目

社会におけるデータサイエンス・AI 活用事例

第 3 回目

データの収集，加工・前処理

第 4 回目

データ分析手法１（検定・相関）

第 5 回目

データ分析手法２（可視化）

第 6 回目

AI 概論（歴史，エキスパートシステム，フレーム問題）

第 7 回目

機械学習 1（回帰）

第 8 回目

機械学習 2（分類）

第 9 回目

機械学習 3（クラスタリング）

第 10 回目

深層学習の基礎と利用

第 11 回目

AI 応用 1（自然言語処理（機械翻訳））

第 12 回目

AI 応用 2（自然言語処理（知識表現，質問応答）

第 13 回目

AI 応用３（画像処理（分類，人物判定））

第 14 回目

AI 倫理（AI の社会的受容性 ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い）

第 15 回目

全体のまとめ，課題レポート発表

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

②教育・学習の方法（Course Methods）

・データ分析の基礎技術（データ収集，加工，データ可視化）を身につける．

・基本的なデータ分析手法や機械学習の手法について理解し，活用できる力を身につける．

・AI やデータサイエンスを利活用する際の倫理的な課題について理解を深める．

・深層学習の基礎技術を学び，社会への影響・課題について考える．

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業への参加度 50%（各回小テスト実施），課題レポート及び発表 50%

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSA2259N1J
科目名	インターネット社会論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	吉田　智子
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 国際日本文化学科
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・1 限

①科目の教育目標（**Course Description**）

インターネット環境は 1990 年代以降、急速に世界中に広まった。この新しいメディアは、かつてのものとは異なる発展形態をもっているため、従来のメディア研究の常識では理解しきれない要素も多い。そこでまず、コンピュータとインターネットの発展の社会的背景とテクノロジーについて学ぶ。その後、LINE、twitter、Facebook に代表される SNS(Social Networking System)の発展、さらには人工知能(AI)の発展に寄与している要素を考える。現在のデジタル社会を正しく考察できる知識の習得を目標としたい。

教育・学習の個別課題（**Course Objectives**）

以下の内容を理解する。

・コンピュータとインターネットの発展
・SNS の発展を可能にした各種のテクノロジー
・データや AI にまつわるセキュリティ
・silent majority（静かなる大衆）が手に入れた SNS
・ビッグデータ、IoT、AI の関係性と社会の変化

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
コンピュータやインターネットの発展に関係する各種テクノロジーの理解	トランジスターをはじめとする各種のテクノロジーを理解していない。	テクノロジーに関して、授業で扱う内容を理解している。	テクノロジーに関して、授業で扱う内容の背景や、その発展について理解している。	最新のテクノロジーに興味を持ち、社会的意味を常に考えている。
SNS の本質の理解	SNS を使っているが本質を理解していない。	SNS の発展を可能にしたテクノロジーに関して、授業で扱う内容を理解している。	SNS の発展を可能にしたテクノロジーに関して、授業で扱う内容の背景やその発展について理解している。	SNS の発展を可能にしたテクノロジーに関して興味を持ち、社会的意味を常に考えている。
ビッグデータ、IoT、AI の関係性の理解	ビッグデータ、IoT、AI について理解していない。	ビッグデータ、IoT、AI に関して、授業で扱う内容を理解している。	ビッグデータ、IoT、AI に関して、授業で扱う内容の背景やその発展について理解している。	ビッグデータ、IoT、AI に興味を持ち、社会的意味を常に考えている。

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　授業概要、ネット社会を理解する上でのキーワード（コンピュータ、インターネット、IoT、ビッグデータ、AI など）

第 2 回目

進化するテクノロジーと社会　第 4 次産業革命、Society5.0、第五の権力としての SNS(Social Networking System)、silent majority（静かなる大衆）が手にした SNS の社会的意味

第 3 回目

SNS の発展を可能にしたテクノロジー(1)　コンピュータの小型化の歴史、ムーアの法則、半導体、ﾄﾗﾝｼﾞｽﾀｰ、CPU とは？

第 4 回目

SNS の発展を可能にしたテクノロジー(2)　コンピュータ、インターネット環境の発展と背景となったテクノロジー

第 5 回目

SNS の発展を可能にしたテクノロジー(3)　日本の携帯電話事情（組み込み OS のガラケーから汎用 OS のスマホへ）、iPhone と Android のビジネスモデル（iOS は Apple 社の商品、Android はオープンソース）

第 6 回目

インターネット環境で育った独自のネット文化　インターネットの独自の文化とは。1990 年代になってからの WWW 発明と商用利用の解禁によるネット文化の変容

第 7 回目

ビッグデータと AI の関係性と社会の変化(1)　AI の定義と期待、現在の AI の限界

第 8 回目

ビッグデータと AI の関係性と社会の変化(2)　ビッグデータの定義とデータ駆動型社会

第 9 回目

ビッグデータと AI の関係性と社会の変化(3)　データがお金を生み出すしくみ、機器のログとオープンデータ

第 10 回目

ビッグデータと AI の関係性と社会の変化(4)　データ・AI の活用領域の広がり、シェアリングエコノミー、データサイエンティスト

第 11 回目

データや AI にまつわるセキュリティ　情報セキュリティの基礎、情報の CIA（機密性、完全性、可用性）、暗号化と匿名加工情報

第 12 回目

ネット時代に関する考察(1)　まとめと各自の学期末レポートのテーマ決定

第 13 回目

ネット時代に関する考察(2)　各自のレポートのテーマとこれまでの授業内容の関連を考える、情報収集とレポートの構成の確認

第 14 回目

ネット時代に関する考察(3)　「ネット時代に関する考察」に関するレポートの提出と情報共有

第 15 回目

まとめ　確認テストの実施と解説。解答や講評は manaba でも公開

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

講義中心で行う。各自が作成した「ネット時代に関する考察」をテーマとしたレポートの企画、情報共有も授業内で行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度（30%）、レポート（35%）、まとめテスト（35%）の総合点で評価する

留意事項（Other Information）

外部講師を招いて特別授業を実施することがある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『はじめての AI リテラシー』/岡嶋裕史・吉田雅裕/技術評論社/2021/978-4-297-12038-2/学内販売有

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『SNS って面白いの？』/草野真一/講談社/2015/　　『コンピュータ技術者になるには』/宍戸周夫/ぺりかん社/ 2010/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDR3203N1J
科目名	マーケティング論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	新村　佳史
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

「映画が好き、食べることが好き、音楽が好き、彼氏も好き」・・好き、という言葉は何にでも使えますよね？でも、「好き」の中身は微妙に異なるはずです。なんとかその違いを、うまく言い表せないかな、と考えたときに、役に立つのが「数字」です。感覚的なことを、上手に数値化する、というのが現在の「マーケティング」です。数字で語ることができる、数字を読むことができる基礎を学ぶ授業です。また、数字を使うための上手な調査―アンケートの作り方については、時間をかけてじっくり学べるように考えています。正しい情報、データを見抜き、賢い消費者になれる力を育てます。数学が苦手でも、数字の面白さがわかるように進めていきます。これからの時代を上手に生きていくために必要な力を身につけてください。特に、大事なお金の使い方については丁寧に指導していきます。広告にだまされない知恵を身につけましょう。良い生活者となるための授業です。数学が苦手な人でも大丈夫ですよ。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

・データの読み方、集め方　・企業の商品開発の進め方・・集めたデータから何を取り出すか　・イメージの数値化・・好き、嫌いの感覚を分析する手法　・自分がビジネスをするとしたら・・ビジネスチャンスをデータから発見する　・調査票を作る・・データは取り方で変化する　・調査結果を加工、報告する・これからの時代のお金の運用・・大事なお金を減らさないために

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	社会に関心がない	社会の中の自己、を意識できる	社会の中での自分の位置づけを意識する	自分が今の社会で何を期待されているのかを理解する
知識・理解力	データに興味がない	自分の好みをデータとして処理できるようになる	時系列的なデータの意味をつかめるようになる	データ上の特異点を見抜く力を持つ
言語力	アンケートの作り方に関心がない	アンケートは聞き方によって変化することを理解する	簡単な言葉ほど人によって感じ方が変わることを理解する	仮説を確認できる上手なアンケートを作る
思考・解決力	仮説が立てられない	自分と他者の違いを理解する	他者についての仮説が立てられる	仮説が正しかったか検証できる
共生・協働する力	他者の好みに関心が持てない	他者の話を聞き、自分との違いを確認したうえで相手を認める	アンケート制作、分析の共同作業にきちんと参加できる	他者を認めた上で自分の好みを認識、自分の長所を知る
創造・発信力	好きなことを他者に伝えられない	自分の主観を客観的にとらえ直すことが面白くなる	他者の興味を理解したうえで自分の感想を発表できる	新商品開発の課題に積極的に取り組める

③④授業計画

第 1 回目

なんで私はこれが好き？　　自分たちの「好み」とその形成をふりかえって　好きになるって何？

第 2 回目

みんなに買ってもらうために　　企業が「好み」をつかまえる技術・・マーケティングの考え方と流行の誕生

第 3 回目

知るから、買うまでの段階　　ニーズから行動へ　購買行動を考える・・あなたの買い方はみんなと同じですか

第 4 回目
流行は誰が作る　　リーダーはどこにいる　イノベーターという考え方
第 5 回目
細分化されるターゲット　　テレビ番組やコマーシャルのターゲットは誰でしょう・・万人向けから、個性的なターゲットへ　マスメディアから SNS へ
第 6 回目
アンケートで作られる「今の時代」　　質問紙作成のテクニック　調査は『聞き方』で決まる
第 7 回目
聞きたいことを聞いてみる　　グループで調査計画、質問紙を作成してみよう
第 8 回目
聞いた結果をどう見せる？　　調査結果の上手な報告の仕方について
第 9 回目
上手な発表の仕方　　グループごとに調査結果を報告してみよう
第 10 回目
あなたは買い物上手ですか？　　消費者集団とはなにか　自分ははたして「普通」だろうか
第 11 回目
これからの時代に求められるセンスとは　　差別化戦略とその具体的な方法論
第 12 回目
流行に負けないために　　マーケティングはどんな業種で求められているのか、そしてみなさんをどう巻き込もうとしているのか
第 13 回目
お金はどう使うのが良いのだろうか　　これからの経済と、お金の守り方について
第 14 回目
持ち込み可　　試験（１時間）これからのマーケティングの課題
第 15 回目
添削して返却します　　試験解説、総論、まとめ、および今からの資産運用について
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
実施しない
②教育・学習の方法（Course Methods）
基本的には自分の好みをなんとか数字にして、データを個々で蓄積していきます。 また簡単なアンケート票の作成、発表をグループ単位で実施。実践的な演習を行ないます。各自の趣味、関心について「自分がなぜそれを好きになったのか」を探りながら、現代社会における企業の戦略についても各々が「気づく」ことを意識して授業を進めます。それにより、社会や企業活動に関心が深まることを期待しています。グループでの共同作業が多くなりますので、積極的に授業にかかわってください。発表についてはその際に問題点の指摘など細かくフィードバックを行います。
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
自分が好きなこと（音楽、ファッション等なんでもいいです）の理由をいつも考えておいてください。あなたはなぜ、それが好きなんですか？ペットと彼氏とスイーツの「好き」に順位をつけることはできますか？とにかく考えることを重視します。その良さを上手に他人に伝えましょう。きっと友達が増えますよ。毎回、みなさんに質問を投げかけていきます。
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
30
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
授業に対する積極的な参加姿勢（３０%）。授業内での課題への評価（３０%）。 授業期間内での試験（４０%）。 授業中の積極的な発言、課題への真剣な取り組みを高く評価します。試験については最後の授業で詳しく解説を行うほか、添削を加えて各自に返却します。
留意事項（Other Information）
グループ作業が多い授業です、積極的に人と話すことが求められます。グループの仲間に迷惑をかけないように、きちんと出席してくださいね。
テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）
特定のテキストは使用しません。毎回、プリントを準備します。プリントはみなさんが各自保存し、毎時、持参してくだ

さい。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EDN3402N1J
科目名	情報教育
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	神月　紀輔
科目区分	現代人間学部 ＞ こども教育学科 ＞ こども教育学科（実践的科目）
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・5 限

①科目の教育目標（Course Description）

情報教育の目標である「情報活用能力の育成」について理解し，今後の生活に役立てるとともに，地域で指導できる人材の育成を目指す。情報機器や情報を活用した授業案の作成を行うことができ，授業実践ができる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

情報活用能力の３つの構成要素（情報活用の実践力・情報の科学的理解・情報社会に参画する態度の育成）に関して正しく理解し、社会で生かせるようにする。情報を活用した授業が，各教科だけでなく特別活動・総合的な学習の時間などでも実践できるようにする。AI やデータサイエンスの考え方や小学校におけるプログラミング教育の教育的意味を知り，教育活動に無理なく取り入れることができる指導者になる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	情報教育の目標を理解できない	情報活用能力を理解している	各観点における，教育や問題点を理解している	各教科や保育での除法教育の在り方が完全に理解でき，人に教えることができる。
言語力	情報教育における用語を理解できない	情報教育に関する用語を理解できる	情報教育に関する外国語の用語の意味を理解できる	ディスカッションで，用語を確実に使うことができ，英語などを用いて自分の考えを話すことができる
思考・解決力	様々な情報を問題解決に活用しない	情報を活用した，問題解決を考えることができる	なぜその情報はそこにあるのか熟考し，活用を考えることができる。	子供の実態に応じた，情報の活用を考えることができ，発達年齢に配慮しながら，情報活用の力をつけようとする
共生・協働する力	自分の考えでのみ動いてしまう	人と話し合い，問題を解決しようとする	教員で話し合い，チームとして子供の指導に当たることができる	Web やネットの特性も理解したうえで，遠隔会議や e-Learning にも積極的に参加し，他者と協働して成果を上げようとする
創造・発信力	情報教育の目標に合う授業を考えることができない	情報活用の実践力を育てる授業を創造できる	情報活用能力全般を育てる授業を常に意識して考えることができる。	自らの授業内容を学級通信などを通して，正確に保護者にも伝えることができる

③④授業計画

第 1 回目

講義オリエンテーション

第 2 回目

情報教育の目標および情報活用能力について

第 3 回目

情報教育の重要性と課題

第 4 回目

情報活用の実践力の現状と課題

第 5 回目
情報活用の実践力を育む教材
第 6 回目
学校現場における情報活用の実践力
第 7 回目
子供たちが情報活用能力を養うためのポイント
第 8 回目
小学校におけるプログラミング教育
第 9 回目
AI とデータサイエンスを取り入れる教育的意義
第 10 回目
情報社会に参画する態度とデジタルシティズンシップ
第 11 回目
授業支援ツールの活用方法（ロイロノート，Metamoji Classroom 等）
第 12 回目
授業支援ツールを用いた授業設計と実践
第 13 回目
クラウドを用いた授業設計と注意すべき点
第 14 回目
情報を活用するということとは
第 15 回目
まとめ
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
実施しない
②教育・学習の方法（Course Methods）
本講義は，対面授業とオンライン学習のブレンド型で授業を進める。オンライン講義による解説と受講者の小グループによる対面ディスカッションを適時、導入し、受講生が主体的に講義に参加できる学習方法を取り入れて行う。内容は，幼小中高等学校での情報教育の方法について考えることになる。課題に関しては，授業中に相互評価を行ったうえで，教員からコメントを述べる形でフィードバックを行う。また，個別にオフィスアワーなどで質問等を受け，指導する。毎回の講義に関しては，respon を使用したコメントを収集し，その内容に関しては次の講義で紹介をし，質問項目などは全体の場でフィードバックを行う。プログラミング教育実践演習や ICT 授業支援ツールの演習では，タブレットやノート PC を用いたプログラミングの体験を基に小学生への指導方法をディスカッションで考え，教員の助言も参考に授業の組み立てができるようにする。
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
前回までの復習をしておくこと。学習指導要領や教育要領をよくみておくこと。自分が授業をするというイメージをもって授業に臨むこと。グループでの活動に積極的に参加すること
GPA による個別学習方法（ここでの GPA はあくまでも目安です）
GPA が 1.5 程度未満の場合
「教育方法学」「ICT 活用教育」または「教育の方法及び技術」の復習を確実にしておくこと
※上記科目未履修の場合は，新しい学習指導要領をみておく。
GPA が 1.5 から 3 程度の場合
上記に加えて，最近の情報教育に関する情報を Web 等で確認しておく
GPA が 3.0 程度以上の場合
上記に加えて，GIGA スクール構想による情報機器の活用および小学校プログラミング教育の現状把握を文献や Web で行っておく
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
30
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
授業への参加意欲・態度（30%）　　課題やレポートに対する自己評価・相互評価（40%）　　期末レポート（30%）

留意事項（Other Information）

この授業は教員（幼稚園も含む）を志望する学生向けの実践的科目として設定しており，教員志望者以外は，その旨理解して参加することが必要である。教員志望者以外への配慮は特別に行わないので注意すること。教育実践について小グループによるディスカッションを行うので、講義に主体的に参加することが重要である。現場での情報教育の実践家など外部講師を招いての授業を行うことがある。コロナ禍の状況の中でオンデマンド講義を行う可能性がある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『小学校学習指導要領』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607

『高等学校学習指導要領解説情報編』/文部科学省/開隆館出版販売/2010/9.784304041655E12

参考 URL(URL for Reference)

文部科学省　教育の情報化に関する手引き　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫　教員として公立学校に勤務経験あり

講義コード	CNS2601N1J
科目名	子供のネット安全教育の理論と実践
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	神月　紀輔、東郷　多津
科目区分	現代人間学部 ＞ こども教育学科
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	通年
⑤単位	2
備考	自由科目
曜日時限	木曜・6 限

①科目の教育目標（**Course Description**）

子供たちのネット利用において，詐欺にあう，ネットいじめ，個人情報の流出など様々な問題が起きている。本科目では，京都府消費生活安全センターと協力し，特に消費者教育の観点から，子供自らが考えて安心してネットを利用できるよう，小学校等での啓発プログラムを開発し，実践することを目標としている。なお現状から当面は，小学校 4~6 年生程度を対象としたプログラムの開発を行う。

教育・学習の個別課題（**Course Objectives**）

・現在起きているネットの安全使用に関する問題を知る。　・子供たちにとって危険な状況を知る。
・学校現場など状況に合わせた啓発プログラムを開発する。　・開発したプログラムを実践する。
・プログラムの実施に対してその評価を行い改善をする。

ルーブリック表

DP	レベル **1**(不可レベル)	レベル **2**	レベル **3**	レベル **4**
知識･理解	広い範囲から，子供のネット利用に関する情報を収集できず，理解できない。	現在の子供の情報環境やネットの使用状況を理解している。	子供にとっての望ましい情報機器の利用を理解している。	子供のネット利用に関する基礎知識を持ち，行政や教育がどのようにしようとしているか理解している。
実習に対する参加態度	実習に参加できない	子供の現状を踏まえ，実習に参加する	講座の趣旨を理解し，リーダーとして子供の前に立つ	講座の趣旨を理解し，子供を指導し，その評価をし，さらに啓発に努める
協働する力	他の大学生と協力できない。ディスカッションに参加しない。	積極的にディスカッションに参加する。	子供の指導に対して，意見の交換を行い，啓発に役立てる	問題点や改善点を積極的に提言し，次の啓発に生かそうとする

③④授業計画

第 1 回目

6 月 30 日　本講義を始めるにあたって（神月・東郷・堀出）

第 2 回目

7 月 7 日　教育社会学から見た子供のネット利用（堀出　オンライン）

第 3 回目

7 月 14 日　京都府消費生活安全センターにおける子ども啓発（外部講師　オンライン）

第 4 回目

7 月 21 日　子供のへの模擬指導と評価（東郷・堀出・神月）

第 5 回目

8・9 月中（日時未定）　小学校における子供への指導実習（堀出・東郷・神月）

第 6 回目

8・9 月中（日時未定）　児童館における子供への指導実習（堀出・東郷・神月）

第 7 回目

8・9 月中（日時未定）　こどもイベントでの指導実習（堀出・東郷・神月）

第 8 回目

9 月 22 日　小学校児童館等における実習の評価、振り返り（堀出・東郷・神月）

第 9 回目

9 月 29 日　デジタル・シティズンシップと学校における情報モラル指導（神月　オンライン）

第 10 回目

10 月 6 日　京都府消費生活安全センターへの相談の現状（外部講師　オンライン）

第 11 回目

10 月 13 日　他の自治体での取り組み（外部講師　オンライン）

第 12 回目

10 月 20 日　保護者も含めた指導方法の開発（神月）

第 13 回目

10 月 27 日　専門家による評価（堀出・外部講師）

第 14 回目

11 月 10 日　今後の問題点討議（神月・東郷・堀出）

第 15 回目

11 月 17 日　まとめと自己評価（神月・東郷・堀出）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

本講義はブレンド型で学習を進める。講義に関してはオンライン講義を行い，ディスカッションが必要な場合は対面で行う。現状の把握や学習理論については，講師やゲストスピーカーから講義を聞き，そこで得た知見をもとに，演習により，子ども向け啓発プログラムを開発する。その際にはグループによるディスカッションなどコミュニケーションが必要である。さらに実際に子どもの前に立ち，実践を行い，実践から得たデータなどをもとに，啓発プログラムの自己評価を行い，議論の中からフィードバックを行う。また改善点を見出し，さらにプログラムをよいものに仕上げ再生可能なものにする。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

新聞やインターネットなどで情報の収集をする。毎回の授業に対して復習を行い，次時への目標を立てる。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

20

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度(50%)、毎時間のコメント(20%)、指導実習内容(30%) により総合的に評価を行う。

留意事項（Other Information）

この科目はコンソーシアム科目であり，本学ではなくキャンパスプラザ京都で開講する。また履修登録もコンソーシアム京都からも行う必要があり，講義期間もキャンパスプラザ京都の日程に従うので注意すること。実習を伴うこともあるので，就職活動中の学生は単位取得が難しくなることがあることを留意されたい。講義のうち 2 回程度は，講義時間以外の８月から９月に，京都府内の小学校または児童館などに出かけて実習を行う。この際の交通費は自己負担となる。授業後の，2，3 月や次年度に自主的に啓発活動に取り組むことは可能である。**テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）**

指定しない

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

プリントやネットワーク（本学においては manaba コース）を通じて資料を配布する。

参考 URL(URL for Reference)

e 京都（いーこと）ラーニングシステム　https://el.consortium.or.jp/login.php

公益財団法人 大学コンソーシアム京都の単位互換履修生及び京（みやこ）カレッジ生の履修登録・学修支援システムです。

大学コンソーシアム京都　単位互換制度　http://www.consortium.or.jp/project/tg/details

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫　外部講師は行政機関勤務経験あり

講義コード	EDP3403N0J
科目名	ＩＣＴ活用教育
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	神月　紀輔
科目区分	現代人間学部 ＞ こども教育学科
学年	3 年次
開講学期	前期後半
⑤単位	1

①科目の教育目標（**Course Description**）

小中高等学校の各発達段階において，望ましい ICT 活用教育方法を探求し，その実践を行えるようにする。

教育・学習の個別課題（**Course Objectives**）

下記の各項目について理解した上で，ICT 活用した実践的指導を学校教育の指導の中で行えるようにする。

・思考力，想像力を育む児童生徒の主体的な学習活動

・情報活用の実践力を育む授業実践方法

・学習理論に基づく，コミュニケーションを生かした授業づくり

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
学習指導要領の理解	学習指導要領や幼稚園教育要領を知らない。	学習指導要領や幼稚園教育要領を理解している	学習指導要領や幼稚園教育要領を完全に理解し，観点ごとの評価に生かそうとする。	学習指導要領や幼稚園教育要領を理解し，授業や保育に生かすとともに，授業案を創造できる
主体的に学ぶこと	先生主導の教育のみを行っている	子供の状況に配慮しつつ，先生主導の教育を行い，一部子供の自主性を促す	子供のための教材を提供でき，その周辺の知識に詳しく，学習の動機づけをすることができ，自己評価に繋げることができる。	レベル3に加えて子供同士が相互作用を用いながら学ぶ教材を提供でき，授業外でもその学びを子供たちが生かすことができる。
情報機器の活用	情報機器を使うことに抵抗がある。	先生が情報機器を使って授業ができる。	教員が情報機器の特性を理解し，子供が無理なく情報機器を学習のために使えるように，ツールとして提供できる。	レベル3に加えて子供が情報機器の特性を知りながら，子供の自らの学びのために機器を活用するように指導できる。
コミュニケーションを生かした授業	子供の考え方を聞かず，教師の考えだけで授業を進める。	子供の発話を用いた授業を考えることができる	子供の発話や議論を促すためにどのように子供に接するか等の方法を知り，それを生かした授業をしようとする。	レベル 3 に加えて，子供同士の相互作用を促し，子供が自ら学ぶためにコミュニケーションを活性化しようとする。

③④授業計画

第 1 回目

学習理論と心理学（45 分間）

第 2 回目

デジタルシティズンシップ

第 3 回目

情報活用能力の 3 観点

第 4 回目

情報活用の実践力とその指導および実践事例から

第 5 回目

ICT 機器を活用した指導方法

第 6 回目

ICT 機器を活用した指導計画

第 7 回目

ICT 機器を活用した指導の模擬授業

第 8 回目

指導計画および模擬授業の相互評価・自己評価

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

定期試験は実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

前半（1～4 回目）は講義を中心に行い，後半（5～8 回目）は模擬授業を中心に行う。資料は manaba コースを用いて提供します。前半は各教科の教育法・指導法での知識を基に，ICT 機器を活用することについて，知識を習得する。

授業後半は，ICT 機器を活用した授業の設計を行い，実際に ICT 機器を活用した場面を 10 分程度模擬授業として行う。また，その後ディスカッションを行い，相互評価・自己評価のの中で ICT 機器の活用について理解を深める。

この分野は早いスピードで進展しており，授業内の理解だけでなく，インターネットや新聞などの情報を学生自身で取得することが望まれる。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

これまでの授業を復習する時間が短いので，教員が提示する各トピックに対して準備を行う必要がある。

＜授業が始まるまでの準備＞

これまでの GPA による準備学習方法

（下記の GPA はあくまでも参考で，自分のレベルにあった準備をしてください）

GPA＜1.5 の場合　各教科の教育法・指導法の内容をしっかり復習しておいてください

GPA が 1.5 から 3 までの場合　上記に加えて，身の回りにある情報機器に興味を持ち，教育の場面での利用を考え，授業内の情報だけでなく新しい情報もインターネットや新聞などを用いて修得しておきましょう。

GPA＞3.0 の場合　上記に加えて，「こどもの教育心理学」または「発達と学習の教育心理」の授業から「学習」に関しての復習をし，学習理論の理解しておきましょう。

＜授業における準備＞

毎回の復習を確実に行い，分からない言葉などは辞書やインターネットを用いて，自分で理解するように努めましょう。人に聞いただけでは忘れてしまうので理解はなかなか進みません。

現在の小中高等学校の GIGA をはじめとする情報機器の整備の現状を調べておき，自分の進路に対して，どのような準備をする必要があるかを考えておきましょう。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

基本的には下記の項目について，自己評価を取り入れる。

授業に参加する態度（40%）　各個人の状況に応じて，出席したかどうかでなく，授業中の態度も含めて，最終授業時に 40 点満点で自己評価を行う。

課題（40%）　ICT 活用についてのレポート，模擬授業の指導案・自己評価を課題として提出する。その都度，教員からレポート内容についての評価項目を示すので，それに従って自己評価を行って提出する。

グループへの参加態度（20%）　模擬授業およびディスカッション時に行うグループ内相互評価をもとに，教員の示す評価基準で自己採点を行う。

上記の自己採点を基本とし，教員が総合的に判断し，評価を行う。

留意事項（Other Information）

１．毎回の授業に必ず PC を持参してください。タブレットでは少し容量やスペック・アプリの面で厳しいかもしれません。自分のものを持参するのが難しい場合は，授業前までに貸し出しのパソコンを準備してください。

２．資料や情報は manaba コースを使用して提供します。

３．自ら進んで学ぶ態度が必要になります。今後のために積極的に学習に参加しましょう。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

それぞれの取得予定の教員免許によって，次のいずれかをテキストとして準備してください。

・『小学校学習指導要領』/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607/学内販売有

※　小学校学習指導要領には幼稚園教育要領が含まれています。

・『中学校学習指導要領』/文部科学省/東山書房/2020/978-4827815795/学内販売有
・『高等学校学習指導要領』/文部科学省/東山書房/2018/978-4827815672/学内販売有
（注意）すでに他の授業で購入している場合は，再度購入の必要はありません。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

各学習指導要領解説
『高等学校学習指導要領解説　情報編』/文部科学省/開隆堂/2019/978-4304021633
その他授業中にその都度提示します。

参考 URL(URL for Reference)

文部科学省　学習指導要領　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm
文部科学省　教育の情報化に関する手引き　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm
文部科学省　GIGA スクールの構想について　https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm
IT 授業実践ナビ　http://www2.japet.or.jp/itnavi/
その他，授業時に適宜紹介します。

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫　教員として公立学校での勤務経験あり。

講義コード	EGS3500B0J
科目名	英語英文学演習Ⅰ
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	小山　哲春、大川　淳、須川　いずみ、田口　茂樹、York　Weatherford、東郷　多津、喜多　容子、Steven　Herder、木島　菜菜子、Lyle　De Souza
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 英語英文学科
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

本科目（ゼミ）は、我々が毎日当たり前のように行っているコミュニケーション活動を観察、分析するための様々な理論や方法を学び、人間のコミュニケーション過程をより深く理解し、客観的に説明できるようになることを目標とする。上記の目標を達成するため、「コミュニケーション」を科学的、人類学的、あるいは哲学的に分析する様々な方法論の基盤を学び、自身が関心を持つコミュニケーション現象を実際に観察、分析する初歩的な技術を習得する。「研究方法論」で習得した方法論の基礎的知識をさらに深め、実践的な技術へと発展させることが最終目的となる。また、演習を通じて、社会現象の観察眼、ことばへの繊細な感覚、異文化に対する偏見のない視点、コミュニケーションコンピテンスなどを涵養する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

<1> 理論習得（コミュニケーション分析のための基礎理論を概観する。）

<2> 方法論習得（コミュニケーションを観察（データ収集）、分析するための具体的方法論を習得する）：

- 言語理論による分析（前期の主要課題となる）
- 質問紙調査（アンケート）法
- 実験デザイン
- フィールドワーク（参与者観察）法

<3> 分析演習（上記で学習した分析方法論を用いて実際にコミュニケーション現象を分析し、これを発表する。）

③④授業計画

第 1 回目

Introduction to Communication Studies（概論）

第 2 回目

方法論１：コミュニケーション研究方法論 概説

第 3 回目

方法論２：構成概念計測法 Revisited

第 4 回目

方法論３：質問紙調査法（On-line Survey を含む）Revisited

第 5 回目

方法論４：実験法 Revisited

第 6 回目

方法論５：フィールドワーク法 Revisited

第 7 回目

方法論６：会話分析法 Revisited

第 8 回目

言語理論による分析演習１：　発話行為論（Speech Acts）

第 9 回目

言語理論による分析演習２：　会話の含意（Conversational Implicature）

第 10 回目

言語理論による分析演習３：　表意と推意（Explicature & Implicature）

第 11 回目

言語理論による分析演習４：　比喩（Metaphor）

第 12 回目

言語理論による分析演習５：　皮肉（Irony）

第 13 回目

言語理論による分析演習６：　欺瞞（Deception）

第 14 回目

卒業研究 Proposal 中間発表 Day 1（学籍番号順　前半）

第 15 回目

卒業研究 Proposal 中間発表 Day 2（学籍番号順　後半）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

授業：　本ゼミは、学生の発表およびディスカッションを中心とする演習形式で行われ、適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。発表：　研究方法論およびコミュニケーションに関する学術論文についての口頭発表を行う。卒業研究 Proposal 作成：　前期の間に複数のトピックを選んで簡単な分析演習を行い、後期にかけてこれを絞り込んで卒業研究のテーマを決定する。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

(1) 指定されたテキスト(reading assignment)を事前に読む

(2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。

(3) 授業での学びを「卒業研究計画 (Proposal)」へ落とし込むため、適宜 Proposal の執筆と相談を行う。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

45

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

発表１（方法論・理論のサマリー発表）25%

発表２（言語理論による分析演習）25%

ディスカッションへの貢献度 20%

卒業研究 Proposal Draft 30%

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『コミュニケーション研究法』/末田清子他/ナカニシヤ出版. /2011//学内販売予定

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『コミュニケーション学：その展望と視点』/末田清子・福田浩子/松柏社/ 2011/

『ことばの社会心理学』/岡本真一郎/ナカニシヤ出版/2010/

『言語理論としての語用論』/今井邦彦/開拓社/2015

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSS3600I0J
科目名	専門演習Ⅰ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	岩崎　れい、久野　将健、鎌田　均、朱　鳳、蜂矢　真弓、中里　郁子、河野　有時、平野　美保、吉田　朋子、石川　裕之
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 国際日本文化学科 ＞ 国際日本文化学科（実践的科目）
学年	3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	水曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

＜共通目標＞ 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、４年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係など、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

１．各自が関心のあるテーマを探し、それについて学ぶと同時に、研究対象とするために明確な問題意識を持つ。

２．卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。

１）卒業論文の作成プロセスを学ぶと共に、文献探索法を身につける。

２）各自の研究テーマに基づき、研究計画を立てる。

３）各自のテーマに沿って、調査・研究を進める中で、情報の収集だけでなく、 その選択・利用の方法を学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	ゼミに受け身で参加している。	ゼミに主体的に参加し、発言できる。	自分の研究に積極的に取り組むことができる。	自分の研究に積極的に取り組み、その改善にも力を尽くすことができる。
思考・解決力	自分の「問い」を明確にすることができない。	自分の「問い」をはっきりと持っている。	自分の「問い」を明確に言語化することができる。	自分の「問い」を検証し、発展させることができる。
創造・発信力	自分の研究に主体的に取り組めていない。	研究テーマについて、基礎的なことを言語化できる。	研究テーマを掘り下げ、その「問い」について議論をすることができる。	根拠を持って、研究テーマにおける「問い」を検証し、それを文章にすることができる。

③④授業計画

第 1 回目

イントロダクション

第 2 回目

論文執筆のプロセス

第 3 回目

卒業論文テーマの探し方

第 4 回目

卒論のための図書館利用と文献探索の基礎

第 5 回目

テーマ探索のための解説と討議

第 6 回目

テーマ（1）に関する「問い」の検討　　例）図書館における子どもへのサービス

第 7 回目

テーマ（2）に関する「問い」の検討　　例）子どもの発達と遊び

第 8 回目

テーマ（3）に関する「問い」の検討　　例）子どもの絵本の選び方

第 9 回目

卒論のための図書館利用と文献探索の応用（1）

第 10 回目

卒論テーマ探しのプロセス発表（ゼミ発表）

第 11 回目

文献読解と発表(1)　　各自のテーマによる。

第 12 回目

フィールドワーク（1）

第 13 回目

文献読解と発表(2)　　各自のテーマによる。

第 14 回目

研究方法の模索（ゼミ発表）

第 15 回目

夏休みに向けての課題（ゼミ発表）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

１．この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。

２．子どもの文化、といっても幅が広いので、具体的な内容は受講生の関心に合わせて調整する。

３．文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する基本的な知識や現状、他者の考え方を把握する。

４．３をもとに、ゼミの中で討論することで、他の学生の考え方を知り、自分の考察を深めていく。

５．フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

１．文献読解では担当する文献を事前に読み、その要約に考察を加えたレジュメを作成する。

２．フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。

３．卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探究するようつとめる。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物 70%、授業参加度 30%とし、総合的に評価する。

留意事項（Other Information）

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。　　ゲスト講師による授業を行うこともある。　必要に応じてフィールドワークに行くが、その場合、交通費が必要となる場合もある。　一斉授業を実施する場合もある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

プリント配布

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGS3550B0J
科目名	英語英文学演習Ⅱ
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	小山　哲春、大川　淳、須川　いずみ、田口　茂樹、York　Weatherford、東郷　多津、喜多　容子、Steven　Herder、木島　菜菜子、Lyle　De Souza
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 英語英文学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	集中
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

本ゼミは、我々が毎日当たり前のように行っているコミュニケーション活動を観察、分析するための様々な理論や方法を学び、人間のコミュニケーション過程をより深く理解し、客観的に説明できるようになることを目標とする。「研究方法論」「英語英文学演習 I」で習得したコミュニケーション研究方法論に基づき、自身が関心を持つコミュニケーション現象を実際に研究し、これを論文として執筆するための研究技術を習得する。また、演習を通じて、社会現象の観察眼、ことばへの繊細な感覚、異文化に対する偏見のない視点、コミュニケーションコンピテンスなどを涵養する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

<1> 方法論のさらなる理解（コミュニケーションを観察（データ収集）、分析するための具体的方法論をさらに向上させる）：

- 理論的分析（言語理論による分析）
- 質問紙調査（アンケート）法
- 実験デザイン
- フィールドワーク（参与者観察）法

<2> 論文作成法習得（演習を通じて卒業研究のテーマを模索し、これを研究論文へと発展させる方法（文献研究、データ収集、分析、説明）について学習する。「コミュニケーション概論」「対人コミュニケーション」「異文化間コミュニケーション／Global English Lecture IC」「ことばとコミュニケーション」といった関連科目で扱われたトピックの中から、自分の関心に従って具体的なコミュニケーション現象を卒業研究のテーマとして選定し、明確な研究課題を設定して研究を開始する。

③④授業計画

第 1 回目

研究計画と論文執筆概説

第 2 回目

学術論文講読演習 1：発話行為論

第 3 回目

学術論文講読演習２：語用論（会話の含意）

第 4 回目

学術論文講読演習３：語用論（一般的含意）

第 5 回目

学術論文講読演習４：語用論（関連性理論）

第 6 回目

学術論文講読演習５：Message Effect（擬似実験デザイン）

第 7 回目

学術論文講読演習６：Message Effect（相互作用分析）

第 8 回目

研究方法論 1：Proposal 作成の基礎

第 9 回目

研究方法論 2：記述統計学

第 10 回目

研究方法論 3：推論統計学

第 11 回目

研究プロジェクト演習 1：グループ発表とディスカッション（第 1 日：研究グループ 1、2）

第 12 回目

研究プロジェクト演習 2：グループ発表とディスカッション（第 2 日：研究グループ 3、4）

第 13 回目

卒業研究 Proposal 発表 Day 1（学籍番号順　前半）

第 14 回目

卒業研究 Proposal 発表 Day 2（学籍番号順　後半）

第 15 回目

Course Review と卒業論文執筆要領

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

授業：　本ゼミは、担当教員の講義、学生の発表およびディスカッションを中心とする演習形式で行われ、適宜、教員による講義およびフィードバックが提供される。

発表：　学術論文（後期）についての発表、および、自らが選んだトピック（コミュニケーション現象）を実際に分析した結果を口頭発表する。

卒業研究 Proposal 作成：　前期の間に選択した複数のトピックから絞り込んで卒業研究のテーマを決定する。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

(1) 指定されたテキスト(reading assignment)を事前に読む

(2) 他の学生の発表に対して積極的にコメント、質問、批判的議論を提示し、ディスカッションに参加する準備を行う。

(3) 授業での学びを「卒業研究計画 (Proposal)」に反映させるため、適宜 Proposal の執筆と相談を行う。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

45

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

発表 1（講読演習）25%　　発表 2（グループ研究発表）25%　　ディスカッションへの貢献度 20%

Final Paper (卒業研究 Proposal) 30%

留意事項（Other Information）

Final Paper の提出は４年次「卒業研究」の履修条件となります。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『コミュニケーション研究法』/末田清子他/ナカニシヤ出版. /2011//学内販売予定

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『コミュニケーション学：その展望と視点』/末田清子・福田浩子/松柏社/ 2011/

『ことばの社会心理学』/岡本真一郎/ナカニシヤ出版/2010/

『言語理論としての語用論』/今井邦彦/開拓社/2015

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSS3650A0J
科目名	専門演習Ⅱ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
担当教員名	岩崎　れい、久野　将健、鎌田　均、朱　鳳、鷲見　朗子、蜂矢　真弓、中里　郁子、河野　有時、平野　美保、吉田　朋子、石川　裕之
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 国際日本文化学科
学年	3 年次
開講学期	後期
単位	2
曜日時限	水曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

＜共通目標＞国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、４年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。

＜個別クラスのねらい＞子どもについてメディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係、現代社会における子どもの遊びなど、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

１．各自のテーマについて明確な問題意識を持ち、そのテーマを多様な視点から考察する。

２．卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。（専門演習Ⅰの１）～３）から続く。）

４）研究テーマに関する知識を増やし、また、批判的思考を伴いながら、論文の目的に向かって内容を掘り下げていく。

５）論文の内容を深めると共に、引用文献一覧・参考文献一覧の書き方など、論文作成の形式についても学ぶ。

３．卒業論文のテーマを決め、その準備を進める。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	ゼミに受け身で参加している。	ゼミに主体的に参加し、発言できる。	自分の研究に積極的に取り組むことができる。	自分の研究に積極的に取り組み、その改善にも力を尽くすことができる。
思考・解決力	自分の「問い」を明確にすることができない。	自分の「問い」をはっきりと持っている。	自分の「問い」を明確に言語化することができる。	自分の「問い」を検証し、発展させることができる。
創造・発信力	自分の研究に主体的に取り組めていない。	研究テーマについて、基礎的なことを言語化できる。	研究テーマを掘り下げ、その「問い」について議論をすることができる。	根拠を持って、研究テーマにおける「問い」を検証し、それを文章にすることができる。

③④授業計画

第 1 回目

前期及び夏休みの成果発表（ゼミ発表）

第 2 回目

テーマについての合議

第 3 回目

テーマ１についての講義・討論　例）子どものための図書館・博物館

第 4 回目

テーマ２についての講義・討論　例）児童文学と子どもの発達

第 5 回目

フィールドワーク（1）

第 6 回目

テーマ３についての講義・討論　例）子どものメディア利用とその課題

第 7 回目

卒論のための図書館利用と文献探索の応用（2）

第 8 回目

卒論テーマの明確化と問いの探求（ゼミ発表）

第 9 回目

テーマ１に関する発表・討論　例）子どものための図書館・博物館

第 10 回目

テーマ２に関する発表・討論　例）児童文学と子どもの発達

第 11 回目

テーマ３に関する発表・討論　例）子どものメディア利用とその課題

第 12 回目

フィールドワーク（2）

第 13 回目

ゼミ発表及び研究方法についての討論

第 14 回目

卒業研究に向けての情報の整理と利用

第 15 回目

４年次に向けての準備

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

１．この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。

２．各自が自分のテーマに取り組むと共に、他の受講生のテーマについても共に学び、考えていく。

３．文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する知識を深め、それについて討論する力を育成する。

４．３をもとに、自分の「問い」をさらに掘り下げていく。

５．フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

１．グループまたは個人で一つのテーマについて資料を集め、掘り下げて考察し、その結果を発表する。

２．フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。

３．卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探究するようつとめる。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物 70%、授業参加度 30%とし、総合的に評価する。

留意事項（Other Information）

ゲスト講師による授業を行うこともある。テーマは学生の関心に応じて変更することもある。必要に応じてフィールドワークに行くが、その場合交通費等がかかることもある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

プリント配布

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

授業中に紹介する。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GEN1150N0J
科目名	生命倫理
ND6	DP1：自分を育てる力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	松井　吉康
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	月曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

「薬害」「障がい者問題」さらには女性の人生にとって大きな問題である「妊娠、出産、中絶」といった「リプロダクティブヘルス」に関係する事柄について、その背景となる基本的知識を習得し、それらを通して自らの生命観を捉え直してもらう。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

現代社会における善悪の理解、 先端医療技術についての知識の習得、 経済原理と生命の尊厳、 リプロダクティブヘルスについての基礎知識の習得、障がい学、 「私の生命」へのまなざし

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　この授業の狙い。

第 2 回目

倫理学とは　日本人が学ぶ機会がない倫理学という学問の基礎について説明する。

第 3 回目

現代社会の善悪の基準　現代社会の行動規範を定めている考え方の一つである功利主義について学ぶ。

第 4 回目

薬害　薬害と日本の救急医療について。

第 5 回目

差別を知る　カナダで行われた差別を実地で体験する授業。

第 6 回目

卵子老化　日本は不妊が大きな問題となっているが、その大きな原因の一つである卵子老化について学ぶ、

第 7 回目

出生前診断　胎児の段階で障害の有無が分かる出生前診断の問題点。

第 8 回目

様々な障がい　日本の社会では非常に顕在化しにくい問題としての障がい。

第 9 回目

ダウン症

第 10 回目

中絶、減胎手術

第 11 回目

性と生

第 12 回目

戦争（1）沖縄戦

第 13 回目

戦争（2）沖縄の戦後

第 14 回目

過労死、生活保護

第 15 回目

「私」と「私の生命」　これまでの振り返りと質問への対応

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法（Course Methods）

倫理学についての基本的知識を習得した後、様々な問題についてドキュメンタリーを見せ、それらについて考えてもらう。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

普段から自分の身の回りで起こっている出来事やニュースなどで報じられる医療問題、社会問題について関心を持つようにしておくことが望ましい。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

100 パーセント、最終レポートで評価する。レポートを執筆する際には、問題を自分の問題として捉え、あくまでも自分の頭で考えることが大切である。したがって評価もまた、各人が「どれだけ自分の頭で考えたか」で評価する。レポートの内容評価については、manaba にて回答する。

留意事項（Other Information）

出来るだけ質疑応答の多い授業にしたいと思っています。教師が毎回、様々な問いを投げ掛けますが、学生の側からも色々な質問や発言が出てくる事を期待しています。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

なし

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

授業中に指示する

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GEN1450N0J
科目名	暮らしの統計学
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	菊野　雄一郎
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野であり、また、企業においても、数学の中で学んでもらいたい分野の上位にあげられることが多い。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを基に、統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 統計データの種類や集計法の理解
2. グラフの種類と特徴の理解
3. 統計データの代表的な指標の理解
4. 平均値の比較と連続変数の関連性の理解

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力				学んだ統計の手法をもとにより高度なレベルの統計手法を学べる
知識・理解力				統計の手法ごとに何を分析できるかを理解している
言語力				統計の手法を自らの言葉で説明できる
思考・解決力				データに対して適切な分析手法を選び、実施することができる
共生・協働する力				分析によって得られた結果を文章にまとめて、統計を知らない人に伝えることができる
創造・発信力				問題解決のために、今あるデータに加えて足りないデータを集め、分析できる

③④授業計画

第 1 回目

心理統計学とは何か（心理学における統計の意義）

第 2 回目

統計学用語の基礎知識（心理統計学の基礎的用語や概念の理解）

第 3 回目

心理統計学の基礎（1）　尺度や変数の種類と記述方法

第 4 回目

心理統計学の基礎（2）　度数分布と統計図表

第 5 回目

心理統計学の基礎（3）　代表値・平均値と分散／標準偏差の算出

第 6 回目

2 変数の関係（1）　散布度と相関

第 7 回目

2 変数の関係（2）　相関の解釈、直線回帰

第 8 回目

相関係数の検定

第 9 回目

カイ二乗検定

第 10 回目

t 検定（対応のない 2 群の検定）

第 11 回目

t 検定（対応のある 2 群の検定）

第 12 回目

分散分析（参加者間の検定・1 要因の分散分析）

第 13 回目

分散分析（参加者間の検定・複数要因の分散分析）

第 14 回目

分散分析（参加者内の検定）

第 15 回目

まとめ

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施する。

②教育・学習の方法（Course Methods）

PowerPoint、Excel などを使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。また、授業時に簡単な演習を行ってもらう。次回の授業の最初に、演習の内容について、復習、解説を行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

毎回の授業終わりに次回の予告をするので、インターネット検索などにより、次回のトピックのあらましをつかんでおく。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

課題レポートをほぼ毎授業提出してもらう。定期試験（30%）、提出物(40%)、授業参加（30%）に基づき評価を行う。

留意事項（Other Information）

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

配布資料に基づいて授業を行います。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『心理学実験のための MATLAB』/菊野雄一郎/工学社/2021/4777521656

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GBL2300A0J
科目名	アカデミック・ライティング
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	黒田　一平
科目区分	共通教育科目
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	定員 50 人
曜日時限	水曜・4 限

①科目の教育目標（**Course Description**）

大学の授業で求められるレポートとは何かを知り、レポートや卒論を書くための基礎的な力を身につけることを目指す。学術的な文章を「読む」トレーニングと同時に、アカデミックライティングの基本的な構成について学びながら「書く」トレーニングをすることで、自信をもってレポートを書けるようになることが目標。

教育・学習の個別課題（**Course Objectives**）

1) レポートを書く上で必要な言語能力（語彙力、文章構成力など）を養う
2) 他者の文章の論点を理解し、批判的に検討できるようになる
3) 文献の探し方を学び、先行研究を適切な形で参照・引用できるようになる
4) 問いを立て、自分の考えを発展させる力を身につける

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
理解する力	著者の主張を見抜けない。	著者の主張を見抜くことができるが、要約は内容の羅列にとどまる。	著者の主張とそれを支える根拠を見抜いた上で、論旨が明確になるように要約している。	著者の論旨をひとことで述べたのち、その具体的内容を整理し直し、自分の言葉で語り直している。
批判的に考察する力	著者の主張を見抜けておらず、本で書かれていることと自分の意見が混在している。考察は漫然としており、感想の域を出ない	自分なりの考えを述べているが、それに対する根拠が述べられていない、または著者の主張とずれる。	内容に対する批判的考察が行われ、自らの意見に対してその根拠が述べられる。	社会的な背景や自らの問題意識と関連付けて、本の内容に対する批判を行っており、説得的な議論を展開している。
表現する力	常体と敬体の混在、文法的なエラーなどが見られ、思いついたままに書いている。	一見しておかしな表現はないが、話し言葉的な表現や同じ言葉の繰り返しが見られる。	パラグラフライティングの形をとり、読者への配慮が見られる。	導入、本文、結論のそれぞれで求められる内容を書いている。適切な接続表現の使用、語彙の豊かさが見られる。
知識	剽窃を行ってしまう。			出典を示す意義を理解し、適切な方法で引用できるようになる。レポートの構造を知り、それにそって自らの考えを表現できる。

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　授業の目的について説明。レポート課題の意義について考える。

第 2 回目

読み手のことを考える　読み手を意識するとはどういうことかを考え、相手が知らないことを前提に文章を書いてみる。

第 3 回目

レポートとは何かを知る　レポートと作文の違いを解説。パラグラフライティングとは何かを学び、実際に挑戦してみる。

第 4 回目

事実と考えの違い　事実と考えはどのように違うのかを解説する。客観的記述はありえるのかを考える。

第 5 回目

きちんとつなげる　話し言葉と書き言葉の違いを検討する。文と文の関係を見抜き、適切な接続表現を入れる練習をする。

第 6 回目

要約する　文章の構成要素（中心的主張と根拠とは何か）を解説する。要約するときにどのような情報を切り落とすべきかを判断する練習をする。

第 7 回目

批判的に読む　文献の読み方、メモの取り方を解説する。

第 8 回目

引用する　剽窃とは何か、文献を適切に引用する方法を示す。様々な方法で実際に引用してみる。

第 9 回目

メタ的な視点を取る　文献の中で著者が何をしているかによって引用の動詞を使い分け、「～と述べている」以外の表現のバリエーションを磨く。

第 10 回目

疑問を持つ　文献に対して、疑問をもつ練習をする。

第 11 回目

反論する　文献に対して、反論してみる。

第 12 回目

問いを立てる　問いを立てる重要性を学ぶ。自分が取り上げる文献に対して、考察に値する問いを立てる。

第 13 回目

資料を探す　図書館や文献検索エンジンの使い方を示す。

第 14 回目

考えをまとめる　マインドマップの作り方、アウトラインの書き方を解説する。最終レポートに向けて、実際に自分の考えをまとめてみる。

第 15 回目

これまでのまとめ　授業で学んできたことを再度確認したうえで、ピアレビューを通し最終レポートの推敲をする

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法（Course Methods）

本科目では、レポートを書く上で知っておくべきことを解説するとともに、実際に「読む」「書く」トレーニングを行う。授業内ではグループワークを通して課題に取り組み、自分の文章を相対化する機会を多く設ける。実践を通して技術を身につけてもらいたいので、授業時間外にも課題に取り組んでもらうことになる。課題に関しては必ずフィードバックをする。最終試験として予定しているブックレポートでは、講義内容を活用して論理的文章が書けているかをみる。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

毎回配布プリントを用いて授業を進めるため、基本的に予習は必要ないが、配布プリントと板書内容の復習を必ずした上で翌回の授業に参加すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

積極性（30%）、課題などの提出物（40%）、期末レポート（30%）から評価を算出する。全授業回数の 2/3 以上の出席と、最終課題である期末レポートの提出が単位取得の条件となる。

留意事項（Other Information）

1) ガイダンスをおこなうため、初回の授業から参加すること
2) 授業内で資料を配付する
3) 授業計画は、実際の授業の状況に応じて順序を変えることがある
4) スマートフォンやタブレット等の、ネットに接続できる端末を持参すること

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ 21 のワーク』/ 桑田てるみ（編）/ 実教出版 / 2015 /

9784407336146

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『大人のための国語ゼミ』/ 野矢茂樹 / 山川出版社 / 2017 /978-4634151215

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	GCP1550A0J
科目名	短期インターンシップ
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	濱中　倫秀
科目区分	共通教育科目
学年	1 年次、2 年次
開講学期	集中
⑤単位	1
備考	集中

①科目の教育目標（Course Description）

就業体験を通して、早期に自己の職業適性や将来設計について考えるきっかけとする。その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。さらには、事後研修を通して明確なキャリアビジョンの確立及び学習意欲を喚起し、主体的に学ぶ学生生活が出来るようになる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

・就業体験を学び深いものにする為に、実習前に実習先の研究と目標設定を行う。
・就業体験から得られた学びに基づき、進路選択に向けての情報収集方法を学ぶ。
・就業体験を通して学び得た事と、今後の行動計画をまとめて発表する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	常識やマナーを守り、自律した事前・事後学習参加が出来ていない。	常識やマナーを守り、自律した事前・事後学習参加をしようとしている。	常識やマナーを守り、自律した事前・事後学習参加が出来ている。	常識やマナーを守り、高いレベルで自律した事前・事後学習参加が出来ている。
知識・理解力	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識について、十分な理解が出来ていない。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識について、理解しようとしている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識について、十分理解出来ている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識について、高いレベルで理解出来、応用も出来ている。
言語力	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化できていない。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化しようとしている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、十分言語化出来ている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、具体的に言語化出来ており、独自性も見られる。
思考・解決力	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動出来ていない。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動しようとしている。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か主体的に考え・行動出来ていない。	実習中に取り組む課題を能動的に見つけ、解決に何が必要か考え・行動出来ている。
共生・協働する力	他者との協働や意見交換を出来ていない。	他者との協働や意見交換をしようとしている。	他者との協働や意見交換を十分出来ている。	他者との協働や意見交換を中心になって出来ている。
創造・発信力	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信出来ていない。	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信しようとしている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを十分発信出来ている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを具体的に発信出来ている。

③④授業計画

第 1 回目

事前研修①　インターシップの概要・心構えとマナー・事前課題の説明

＊日時・教室は 4 月のガイダンスにて説明する

第 2 回目

事前研修②　実習先の研究成果についての発表・目標立案

＊日時・教室は4月のガイダンスにて説明する

第3回目

実習①　実習先での就業体験

第4回目

実習②　実習先での就業体験

第5回目

実習③　実習先での就業体験

第6回目

実習④　実習先での就業体験

第7回目

実習⑤　実習先での就業体験

第8回目

実習⑥　実習先での就業体験

第9回目

実習⑦　実習先での就業体験

第10回目

実習⑧　実習先での就業体験

第11回目

実習⑨　実習先での就業体験

第12回目

実習⑩　実習先での就業体験

第13回目

事後研修①　実習の振り返り・経験交流とレポート課題について説明

第14回目

事後研修②　実習で学び得た事の整理と今後の行動計画の立案・発表準備

第15回目

成果発表会　学び得たことと今後の行動計画の発表

＊日時・発表場所と方法は4月のガイダンスにて説明する。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施する。

（事前・事後学習及び成果発表会の日時と教室は４月のガイダンスで説明する）

提出するレポートは下記の通り。いずれも評価に大きく関わるので別途指示する期日までに

それぞれ確実に提出すること。

1.実習前／実習先についての事前レポート

2.実習中／毎日記入する実習日誌

3.実習後／事後レポート

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をしておくこと。

・実習先では指示を待つだけではなく、自分から進んで何ができるのかを考え行動すること。

・現場で働く社会人に確認・質問したい内容を考えておくこと。

・実習中は水分補給や十分な睡眠、加えて新型コロナウイルス感染防止を万全にすること。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業態度　85%（実習先の評価60%、事前・事後研修および成果発表会の評価25%）

レポート15%（未提出者は評価対象外）で評価する。

※事前・事後研修・成果発表会はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁とする。

留意事項（Other Information）

〔留意事項（Other Information）〕

・申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。

・キャリアセンターからの連絡、指示はmanaba経由が多いので、定期的に確認し見落としがないよう注意しておくこと。

・自己開拓したインターンシップについてはキャリアセンターの規定を満たせば単位として認める。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

中小企業での採用人事経験あり。

講義コード	GCP2600N0J
科目名	キャリア形成ゼミ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	濱中　倫秀
科目区分	共通教育科目 ＞ 共通教育科目（実践的科目）
学年	2 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
備考	集中

①科目の教育目標（**Course Description**）

社会で必要とされる力を「社会人基礎力」*1 と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が実社会で活動するプロジェクトをゼミとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。このプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。

*1 「社会人基礎力」とは「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」の３つの能力と１２の能力要素を 2006 年に経済産業省が定義づけしたもの。

教育・学習の個別課題（**Course Objectives**）

(1)各ゼミに関連した業界分析、職業知識、また情報収集力、分析力をつけること。

(2)課題や問題を解決する企画立案力をつけること。

(3)グループ活動における協働力や、コミュニケーション力をつけること。

(4)企画を実行し、検証する力を身につけること。

(5)自らの企画内容や成果を伝えるプレゼンテーション力を身につけること。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
情報収集力	各ゼミの到達目標に対して、必要な情報を集められていない。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を、指示された通りに集めている。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を集め、時折共有している。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を能動的に集め、たびたび共有している。
企画力	目標達成に向けた策を自ら考えられてはいない。	目標達成に向けた提案を考えられている。指示した解決方法を選択できている。	目標達成に向けた策を提案している。新しい解決方法を時折考えられている。	目標達成に向けた複数の提案をし、最善の策を選択している。既存の発想にとらわれず、常に新しい解決方法を考えられている。
コミュニケーション力	意思疎通が困難。	意見を言い、他者の意見を聞き入れているときもある。教員が示すことで自分の役割を理解できている。	積極的に意見を言い、他者の意見を聞き入れている。時折チームで協力しようという意志が感じられる。	メンバーとしての役割を理解し、チームで協働しようという強い意志が感じられる。
実行力	指示されても課題に取り組まない。	指示があれば課題に取り組める。目標を明確にし、実行している。	自ら率先して課題に取り組んでいる。目標を明確にし、計画を立てて実行している。	自ら率先して課題に取り組み、他者を巻き込んで遂行できる。
プレゼンテーション力	伝えたい内容が相手に伝わらない。	伝えたい内容が伝わるよう工夫されている部分がある。	伝えたい内容が正しく伝わるよう効果的に工夫されている。	伝えたい内容が正しく伝わるよう論理的に構成され、効果的に工夫されている。

③④授業計画

第 1 回目

【5 月実施予定の全体会】　オリエンテーション・第 1 回講義（社会人の心構え、マナー研修、社会人としてのスキルの

調査、各ゼミの個別相談会）

第 2 回目

【各ゼミでの活動①】　各ゼミの目標などについて担当者と話し合う。各ゼミごとの「業界研究」などの活動を始める。

＊活動スケジュールは各ゼミ担当者の指示に従うこと。

第 3 回目

【各ゼミでの活動②】　各ゼミで現場見学等を行う

第 4 回目

【各ゼミでの活動③】　現場実践等で情報収集を行う

第 5 回目

【各ゼミでの活動④】　企画のテーマ設定から企画立案(1)　お互いの興味を知る

第 6 回目

【各ゼミでの活動⑤】　企画のテーマ設定から企画立案(2)　テーマ設定から企画を考える

第 7 回目

【各ゼミでの活動⑥】　グループワーク(1)　企画に沿って、各ゼミの実際の活動を進める

第 8 回目

【各ゼミでの活動⑦】　グループワーク(2)　各ゼミで問題点をそれぞれ克服しながら、活動を進める

第 9 回目

【10 月に実施予定の全体会　情報交換会】　情報交換会（ゼミの活動内容と展望を明らかにし、今後の課題を見つける。他のゼミの取組の報告から所属ゼミに活かせることを見つける。プレゼン形式にはせず、グループワークを行う）

第 10 回目

【各ゼミでの活動⑧】　グループワーク(3)　企画の目的達成に向けて、各ゼミでの活動を進める

第 11 回目

【各ゼミでの活動⑨】　企画の実施（各ゼミで春からプランしてきた企画の集大成）

第 12 回目

【各ゼミでの活動⑩】　実施した企画に対する「振り返り（検証）」。さらに、その活動を「社会人基礎力・これからの就活」に結びつけるための議論

第 13 回目

【各ゼミでの活動⑪】　グループワーク(4)　成果発表会に向けて、プレゼンテーションの準備

第 14 回目

【１月に実施の全体会　成果発表会】　成果発表会と総括（各ゼミの 1 年間の活動とその成果を発表する。各ゼミの取組の内容・成果を伝える）

第 15 回目

【１月に実施の全体会　ふりかえり会】　１年間のゼミ活動をふりかえり、グループ内外で体験交流を行う。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

・ゼミごとに取り組む課題や問題を十分に認識し、情報収集、分析を自ら主体的に取り組むこと。

・実践演習は学外での活動が中心となるため、マナー、社会人としての心構えなど事前の指導をしっかりと受け、本学学生として自覚をもって行動すること。

・グループワークや他者との協同作業が中心となるため、積極的なコミュニケーションを心がけること。

・具体的なスケジュールは各ゼミ担当教員、又はキャリアセンターの指示に従うこと。

・やむをえず欠席する場合は必ず担当教員に事前連絡を入れ、指示に従うこと。

・「キャリア形成ゼミ」の活動については、授業支援システム（manaba）などを利用して報告書を作成し、提出すること。

・授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

・キャリア形成ゼミの特徴とねらい、及び各ゼミの目的などを理解する。

・自分が選んだゼミの活動内容を理解し、概要について下調べをしておくこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

40

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

情報収集力(10%)、企画力(10%)、コミュニケーション力(10%)、実行力(10%)、プレゼンテーション力(10%)、各ゼミで設定した達成目標(40%)、最終回の全体会でのプレゼンテーションに対する評価(10%）を基本とする。

留意事項（Other Information）

・2022 年度実施のゼミの種類としては、以下のものが予定されている。

旅行プランナーゼミ、ブライダル業界ゼミ、With コロナの新しい嵐山観光を考えるゼミ、ND タイムズ編集部、ワークショップ・デザインゼミ、環境エネルギービジネス入門ゼミなど

・ぞれぞれのゼミの詳細については、新学期・（4 月中旬）に実施される「キャリア形成ゼミの説明会」への出席、あるいはキャリアセンター窓口にて確認すること。

・一定の人数が集まらなければ実施しないゼミや定員が決まっているゼミもあるので、説明会時に確認すること。

・この科目は Web 登録の必要はなく、活動後に単位が認定される。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫

中小企業での採用人事経験あり。

講義コード	GCP2650A0J
科目名	インターンシップ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	30
⑥担当教員名	濱中　倫秀
科目区分	共通教育科目 ＞ 共通教育科目（実践的科目）
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
備考	集中

①科目の教育目標（Course Description）

就業体験を通して、自己の職業適性や将来設計について考えるきっかけとする。その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。さらには、事後研修を通して明確なキャリアビジョンの確立及び意欲を喚起し、主体的な職業選択が出来るようになる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

・就業体験を学び深いものにする為に、実習前に実習先の研究と目標設定を行う。
・就業体験から得られた学びに基づき、進路選択に向けての情報収集方法を学ぶ。
・就業体験を通して学び得た事と、今後の行動計画をまとめ、ポスターセッション形式で発表する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ていない。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加をしようとしている。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。	常識やマナーを守り、高いレベルで自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。
知識・理解力	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分な理解が出来ていない。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、理解しようとしている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分理解出来ている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、高いレベルで理解出来、応用も出来ている。
言語力	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化出来ていない。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化しようとしている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、十分言語化出来ている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、具体的に言語出来ており、独自性も見られる。
思考・解決力	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動出来ていない。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動しようとしている。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か主体的に考え・行動出来ている。	実習中に取り組む課題を能動的に見つけ、解決に何が必要か考え・行動出来ている。
共生・協働する力	他者との協働や意見交換を出来ていない。	他者との協働や意見交換をしようとしている。	他者との協働や意見交換を十分出来ている。	他者との協働や意見交換を中心になって出来ている。
創造・発信力	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信出来ない。	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信しようとしている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを十分発信出来ている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを具体的に発信出来ている。

③④授業計画

第 1 回目

事前研修①　インターンシップの概要・心構えとマナー・事前課題の説明

＊日時・教室は４月のガイダンスにて説明する

第 2 回目

事前研修②　実習先の研究成果についての発表・目標立案
＊日時・教室は４月のガイダンスにて説明する
第 3 回目
実習①　実習先での就業体験
第 4 回目
実習②　実習先での就業体験
第 5 回目
実習③　実習先での就業体験
第 6 回目
実習④　実習先での就業体験
第 7 回目
実習⑤　実習先での就業体験
第 8 回目
実習⑥　実習先での就業体験
第 9 回目
実習⑦　実習先での就業体験
第 10 回目
実習⑧　実習先での就業体験
第 11 回目
実習⑨　実習先での就業体験
第 12 回目
実習⑩　実習先での就業体験
第 13 回目
事後研修①　実習の振り返り・経験交流とレポート課題について説明
第 14 回目
事後研修②　実習で学び得た事の整理と今後の行動計画の立案・発表準備
第 15 回目
成果発表会　学び得たことと今後の行動計画の発表　＊日時・発表場所と方法は４月のガイダンスにて説明する
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
実施しない。
②教育・学習の方法（Course Methods）
事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施する。
（事前・事後学習及び成果発表会の日時と教室は４月のガイダンスで説明する）
提出するレポートは下記の通り。いずれも評価に大きく関わるので別途指示する期日までにそれぞれ確実に提出すること。
1.実習前／実習先についての事前レポート
2.実習中／毎日記入する実習日誌
3.実習後／事後レポート
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
・インターンシップ実習先に関しては、HP 等で十分に企業研究をしておくこと。
・実習先では指示を待つだけではなく、自分から進んで何ができるのかを考え行動すること。
・現場で働く社会人に確認・質問したい内容を考えておくこと。
・夏休みの暑い時期にあたるので、水分補給や十分な睡眠等、体調管理を万全にすること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
30
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
授業態度　85%（実習先の評価 60%、事前・事後研修および成果発表会の評価 25%）
レポート 15%（未提出者は評価対象外）で評価する。
※事前・事後研修・成果発表会はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁とする。
留意事項（Other Information）

・申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。
・キャリアセンターからの連絡、指示はWEB掲示によることが多いので、各自定期的に確認し、把握しておくこと。
・自己開拓したインターンシップについてはキャリアセンターの規定を満たせば単位として認める。
・遅刻、欠席厳禁

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫

中小企業での採用人事経験あり。

講義コード	EGL2453N1J
科目名	ことばのしくみ
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	田口　茂樹
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 英語英文学科
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

言語を形成する規則体系について深く考察し、人間という種に固有の「言語能力」の本質に迫ることを教育目標とする。対象言語は主に英語と日本語の二言語とし、様々な言語現象を扱いながら両言語における文構築についての仕組みを明らかにする。理論的枠組みは生成文法理論を前提とし、特に統語論に焦点を当てる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

１．言語事実（統語現象）を観察し、一般化を導く。
２．導いた一般化から仮説を立てる。
３．先行研究によって提示されている理論を基に更なるデータを分析し、仮説の検証、修正をする。
４．１-３のステップを繰り返すことにより、言語理論を学ぶと同時に議論の立て方についても学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	教材を通して積極的に内容を理解しようとしない	教材を通して積極的に内容を理解しようとする	教材を通してある程度内容が理解できる	教材の内容をほぼ理解できる
言語力	データを正しく理解することができない	データを正しく理解することができる	データを的確に分析できる	データを的確に分析し、それを口頭・文章で表現できる
思考・解決力	テーマについて考えようとしない	テーマについて考えようと努める	興味深いテーマを考えられる	興味深いテーマを考え、それを分析できる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス　導入と概略の説明

第 2 回目

導入　文法とは？：言語の二面性と規則性

第 3 回目

文法に関する解説　文法とは？：文法の成り立ちと意味

第 4 回目

統語構造に関する解説　統語構造とは？：句構造と意味解釈規則

第 5 回目

統語構造と助動詞に関する解説　統語構造とは？：助動詞の有無、発音されない代名詞 1

第 6 回目

統語構造とは？：発音されない代名詞 2、構造的同音異義

第 7 回目

深層構造と変形規則の解説　変形規則とは？：深層構造と変形規則

第 8 回目

変形規則に関する補則解説　変形規則とは？：深層構造と変形規則、変形規則の説明力

第 9 回目

変形規則の性質に関する解説　変形規則とは？：変形規則の順序づけ、繰り上げ規則

第 10 回目

変形規則に関わる条件に関する解説　変形規則とは？：変形規則に関わる条件（循環条件）

第 11 回目

構造依存性に関する解説　変形規則とは？：変形規則に関わる条件（構造依存性）

第 12 回目

境界性に関する解説　変形規則とは？：変形規則に関わる条件（境界性）

第 13 回目

意味解釈規則とは？：代名詞

第 14 回目

表層構造に関する解説　意味解釈規則とは？：表層構造

第 15 回目

痕跡、作用域、論理形式に関する解説　意味解釈規則とは？：痕跡、作用域、論理形式

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法（Course Methods）

教科書に基づいて、授業の各回で扱う言語事実の整理、観察をまず行い、一般化を導く。次に、先行研究で提示されてきた諸規則、理論について学んだ上で、仮設の立て方、及び、検証の仕方、言語学における議論の立て方を身につける。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

各回の授業テーマに関連する教科書の各章を必ず読み、内容を理解した上で授業に臨むこと。同時に、教科書を読んで分からなかった箇所を明らかにしてくること。与えられた練習問題は、必ず行い復習すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

Quizzes 20 %　　Midterm Exam 40 %　　Final Exam 40 %

留意事項（Other Information）

言語学概論等の授業において習得した程度の理論言語学全般の知識を前提とする。特に、統語論の基礎的な知識については必須とする。なお、オンライン授業となる場合がある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『生成文法』（2009、渡辺 明、東京大学出版会、978-4130820158）／学内販売予定

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGL3403N1E
科目名	対人コミュニケーション
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	守﨑　誠一
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 英語英文学科
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・5 限

①科目の教育目標（Course Description）

コミュニケーション学の視点から、コミュニケーション全般について理解を深める。それにより、コミュニケーションが社会においてどのような役割を果たしており、よりよくコミュニケーションするために何が必要であるのかについて学ぶ。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

他者との相互作用の中でどのように私たちは自分のことを他者に伝えるのか。どのようにすれば他者の持つ自己の印象を操作することができるのか。他者の意見や行動を効果的に変えるにはどうすればいいのか。マスメディアや広告はどのように人々の態度や考え方に影響を与えるのか。インターネットをはじめとする新たなメディアは、私たちのコミュニケーションにどのような影響を与えるのか、といったことについてコミュニケーション学の視点から学習する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	コミュニケーションに関心を持つ	コミュニケーションを理解しようとする	積極的に他者コミュニケーションしようとする	対者とのコミュニケーションによって、自身をよりよく変えていく
知識・理解力	受動的に知識を獲得し、理解をおこなう	能動的に知識を獲得し、理解をおこなう	学んだ知識や理解を基にして、自主的に新たな学びや理解に挑戦する	獲得した知識・理解を新たな分野に応用できるようになる
言語力	もっぱら授業を聞いているだけで発言をしない	質問されたことに対しては発言する	自ら積極的に発言をする	自ら問題を見つけて、それについて考え、独自の意見・考えを発言する
思考・解決力	与えられた情報を受け取るだけで、主体的な思考をおこなわない	与えられた問題や課題に対しては思考をおこなう	自ら主体的に問題を見つけて、それについて思考をおこなう	自ら主体的に問題を見つけて、それについて思考し、解決していく
共生・協働する力	教員と共に学ぼうとする	友人たちとも一緒に学ぼうとする	友人たちとの学びの中で積極的にコミュニケーションに勤める	友人たちと積極的に関わり合い、コミュニケーションを通して創造的な活動をする
創造・発信力	テストを受ける	レポートを作成できる	レポートの内容に創造性を加える	コミュニケーション活動を通して、独自性のある情報の創造と発信ができるようになる

③④授業計画

第 1 回目

イントロダクション　コミュニケーション研究の歴史

第 2 回目

コミュニケーション研究の概要　言語コミュニケーションとは何か　非言語コミュニケーションとは何か

第 3 回目

ことばの使用の生物学的基盤　ことばの起源　ヒトのことばの特性　直立歩行とことばの関係

第 4 回目

母語の獲得　子供はことばをどう獲得するのか　ヒトの言語発達　習得説 vs.生得説

第 5 回目
「わかる」とは　「わかる」というプロセス　「わかってもらう」とは　「わかりやすくモノを伝えられる人」はどういう人なのか
第 6 回目
自己開示　自己開示を測る 5 つの次元　ジョハリ・ウインドウ　人が自己開示をおこなう理由　自己開示の効用
第 7 回目
自己呈示　自己呈示の動機　自己呈示の方略
第 8 回目
対人関係　対人関係の形成・発展・崩壊　親しさを表すコミュニケーション
第 9 回目
説得　説得効果を高める要因　要請技法
第 10 回目
集団とコミュニケーション　集団でのコミュニケーションが持つ特徴
第 11 回目
葛藤・紛争状況におけるコミュニケーション　葛藤・紛争を解決するための方略　葛藤・紛争の解決に対する文化の影響
第 12 回目
うわさ、流言、デマ　うわさの伝播を促進する要因　ネット社会における噂の怖さ
第 13 回目
アサーティブネス　アサーショントレーニングの考え方と歴史
第 14 回目
マス・コミュニケーション　マスメディア研究の歴史　マスメディアの影響をどのように捉えるか
第 15 回目
新しいメディアとコミュニケーション　コンピュータを使ったコミュニケーションの光と影　メディアの変化と社会への影響
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
定期試験を実施する
②教育・学習の方法（Course Methods）
各回、授業に参加する前に教科書（一部については、事前配布のプリント）の必要部分を事前に読んでくること。教科書に書かれていること以外についても授業では取り上げるので、それらを含めて適宜ノートを取ること。定期試験では、問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えを論理的・説得的に論じることを求めるので、授業で学習したことを単に暗記するのではなく、自ら主体的に考える。
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
授業初日に配布する詳細なシラバスによって、各回に教科書のどの部分を学ぶのかを事前に知らせるので、当該部分を必ず授業前に読んでくること。教科書を使用しない場合は、事前にプリント等を配布するので、それについても授業前に読んでくること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
60 分
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
定期試験 60%、宿題・授業中の課題 40%
定期試験については、問われている質問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えが論理的・説得的に論じられているかを評価の対象とします。宿題・授業中の課題については、授業内で学習した内容を基に適切な解答が行われているかどうかを評価の対象とします。課題（宿題・授業中の課題・定期試験）に対するフィードバックは、個々の学生に対しておこなうのではなく、学生全体に対して次の授業の中でコメントをしたり、manaba のスレッドに書き込んだりしておこないます。
留意事項（Other Information）
授業内容の詳細および授業の進め方について、授業の初日に説明します。ですので、授業初日に必ず出席をしてください。
テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）
『インターパーソナルコミュニケーション 』　深田博巳　北大路書房　1998 年　978-4-7628-2103-5　学内販売あり
参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考文献については、授業初日に配布するより詳細なシラバスの中で紹介するとともに、授業内でも適宜紹介をします。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGL3406N1J
科目名	ことばの音と形態
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	上野　舞斗
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 英語英文学科
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	金曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

(1) 日英語の比較を通じて，英語音声学・音韻論を中心に適宜，形態論の基礎知識を学びつつ，(2) 発音・聴解の演習を通して，実際の運用能力も高めることが本科目の目標です。教師を目指す学生が英語教育への実践的応用を行えるよう配慮も行います。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

１．音声学の基礎知識（音声と音素，調音器官，音韻体系）を理解すること
２．英語の分節素（子音・母音）の調音方法を理解し，これを発音・聞き取りに活かせること
３．英語の音変化（連結・同化・脱落）の仕組みを理解し，これを発音・聞き取りに活かせること
４．英語の超分節素（アクセント，リズム，イントネーション）の相互関係について理解し，これを発音・聞き取りに活かせること

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
音声学の基礎知識	音声と音素，調音器官，音韻体系について全く理解できていない。	音声と音素，調音器官，音韻体系について部分的に理解している。	音声と音素，調音器官，音韻体系について理解している。	音声と音素，調音器官，音韻体系について理解しており，運用等の実践的応用に活かせている。
英語の分節素	調音の方法を理解できておらず，明瞭に発音できない。	調音の方法を理解しており，意識しているが，明瞭に発音できない。	調音の方法を理解しており，意識しながらであれば，子音・母音を明瞭に発音できる。	調音の方法を意識せずとも，子音，母音を明瞭に発音できる。
英語の音変化	音変化の仕組みを理解できておらず，連続音声の発音・聞き取りに利用できていない。	音変化の仕組みを理解しており，意識しているが，連続音声の発音・聞き取りに利用できていない。	音変化の仕組みを理解しており，意識しながらであれば，連続音声の発音・聞き取りできる。	音変化の仕組みを意識せずとも，連続音声の発音・聞き取りができる。
英語の超分節素	強勢・アクセント，リズム，イントネーションについて全く理解できていない。	強勢・アクセント，リズム，イントネーションについて部分的に理解している。	強勢・アクセント，リズム，イントネーションをすべて理解し，ゆっくりと考えながらであれば運用等の実践的応用に活かせる。	強勢・アクセント，リズム，イントネーションをすべて理解し，運用等の実践的応用に活かせる。

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション：音声学，音韻論と形態論とは

第 2 回目

発声と音声器官

第 3 回目

閉鎖音

第 4 回目

摩擦音

第 5 回目

破擦音
第 6 回目
鼻音と接近音
第 7 回目
母音(1)（母音空間）
第 8 回目
母音(2)（短母音）
第 9 回目
母音(3)（二重母音、r 色の母音）
第 10 回目
音声変化（連結、同化）
第 11 回目
音声変化（脱落と弱化）
第 12 回目
強勢とリズム
第 13 回目
イントネーション（文末焦点）
第 14 回目
イントネーション（音調）
第 15 回目
授業のまとめ
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
実技試験
②教育・学習の方法（Course Methods）
・日英語の比較を通じて，英語音声学・音韻論を中心に適宜，形態論の基礎知識を学びます。
・各自のスマートフォンやタブレット端末を用いて，発音練習を行います。
・英語の聞き取り教材などを通して，聴解能力を鍛えます。
・提出物（コメントシートなど）に対するフィードバックとして，授業内でこれを匿名化のうえ共有し全体での学びとします
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
・必ず授業時間外に発音の自主訓練（毎日 20 分）を行うこと
・前回までの復習をしておくこと（毎週復習のための課題[授業外提出物]があります）
・次回の予習をしておくこと
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
60
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
授業内提出物（30%），授業外提出物（30%），実技試験（40%）
留意事項（Other Information）
30 分以上の遅刻・早退は欠席とみなします。遅刻 3 回で欠席 1 回分とし，欠席が 5 回になった時点で単位取得を認めません。やむを得ず欠席・遅刻する場合は，必ず担当教員に事前にメール等で知らせてください。
テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）
プリントを配布
参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）
『英語音声学・音韻論』/長瀬慶來教授古希記念出版刊行委員会(編)/大阪教育図書/2022/978427121078
『イギリス英語音声学』/カーリー, P.，メイス, I. M., & コリンズ B.(著)、三浦弘(訳)/大修館書店/2021/9784469246452
『日本語で覚えるネイティブの英語発音』/島岡丘(監修)・島岡良衣/ダイヤモンド社/2013/9784478024287
『ルミナス英和辞典：つづり字と発音解説』/竹林滋・斎藤弘子/研究社/2005/9784767404127
参考 URL(URL for Reference)
実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGL3455N1J
科目名	ことばと社会
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	川上　伊都子
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 英語英文学科
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	「言語学概論」又は「英語の歴史」の履修者であること
曜日時限	月曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

言語は､コミュニケーションの道具としてのみ使われている訳ではありません。言語は、それぞれの社会や文化と密接な関係があり、切り離して考える事はできないのです。では、言語は社会／文化の中でどのような役割や機能をはたし、また、社会／文化からどの様な影響や拘束を受けているのでしょうか。 人間と言語とはどの様に関係し合っているのでしょうか。これらの問いに答えるため、このコースでは､社会言語学の基礎を学びます。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

現実社会での言語使用の分析研究を通して、いかに社会／文化と言語との相互作用があるかを､検証していく。例えば、ことばのコミュニケーション以外の役割についてや、言語習得とは何を意味するのかや、標準語は何のためにあるのか、等普段の生活では考えたことが無い様なことばの奥深い「はたらき」について現実社会の例を沢山使って、考えていく。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
言語力	自分の考えをアウトプットできない。	自分の考えをアウトプットできる。	理解した理論などをうまくアウトプットできる。	他者の意見、理論などを正しく適切にアウトプットできる。
思考･解決力	問題を解決するための思考が足りない。	問題を解決するための思考はできる。	問題を解決するための知識・情報などを収集することができる。	問題を解決するための重要な知識･情報などを収集し、適切に調整することができる。
共生･協働する力	周りと協調することができない。	周りと協調することができる。	周りとうまく協調し合い、よりよい結果を生み出せる。	周りと協調し合うだけでなく、周りの良さを自分と同じく引き出すことができる。

③④授業計画

第 1 回目

What is Sociolinguistics?――Orientation　　What is Sociolinguistics?――Orientation

第 2 回目

ことばの機能とは何か――実例を分析しながら　ことばの機能とは何か――実例を分析しながら考える

第 3 回目

Communication 以外のことばの機能について　Communication 以外のことばの機能について:京都花街の言葉を観察する　Group Discussion とレポート提出

第 4 回目

京都花街ことば、裁判官のことばの考察　前週のレポートを返して解説　裁判官のことばの考察：その特徴と機能について

第 5 回目

言語の”symbol”としての機能について　スカンジナビア３カ国、セルビア・クロアチア、中国の例を使って考察する

第 6 回目

言語 VS 方言　言語 VS 方言: これらの違いは何か：スカンジナビア３カ国、セルビア・クロアチア、中国の例を使って Group Discussion とレポート提出

第 7 回目
国家・民族の独立・自治、又は統一の symbol としての言語　前週のレポートを返して解説
「言語」又は、「方言」という使い分けの目的とその成立過程について考える
第 8 回目
標準語とは何か　西ゲルマン語方言連続体を例にして、標準語とは何かを解説（主にヨーロッパの例を使って）
第 9 回目
琉球王国の歴史と標準語　琉球王国の歴史を例にして、日本における標準語化政策を解説
標準語化政策の目的と過程、言語変種間の格差出現など
第 10 回目
言語の機能について：まとめ　今まで見て来た言語の機能について、復習とまとめ
第 11 回目
Sociolinguistics を研究する意味　実例を使って、Sociolinguistics を研究する意味を考察、Sociolinguistics の定義３つの解説
第 12 回目
Chomsky の理論　Universal Grammar と言語習得　Competence VS Performance とは何か: 実例を使って Chomsky の理論の解説
第 13 回目
Hymes の理論　Communicative competence とは何か：　実例を使って Hymes の理論の解説
社会言語学における言語習得理論を解説
第 14 回目
Speech Community とは何か　Speech Community とは何か :Communicative competence とその境界を決めるもの
実例を使って解説
第 15 回目
Chomsky VS Hymes のまとめ　それぞれの理論のまとめと復習、Group Activity を通してそれぞれの理論の理解を深める
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
実施しない, ただし授業最終日にまとめの筆記テストは行う予定。それ以外に、コロナ感染状況により不測の事態が起こることも想定し、各トピックごとに小テストを行う予定。小テストを数回実施した場合は、最終日の総まとめテストは実施しない。
②教育・学習の方法（Course Methods）
参考文献、重要論文などにそっての講義、質疑応答。さらに現実社会における諸問題に関してグループディスカッション、その結果をレポートにして提出。提出されたレポートは次週返却する際に、必ず詳しい解説を行い、模範例などを示すと共に、評価・採点についても説明する。
１．参考文献：スザーン ロメイン「社会のなかの言語」
２．重要論文（適宜配布）
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
主にグループデイスカッションの前の週に課題が出される。その様な時には、しっかり準備すること。具体的には、あたえられたテーマに関して、調べたり、指定されたものをしっかり読んでくる事等である。 例えば、「北欧３カ国の歴史と言語について調べてくること」という課題が出た時には、図書館やインターネットで調べた後、講義内容を踏まえて、なにが重要な情報であるか取捨選択し、口頭で要点を発表できるようにしておくことが求められる。「グループデイスカッションを、円滑に又、奥深いものにするための準備」と捉えているので、提出することは必要なく、要点を押さえておくことと口頭で発表出来る様にしておくことが、何より大事である。
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
15 時間（毎週、各１時間ぐらいは予習・復習に当てることが望ましい）
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
評価は、まとめテスト又は小テストの平均点（60%）、グループレポート（提出物）の平均点（30%）、授業への積極的取り組み度（10%）に基づいて、総合的に行う。常に授業への積極的参加を期待する。又、グループデイスカッションでは、最後にグループ内での結論などを一枚のレポートにして提出する。評価はこのレポートに対して出され、グループ内の参加者全員にこの評価が同様に与えられる。
留意事項（Other Information）

宿題が出たときは、必ずしてくること。授業には積極的に参加すること。予習が出来てない場合、又、居眠り、私語、スマホ等、授業への積極的参加が認められない場合は、減点の対象となる。コロナ感染状況によっては、登校することが難しくなる場合も考えられるが、出席できないときは、manaba などで自宅での予習・復習をしっかりすることが望ましい。長期に出席できない時は、特に担当教師と連絡をしっかり取り合うことが期待される。
又、感染状況が悪化し、対面授業が困難であると判断した場合には、オンデマンド授業になることもあり得る。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

特になし。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『「社会のなかの言語」』/スザーン ロメイン/三省堂/1997/

別途指示。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EGL3458N1J
科目名	ことばと意味
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	児玉　一宏
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 英語英文学科
学年	2 年次、3 年次、4 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

・「意味」に関わる生成文法と認知言語学の基本的な考え方を理解できるようになる。

・句構造規則と X バー理論に従って生成される基本的な文の階層構造を理解し、構造から読み取れる意味を理解できるようになる。

・高等学校までに学んだ「構文の書き換え」の具体例を取り上げ、構文の意味について構文文法の観点から理解できるようになる。

・構文文法の考え方を理解し、英語学習に応用できるようになる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

言語学の研究対象である「ことばの意味」について学習する。ことばの意味、特に「構文の意味」に焦点を当て、ことばと意味の問題を考察する。前提として、生成文法理論で提案された句構造規則と X バー理論によって形成される階層構造の意味について学習する。このステップを経た後に、テキストの中から、本授業の目標と関わりの深い章（テーマ）を選び、その内容を参照しながら「構文の意味」について学習する。構文文法（認知言語学の構文理論）の理解を視野に入れた学習に重点を置き、認知言語学が提唱する「構文」の意味とは何かという問題を探求していく。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	生成文法や認知言語学の「意味」に関する基本的な考え方について全く理解できていない。	生成文法および構文文法の基本的な考え方を理解している。	英語の「構文の書き換え」について、構文文法の観点から分析・理解ができる。	「ことばの意味」に関する認知言語学の考え方を踏まえ、ことばの意味、構文の意味について自ら考察し、講義で扱う具体的な言語現象について適切に説明することができる。

③④授業計画

第 1 回目

序：　オリエンテーション〔本授業の目標・授業運営・授業への導入〕

第 2 回目

「ことばの意味」とは何か

第 3 回目

文法と意味：認知言語学における「ことばと意味」への招待

第 4 回目

生成文法の句構造規則

第 5 回目

句構造規則と X バー理論

第 6 回目

X バー理論と文の意味

第 7 回目

構文書き換えと文の意味

第 8 回目

中間振り返り

第 9 回目

認知言語学と構文の意味

第 10 回目

英語の構文交替現象

第 11 回目

出来事の捉え方と構文

第 12 回目

「英語の与格交替」の発展的研究

第 13 回目

構文文法の基本的な考え方

第 14 回目

構文文法の可能性と英語教育の接点

第 15 回目

授業の総括（形成テスト・フィードバック・まとめ）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

授業では、テキスト以外に講義資料（補助教材）を使用する。授業形式は講義と演習を中心とする。授業内容の定着を図るため、確認のための問題演習を適宜行う。また、問題解決のためのディスカッション・グループワーク・ペアワークを実施する。皆さんが意識すべきことは、何よりも授業に集中し、授業内容の理解に努めること。復習の際に役立つようなノートのとり方を工夫すること。授業では、講義資料をプリントにして配布する。授業に対する質問対応や学習支援一般などのフィードバックについては、授業中ないしは授業後に適宜行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

毎回の講義の最後に次回の学習内容を予告するので、その都度、指示に従って予習を行ってもらいたい。講義ノートおよび講義資料を中心に（一部参考文献も活用して）十分な復習を行い、講義内容の定着を図ることが大切。授業内容の定着を図るため、テキストの中でどの項目について学習しておいてもらうかを事前に連絡する。講義ノートの作成を強く推奨する。各自、工夫してください。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

45

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

成績評価は、形成テストの成績（70%）、レポート提出・小テストの成績（20%）、積極的な授業参加態度（10%）に基づいて総合的に行う。

留意事項（Other Information）

対面授業を実施します。ただし、コロナ事情により、授業運営の仕方に変更が生じることも考えられます（対面授業をオンライン授業に変更する等）ので、manaba を通しての授業連絡には十分注意してください。授業の進め方など詳細については、初回の対面授業で説明します。必ず出席してください。授業を欠席した場合は、その日の授業内容・連絡事項を授業出席者に必ず確認し、次の授業に向けて支障がないように各自で準備を行ってください。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

テキスト:『はじめて学ぶ認知言語学』/ 児玉一宏・谷口一美・深田智（編）/ ミネルヴァ書房 / 2020　ISBN: 978-4-623-08870-6 / 学内販売・有

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『構文文法論—英語構文への認知的アプローチ』/A. ゴールドバーグ　（河上誓作（監訳）/研究社 /2001 / 4327401242

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDA1250N1J
科目名	家庭電気・機械及び情報処理
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	藪　哲郎
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	1 年次
開講学期	後期集中
⑤単位	2

①科目の教育目標（Course Description）

家庭には様々な家電製品やガス器具・機械・情報機器がある。電気に関する基礎知識を身につけ、家電製品の仕組みを知ることで、これらの機器を適切に扱えるようにする。家庭における機械・ガスについても基礎知識を身につける。家庭科教師として身につけておくべきパソコン技術を習得する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 電気の基礎知識を学ぶ。2. 送電、配電についての基礎知識を身につける。3. 家電製品のしくみを理解し、適切な使用方法を知る。4. 家庭における情報機器の基礎知識を身につける。5. ガスについての基礎知識を学ぶ。6. 家庭機械の基礎知識を学ぶ。7. 家庭科教師として必要な情報技術を身につける。

③④授業計画

第 1 回目

電気の基礎（電圧・電流・電力）

第 2 回目

電気の計算

第 3 回目

電気と磁気の基本法則

第 4 回目

送電・配電

第 5 回目

感電・漏電

第 6 回目

ガスについて

第 7 回目

白物家電（エアコン・冷蔵庫・洗濯機）

第 8 回目

白物家電（掃除機・電子レンジ・IH 調理器）

第 9 回目

照明

第 10 回目

情報家電

第 11 回目

家庭における機械

第 12 回目

家庭科教材の作成（ベジェ曲線の理論）

第 13 回目

家庭科教材の作成（ベジェ曲線を用いた型紙の作成）

第 14 回目

家庭科教材の作成（ガイドを用いた型紙の作成）

第 15 回目

家庭科教材の作成（ガイドとベジェ曲線を用いた型紙の作成）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施する

②教育・学習の方法（Course Methods）

電気・機械の分野については講義を行う。復習をすること。情報分野については演習を行う。欠席せずに、課題の提出期限を守ること。授業中の質問に関しては、適宜口頭でフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

指示された予習事項がある場合は、予習してくること。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

電気・機械分野のテスト 50%、電気分野のレポート 20%、情報分野の課題 30%の割合で評価する。

留意事項（Other Information）

新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン講義あるいはハイフレックス講義となることがある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

オリジナルのテキストを配布する予定である。出版された場合は、それを用いる。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『電気のすべてがわかる本』/谷腰欣司/ナツメ社/2009/

『電気のことがわかる事典』/戸谷次延/西東社/2015/

『電気が一番わかる』/福田京平/技術評論社/2009/

『図解入門よくわかる最新電気の基本としくみ』/藤澤和弘/秀和システム/2012/

『電気の基本としくみがよくわかる本』/福田務/ナツメ社/2011/

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDR2201N1J
科目名	ビジネスの基礎Ⅰ
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	新村　佳史
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	2 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

この授業の目標は、社会人として求められる一般教養、そしてコミュニケーション力を育てよう、というものです。みなさんは「自分が考えていることをきちんと人に伝える」ことができていますか？ちょっと苦手、という人はぜひ選択してください。それを楽しく身につけていくために、音楽やファッション、食べものなど身近なことをまず見つめます。そこから話題を深めていきましょう。考えるための知識をまず身につけていきます。次に、自分なりの考えをまとめていく、と言う企画作りに入ります。未来を考える力を育てることを目標にしています。書く、考える、話し合う、就職試験で求められる面接やグループディスカッション対策にもなる講義です。人と話すことで自分を見つめることができるようになります。この授業で、新たな友人を見つけてもらえれば幸いです。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

・基礎教養の再確認　　世界を広げるための基礎力チェックとその養成、ことに宗教と民族の特性について　　・メディアの特質とその個性　　新聞、テレビ、映画、通信、広告などの役割　　・社会参加の様々な方法を知ろう　　・ビジネスにおける情報の価値を知る　　・これから企業や社会はどうなるか　　・コミュニケーション力とはなにか　　・相手を知らないと始まらない　　・世代論の基礎　　自分たち世代の強み、弱みを知ろう　・企画とはなにか　　すべては上手な目標設定から　・企画を実際に立ててみよう　　上手に自分の考えを伝える手法

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自分から行動できない	与えられた課題にきちんと取り組む	自分で課題を考えられるようになる	課題の解決に進んで取り組めるようになる
知識・理解力	社会に関心を持てない	ニュースに関心を持つようになる	知識は「使えるものだ」と認識する	自ら新しい知識を得ることに喜びを感じる
言語力	人の話を聞けない	他者の話に関心を持つ	他者に伝わる言葉を考え、発話する	他者の視点を意識した文書作成を心がける
思考・解決力	物事に対して「なぜ」という問いかけができない	「なぜ」を考える習慣を身につける	「なぜ」を深く掘り下げられるようになる	自分の疑問をもとに他者と議論できるようになる
共生・協働する力	あいさつができない	目を合わせてあいさつができる	他者の話に笑顔で合図値が打てるようになる	話し合いを通して意見を共有できるようになる
創造・発信力	好きなものがない	自分の好きなことを他者に伝える	他者の好きなことに関心を持つ	未来を考え、それを他者に語る習慣を持つ

③④授業計画

第 1 回目

メディアとの付き合い方　メディアについて知ろう　　日本のメディアの特質と、広告論、聞く力の重要性

第 2 回目

今の世界を支えているものは？　世界を知る基礎教養・１　世界のことをもっと知ろう　宗教、民族の基礎

第 3 回目

世界は楽しい　世界を知る基礎教養・２　面白い現代史　　アジアと西洋をつなぐもの

第 4 回目
インタビュアーになってみる　自分を伝える技術を持とう・　１　上手な話の聞き方、まとめかた
第 5 回目
社会人レベルの文章の書き方　自分を伝える技術を持とう・２　こう書けば、簡単に伝わる文章が書ける
第 6 回目
聞いて、話して、まとめてみる　コミュニケーション力とは何か　　ディスカッションを楽しもう
第 7 回目
世代を知ろう　　今の２０代を大人はどう見ているか知ろう
第 8 回目
さまざまな人の中での自分の客観化　「私」はどこにいる
第 9 回目
人と自分は違って当然　ターゲット、という考え方　自分と人とは似ているし、違う
第 10 回目
相手のために何かを考えてみる　企画力をつける・１　目的の立て方
第 11 回目
企画の作り方　企画力をつける・２　手順の確認と評価の仕方
第 12 回目
楽しくアイデアをまとめてみる　企画書を作る・１　グループで考える
第 13 回目
データを見せてみよう　企画書を作る・２　根拠を示すための数字の使い方
第 14 回目
プレゼンテーションです　企画書を作る・３　課題に沿って企画書を作る、そして発表する
第 15 回目
20 代の自分の企画は？　これからの時代と自分の役割について考える
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
実施しない
②教育・学習の方法（Course Methods）
毎回プリントを準備し、さまざまなテーマについて知り、考えるという作業を行ないます。 みなさんの興味により、内容は変化することもあります。また、企画書の作成はもちろんのこと、その回のテーマについて考えたことを多様なスタイルで「書く」ことで、自分の考え方の確認をするとともに、言葉を用いての情報発信の技術を身につけていきます。書くことがきっと、楽しくなります。プリント、作成物をまとめておくファイルを必ず準備してください。興味を持てる領域が広がり、知識を使いこなして自分の意見を形成でき、発信できる力を身につけてください。
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
新聞を読む、ニュースを見るという習慣を身につけて置いてください。毎時、関心を持ったニュースについての発表を行います。また海外、そして国内の旅への関心の高い人を歓迎します。講義を通して、みなさんが旅行したくなる場所を見つけてくれれば幸いです。旅は生きるためのフォーム・・基礎力を育ててくれます。一人で京都の街を歩く、というのも最高の学習です。そこで感じたことを授業で短時間で発表してもらい、こちらからの感想をお返しします。作文の形で表現する練習も行います。
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
30
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
試験は行ないません。授業中の態度と制作物、小テストで判断します。 授業態度・姿勢　　３０％ 授業での課題（作文など）　　３０％ 最終制作物（企画書）　　４０％ 毎回の課題（作文、アイデア出し、ディベート）授業内にそれぞれの良い点を指摘します。授業態度の評価度合いが高いので、欠席が多いようだと単位の認定は難しくなります。注意してください。また提出物についてはすべて返却します。その際に、特に、どの点が伸びたかについて詳しく説明します。
留意事項（Other Information）
みなさんの興味によって授業内容は変わります。自分の関心あることを積極的に発言してください。聞くだけ、座っているだけという受け身の姿勢からは、何も生まれません。毎時、必ずみなさん全員の意見を求めます。
テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

テキストは特に使用しません。毎回、みなさんの意見を聞きながらプリントを準備します。プリントは皆さんが各自ファイルし、毎時、持参してください。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

世界地図　　好きな雑誌　　世界について書かれた好きな本

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDR2252N1J
科目名	ビジネスの基礎Ⅱ
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	新村　佳史
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
前提科目	ビジネスの基礎 I
曜日時限	火曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

考える力、そのために必要な知識の組み立て方、話し方、聞き方を総合的に伸ばしていきます。「ビジネスの基礎」の授業をより深めていく（資料を読み込む、より高度な企画書作りに取り組む）授業です。そのため「ビジネスの基礎」受講修了者（過年度でも可）対象者のみの受講となります。読む力、調べる力を身に着け、生涯にわたって学び続けるという基本フォームを形成します。就職試験の対策、就職前のトレーニングとなることも目標とします。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

・コミュニケーション力のさらなる上昇　・知的好奇心の育成　・資料読解力の育成　・未来の課題の確認　・企画力の充実　・個々の「幸福感」の形成

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	現状で満足している	新しいこと、未知のことへの関心を持つ	自分で取り組む課題、スケジュールを立てられるようになる	自己の目標に対して達成基準を厳しく作れるようになる
知識・理解力	知識を組み合わせることができない	1 つの課題から自分で新たな課題を作れる	読書の内容を他者に面白く伝えられる	自分の知識をもとに未来を考察できる
言語力	形容詞に頼る表現しかできない「	比喩をまじえて具体的に人に伝えることを心がける	使える語彙を増やすことに面白さを感じる	書く力、話す力の向上に喜びを感じる
思考・解決力	調べ方がわからない	スマホを用いての「調べる」力をつける	出来事の中の「ポイント」を見抜くように心がける	歴史と現在、未来の関連づけが楽しくなる
共生・協働する力	ディスカッションに入れない	他者の話に関心を持ち、より深い内容を引き出す	自分の意見と他者の意見を組み合わせる工夫をする	自分の意見と他者の意見から全く新しい視点を探せる
創造・発信力	とことん好きと言えるものがない	好きなことを他者に理解してもらえるよう表現を工夫する	発表を通して好きなものの本質を考える	好きなものの「記事」が作れるようになる

③④授業計画

第 1 回目

新聞に慣れよう　世界を知るための方法を考える まず新聞について、ネットニュースとの違いを知る

第 2 回目

本を読むとはどういうことか　未来を考えるための方法を考える　読書の楽しさを再確認

第 3 回目

同じものを読んでも感想は異なるもの　考えたことを話し合ってみる、意見をまとめてみる

第 4 回目

作文ではなく、論文ぽいものを　論文（報告書）を書いてみる（提出物１）

第 5 回目

高度なディスカッションのために　自分のことを知る・・対話を通して自分を確認する

第 6 回目

他者との違いを意識して　自分カタログ作りに挑戦する・・今の自分、過去の自分の確認

第 7 回目

人に合わせる必要はありません　自分の長所、欠点を再確認し、成長目標を決める

第 8 回目

自分を生かせる場所はどこですか　今後の目標を作り、まとめてみる（提出物 2）

第 9 回目

企画書作りを思い出しましょう　企画の作り方の再確認

第 10 回目

違う個性が集まって新しいものを作る　チームで企画を作ることに挑戦する・・何が欠けているかを確認、役割を決める

第 11 回目

資料の探し方・・スマホをフル活用　企画作りに必要な資料を分担して集め、企画書を作る

第 12 回目

プレゼンテーション　企画書の完成と、グループでのプレゼンテーション（提出物３）

第 13 回目

少しだけ難しそうな本を読む　これからの社会、企業、家庭がどうなるかを考える

第 14 回目

幸福について考える　働き方と、幸福度の関係について考える

第 15 回目

自分の成長を確認しよう　各自が自分の目標について改めて考えてみる、書いてみる、発表する（提出物４）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

短時間に資料を読む、まとめる、発表するという授業を基本に、他者とのディスカッション、共同作業を行います。また文章力の育成も重視します。書くこと、話すことの楽しさを感じてもらえるよう、みなさんに応じて工夫していきたいと思っています。期待してくださいね。提出物に関しては簡単な添削を加えてすべて返却します。また、個々の良い点について授業内で指摘します。個々の「伸び」を高く評価します。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

とにかく、何にでも興味を持つこと。毎回「今の私の関心ごと」について細かく聞きます。みなさんが新しいことに挑戦することが、毎回の宿題です。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業態度・授業参加度（５０％）、個々の成長度（課題の制作物の内容により判定）（５０％）全授業終了後、提出物の返却と同時に個々の評価を添えた文書をお渡しします。

留意事項（Other Information）

毎回、何らかの課題が出ます（楽しい課題です）。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

特に用いません。ただし、個々に応じて課題図書を貸与します。新書本を指定図書として購入する可能性もあります。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

随時指示します。新聞に目を通す習慣は作ってください。

参考 URL(URL for Reference)

随時指示します。

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDR3253N0J
科目名	ソーシャルマーケティング論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	新村　佳史
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	火曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

この科目は、従来の企業活動では見落とされがちだった社会福祉に関わる仕事の「価値」について考え、改めて仕事の意義を問い直そうというものです。福祉や保育系に進もうという人だけでなく、民間企業や公務員で働こうという人にもぜひ受けてほしい、現代社会の問題点について考えていく授業です。これからの企業は、儲かればいいだけではだめです。社会の幸福にどう貢献するか、それがソーシャルマーケティングの考え方の 1 つです。思いがけない就職先が見つかるかもしれませんよ。ソーシャルマーケティングという概念自体が新しいものですが、数学的な理論学習よりも、今の社会を知り、どんな課題がみなさんにかせられているのかをしっかりと考えます。海外に関心のある人にも楽しい授業ですよ。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

今の社会について知る　企業の存在意義とは何か　社会保障制度の必要性

国や公共事業体ができること　企業ではない「法人」について知ろう

世界の社会保障制度とその歴史　日本の問題点

社会が幸福になる企業活動とは　介護や保育に求められるマーケティングとは

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自分の未来と真剣に向き合えない	未来の自分の幸福な形について考える姿勢を作る	自分の幸せと社会の在り方について考える習慣を持つ	自分の理想とする未来像を描けるようになる
知識・理解力	企業や自治体と言う組織に関心が持てない	組織がなぜ成立しているのかを理解する	社会の中で組織がどう観戦しあって生きているかを理解する	今後、生き残る組織とその要素について理解する
言語力	公文書を面白いと思えない	企業が用いる言葉と特徴を理解する	消費者としての自分がどう発言するか考える	専門用語を用い、簡潔で意味が規定された文書を書く
思考・解決力	データをうまく活用できない	自分の考えを補強するようにデータが使える	社会の課題を発見できる	課題に対して自分の回答を準備する
共生・協働する力	社会、ことに福祉について興味がない	介護や福祉、社会問題が自分の問題であると理解する	共同作業である調査活動に積極的に参加する	社会のために自分が何ができるかをしっかり考える
創造・発信力	幸福とは何かという問いに向き合えない	様々な社会の形を知り、自分がそこにいたらと考えられる」	今の自分たちが社会に何ができるかを考える	社会の幸福のために自分ができることを確認する

③④授業計画

第 1 回目

なぜ世界に恵まれない人がいるのか？　数字の見方に慣れていこう、世界の幸福度

第 2 回目

資本主義社会の利点と弱点　私たちが生きている「今」の世界について知ろう

第 3 回目

企業の論理は勝者の論理　マーケティングを駆使するグローバル企業と、社会的弱者の関係

第 4 回目

国や自治体のできること　マーケティング戦略の取れない公務の弱点

第 5 回目

法人って、何？　国と企業の間に立つ様々な法人について知ろう

第 6 回目

公益事業の民営化って？　少子高齢化にどう対応するか

第 7 回目

企業の社会貢献－１　利益を社会に還元する企業の在り方とは？コトラーに学ぶ

第 8 回目

企業の社会貢献－２　消費者保護、そして環境対策

第 9 回目

週休 4 日制？　ソーシャルマーケティングの視点から見たワークシェア

第 10 回目

効率の良い福祉や保育は可能か？　法人へのマーケティング技術の導入

第 11 回目

世界のソーシャルマーケティングの実践例　アフリカを救うためにミュージシャンが行ったこと

第 12 回目

私たちにできること-1　ここまでの学習を通してのグループディスカッション

第 13 回目

私たちにできること - 2　ディスカッションの報告

第 14 回目

持ち込み可の試験　60 分で試験を実施します。その後に簡単な解説を行います

第 15 回目

未来について考えよう　試験を返却します。また、保育や介護などの仕事がこれからどうなるか、可能性を探ります

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

行いません

②教育・学習の方法（Course Methods）

世界でおきていることを「自分の問題」として考えるのがソーシャルマーケティングの第 1 歩です。覚えるよりも考える、発表することを重視します。発表内容については授業時間内に講評を行います。「気づき」を高く評価します。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

この分野はどんどん変化しています。まず毎日のニュースに気を配ることを心がけてください。難民問題や医療問題など、その時々のニュースの解説も行います。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

期間内試験 50%　ディスカッションの参加・発表 25%　普段の授業態度 25%　社会への関心の高さを見せてください。試験については問題の狙いについて詳しく解説し、最終授業の際に添削を加えて返却します。

留意事項（Other Information）

毎回、プリントを配布します。そこに講義中のメモを書き込み、自分だけのテキストを完成させてください。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

使用しない予定です（毎回プリントを配布します）。ただし、講義前に良い本が出た場合は最初の授業で購入を指示します。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

最初の授業に指示します。またディスカッションの場合、グループごとに参考資料を貸与します。

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	LDR3254N1J
科目名	女性起業論
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	90
⑥担当教員名	濵口　桂
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	3 年次
開講学期	後期集中
⑤単位	2

①科目の教育目標（Course Description）

現代の女性を取り巻く社会的変化に伴い、団体・組織等に雇用されない働き方の一つとしての起業についての理解を深めるとともに、自ら情報収集、分析、考察をし、将来企業等に就職した場合であっても、正解のない社会的課題に取り組める実践的なスキルを身に付ける。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

１．ライフスタイルや雇用環境など女性を取り巻く社会的変化を知る
２．女性による商品やサービス開発の事例を学び、自身でも開発案を創出する
３．新聞や雑誌、文献等からの情報収集と情報分析手法を学ぶ
４．社会的課題についてビジネス手法を活用して解決するビジネスモデルを考える
５．ビジネスゲームをやることでコミュニケーションを醸成する

③④授業計画

第 1 回目
講義オリエンテーションー授業の目的と計画ー

第 2 回目
アフターコロナのビジネス環境の変化を知る

第 3 回目
アフターコロナの女性を取り巻く働き方の変化を知る

第 4 回目
女性起業家・経営者ゲストによるケーススタディ　　「女性起業家による講演と質問会」（予定）

第 5 回目
女性起業家・経営者ゲストによるケーススタディ　　「女性起業支援者（コンサル）による講演と質問会」（予定）

第 6 回目
女性起業家・経営者ゲストとのグループを分けての座談会

第 7 回目
女性の視点を活かした商品開発（事例研究）

第 8 回目
女性の視点を活かした商品開発（アイデア創出）

第 9 回目
女性の視点を活かした商品開発（プレゼン）

第 10 回目
ビジネスの視点をもって社会的課題を見つける

第 11 回目
ビジネスの視点をもって社会的課題の解決策を考える

第 12 回目
解決策をビジネスモデルのワークシートに落とし込む

第 13 回目
ビジネスゲーム「村の案内図・村の引っ越し」によるコミュニケーション醸成

第 14 回目
ビジネスゲーム「村のバス旅行（往路・復路編）」によるコミュニケーション醸成

第 15 回目

全体の振り返りと予備日

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

講義による解説のほか、小グループのディスカッション、グループワーク、起業家との座談会など、受講生の主体的な参加による学習を行う

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

受講生は、日ごろから新聞や雑誌、文献、インターネット等を通じた社会的ニーズや起業に関する情報収集を行い、ビジネス社会における変化・変容に敏感になっておく

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

発言・質問等の授業参加度（50%）　授業中に指示する課題レポート（50%）

留意事項（Other Information）

・本授業は土曜日集中講義となる

・全日程学内で実施する予定

・最新のビジネス情報を取り入れるため授業計画は随時変更する

・可能な限り女性起業家・女性経営者・女性専門家などをゲストとして招請する

・コロナ感染防止対策のため、グループワークや座談会などは一部制限をする場合がある

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考となる文献や資料については，必要に応じて授業中に紹介する

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

民間の企業調査機関で企業の調査研究及び経営コンサルティングの経験あり

ビジネスコンテストでの審査及び、複数の創業（企業）講座での講師経験あり

女性起業家対象のワークショップでのファシリテーター経験あり

講義コード	PSA2202N1J
科目名	生活環境の心理学
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	廣瀬　直哉
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	2 年次、3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

人間の行動は、すべて人間の内的過程（脳における情報処理など）によって規定されるわけではなく、外部の様々な要因による影響を受ける。本科目では、私たちが生活している環境が私たちの行動にどのような影響を与えるかを明らかにすることを目指す。具体的には、環境心理学・生態心理学の観点から、環境における知覚・認知・行為などについて研究を紹介し、人間と環境の関わりについて考察する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 環境の知覚・認知についての理解
2. 自然・都市環境の心理的影響についての理解
3. ギブソンの生態学的視覚論についての理解
4. 環境のアフォーダンスについての理解

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	環境・生態心理学の基礎的概念・知識を理解し、説明することができない。	環境・生態心理学の基礎的概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル 2 に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル 3 に加えて、その概念・知識を活用して、問題解決をすることができる。

③④授業計画

第 1 回目

イントロダクション

第 2 回目

環境心理学とは

第 3 回目

環境の認知

第 4 回目

環境の評価

第 5 回目

自然環境における行動

第 6 回目

都市環境における行動

第 7 回目

物理的痕跡

第 8 回目

対人環境

第 9 回目

学校・教室環境

第 10 回目

環境ストレス

第 11 回目

アフォーダンスの知覚

第 12 回目

デザインとアフォーダンス

第 13 回目

環境行動の観察

第 14 回目

身体と環境の関係

第 15 回目

まとめ

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法（Course Methods）

PowerPoint や映像資料を使った講義形式とグループワークや演習などを組み合わせて行う。テキストは使用せず、必要な授業資料等は manaba から入手する。また、課題の提出やそれに対するフィードバックも manaba から行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

次回の授業資料を予め読んでおくこと。また、授業で指示された課題（小テスト、レポート等）を期限までに manaba から提出すること。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

定期テストは行わず、課題提出(100%)に基づき評価を行う。

留意事項（Other Information）

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。また、授業の一部をオンラインで行うことがある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

『新版 アフォーダンス』/佐々木正人/岩波書店/2015/4000296345

『環境心理学 第 2 版—人間と環境の調和のために』/羽生和紀/サイエンス社/2019/4781914438

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSA2203N1J
科目名	消費者行動の心理学
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	下田　麻衣
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	2 年次、3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

モノであれ、コト（サービス）であれ、消費行動は我々人間がほぼ毎日、頻繁に行っている行動である。にも関わらず、その行動の理由については、自覚的であるとは限らない。本科目では自分の好きなモノや世間で流行っている事柄について心理学的考察を深め、それらが消費される理由について考える。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 人の持つ基本的な欲求について説明できる
2. 世間で受け入れられているものについて、心理学の用語を用いて自分なりに説明できる
3. 心理学の知識を用いて商品の販促が出来る

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	消費者行動にかかわる心理学の諸概念について理解していない	消費者行動にかかわる心理学の諸概念について理解している	消費者行動にかかわる心理学の諸概念について理解し、自分の言葉で説明できる	3 に加え、世の中の商品・サービス等について心理学の諸概念を使って説明できる
思考・解決力				消費者行動にかかわる心理学の諸概念を使って自ら商品の企画・広告の製作等ができる

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション：「消費」について

第 2 回目

消費と幸／不幸について（1）食の消費

第 3 回目

大学の選択という消費／選ばれる大学と選ばれない大学

第 4 回目

知覚と注意

第 5 回目

記憶・学習

第 6 回目

動機／欲求

第 7 回目

自己・アイデンティティー

第 8 回目

態度

第 9 回目

中間プレゼンテーション発表

第 10 回目

広告

第 11 回目

期末プレゼンテーション発表準備

第 12 回目

アンビエント（空間・音楽）

第 13 回目

消費と神経科学

第 14 回目

期末プレゼンテーション発表

第 15 回目

まとめとテスト

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

演習形式で、講義、ディスカッションにそれぞれ同程度の時間を割いて行う。中間プレゼンテーションや期末プレゼンテーション、期末テストに対して授業内で口頭でフィードバックをする。また教員からのフィードバックを待たず、学生から積極的に発言、質問する態度が求められる

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1. 授業の中でさまざまな商品や芸能人についてディスカッションを行うので、自分の好きなモノやヒトについて話をできるように準備しておく
2. 講義の内容をよく復習し、ディスカッションや発表で使えるように理解を深める

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業内発表（20%）x2、授業参加(20%)、期末テスト(40%)

留意事項（Other Information）

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

本授業では学生自身の考えについて発表してもらう機会が数多くあります。自分や人の行動について「なぜか」を考え、その考えを発表する機会を通じて学びを深めていく授業であり、教員の講義を聴くだけの授業とは違いますので、注意してください。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSA2205N1J
科目名	知覚・認知心理学
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	菊野　雄一郎
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	2 年次、3 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

「知覚」「認知」とは、人が世界を認識し、そこから知識を獲得し、それをもとに世界にはたらきかけるための心の情報処理を意味します。人が日常でおこなう様々な活動が、認知心理学の研究対象に含まれます。外界の情報を見たり聞いたりすること。顔や表情を認識すること。心の中に物体のイメージや、ある空間の地図を思い浮かべること。何かに注意を向けたり記憶したりすること。推理をしたり判断をしたりすること。それらに対して生まれる感情と関連付けて把握すること。学生は、こうした人の認知に関する基礎的な理論を身につけるとともに、自分の日常生活の中のさまざまな行動を、心理学や脳科学的な視点から説明できるようになります。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 上記のような人の知覚・認知に関わる心理学理論を理解すること　2. 知覚・認知的な実験課題やデモに触れ、理論に対する具体的なイメージをもつこと　3. 日常の行動と、知覚・認知心理学的な説明を対応づけること　4. 脳研究や症例研究をもとに、人の知覚・認知の機序と障害について理解すること

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス、イントロダクション

第 2 回目

感覚、知覚の一般的特性

第 3 回目

明るさの知覚、形の知覚①

第 4 回目

形の知覚②

第 5 回目

奥行きの知覚

第 6 回目

運動の知覚

第 7 回目

色の知覚

第 8 回目

顔、物体の知覚

第 9 回目

注意①　選択的注意

第 10 回目

注意②　注意資源、アクションスリップ

第 11 回目

記憶①　記憶の意味、３つの記憶

第 12 回目

記憶②　日常記憶

第 13 回目

問題解決、推論

第 14 回目

認知地図

第 15 回目

認知と感情

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施する。

②教育・学習の方法（Course Methods）

・授業の実施方法：独自に作成したプリントを配布し、PowerPoint によるスライドで講義を進めます。予習として、上記の知覚・認知活動が日常のどのような行動に当てはまるかを事前に考えてもらいます。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

教員が推奨する認知心理学の概論書を読んだり、人の心・行動に関する科学ニュースをチェックしたりしておくと、講義が理解しやすくなると思います。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度（40%）と最終テスト（60%）により総合的に評価します。

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

配布資料に基づいて授業を行います。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSA2254N1J
科目名	学習・言語心理学
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	菊野　雄一郎
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	2 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	木曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

人間は経験を通して学ぶ。経験とその結果としての行動の変化に関する規則性を明らかにしようとするのが、学習理論である。本科目ではまず、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習などについて学び、学習成立の基礎過程を理解する。次に、記憶、概念、思考などの認知過程における学習について学ぶ。さらに、人間がコミュニケーションに使用する記号システムである言語について、その特徴や構造を学び、言語習得のメカニズムについて理解する。これらの講義を通して、学習のしくみを理解し、身体的・認知的技能や言語の習得について考察することを目指す。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. 学習の基礎的なメカニズムの理解
2. 概念や思考の学習、および人間の知識獲得の理解
3. 言語獲得のメカニズムについての理解

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力	学習・言語獲得に関する基礎的概念・知識を理解し、説明することができない。	学習・言語獲得に関する基礎的概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル 2 に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル 3 に加えて、その概念・知識を活用して問題解決をすることができる。

③④授業計画

第 1 回目

イントロダクション

第 2 回目

レスポンデント条件づけ

第 3 回目

オペラント条件づけ

第 4 回目

条件づけの応用

第 5 回目

条件づけの制約

第 6 回目

社会的学習

第 7 回目

技能学習

第 8 回目

記憶

第 9 回目

知識と学習

第 10 回目

問題解決と学習

第 11 回目

学習理論の展開

第 12 回目

言語

第 13 回目

言語獲得

第 14 回目

リテラシーの獲得

第 15 回目

まとめ

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施する。

②教育・学習の方法（Course Methods）

主として PowerPoint や映像資料を使った講義形式で行う。テキストは使用しない。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

授業資料を読んでおく。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度（40%）と最終テスト（60%）により総合的に評価します。

留意事項（Other Information）

受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

テキストは使わず、配布資料に基づいて授業を行います

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	TEA4856N0J
科目名	中等教育実習Ⅰ
ND6	卒業要件以外の科目（資格関係）
授業以外に必要な標準学修時間	90
⑥担当教員名	石川　裕之、河野　有時、加藤　佐千子、東郷　多津
科目区分	教職・資格
学年	4 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
前提科目	別に定める
備考	集中

①科目の教育目標（Course Description）

「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

（1）教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深めることができている。
（2）教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つことができている。
（3）学校という組織の一員としての教員の職責・義務を自覚できている。
（4）教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。
（5）教員としての専門的な知識や技能を習得している。
（6）指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認できている。
（7）教員としての自分の長所と短所に気付き、資質向上のための努力目標を知ることができている。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
教職のあり方についての認識	教職のあり方についての認識を深めることができていない。	教職のあり方についての認識を深めることができている。	教職のあり方についての認識をしっかり深めることができている。	教職のあり方についての認識をしっかり深めることができており、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての使命感	教員としての使命感を持つことができていない。	教員としての使命感を持つことができている。	教員としての使命感をしっかり持つことができている。	教員としての使命感をしっかり持つことができており、それを今後の実践に活かすことができる。
学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができていない。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができている。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかり持つことができている。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかり持つことができており、それを今後の実践に活かすことができる。
教員の働きかけに対する生徒の思考・行動についての把握	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できていない。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかり把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかり把握できており、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての専門的な知識や技能の習得	教員としての専門的な知識や技能を習得できていない。	教員としての専門的な知識や技能を習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかり習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかり習得できており、それを今後の実践に活かすことができる。

教員としての実践的指導力の基礎	教員としての実践的指導力の基礎を確認できていない。	教員としての実践的指導力の基礎を確認できている。	教員としての実践的指導力の基礎をしっかり確認できている。	教員としての実践的指導力の基礎をしっかり確認できており、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての資質向上のための努力目標	教員としての資質向上のための努力目標を理解できていない。	教員としての資質向上のための努力目標を理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかり理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかり理解できており、それを今後の自らの姿勢・行動につなげることができる。

③④授業計画

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

②教育・学習の方法（Course Methods）

・実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。

・具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせや相談をおこない、指導を踏まえて取り組むこと。

・研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

・教育実習生としての自覚を持つこと。

・教材研究を十分におこなうこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

＜評価基準＞

　実習に積極的に臨んだか

＜評価方法＞

　（1）レポート　（2）実習校の評価　（3）教育実習ノート

留意事項（Other Information）

・特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席・遅刻・早退は認めない。

・就職活動、スポーツ・文化クラブ活動などの欠席も認めない。

・「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。

・教職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。

・教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫

講義コード	TEA4857N0J
科目名	中等教育実習Ⅱ
ND6	卒業要件以外の科目（資格関係）
授業以外に必要な標準学修時間	90
⑥担当教員名	石川　裕之、河野　有時、加藤　佐千子、東郷　多津
科目区分	教職・資格
学年	4 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
前提科目	別に定める
備考	集中

①科目の教育目標（Course Description）

「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

（1）教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深めることができている。
（2）教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つことができている。
（3）学校という組織の一員としての教員の職責・義務を自覚できている。
（4）教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。
（5）教員としての専門的な知識や技能を習得している。
（6）指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認できている。
（7）教員としての自分の長所と短所に気付き、資質向上のための努力目標を知ることができている。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
教職のあり方についての認識	教職のあり方についての認識を深めることができていない。	教職のあり方についての認識を深めることができている。	教職のあり方についての認識をしっかり深めることができている。	教職のあり方についての認識をしっかり深めることができており、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての使命感	教員としての使命感を持つことができていない。	教員としての使命感を持つことができている。	教員としての使命感をしっかり持つことができている。	教員としての使命感をしっかり持つことができており、それを今後の実践に活かすことができる。
学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができていない。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができている。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかり持つことができている。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかり持つことができており、それを今後の実践に活かすことができる。
教員の働きかけに対する生徒の思考・行動についての把握	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できていない。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかり把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかり把握できており、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての専門的な知識や技能の習得	教員としての専門的な知識や技能を習得できていない。	教員としての専門的な知識や技能を習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかり習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかり習得できており、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての実践的指導力の基	教員としての実践的指導力の基礎を確認でき	教員としての実践的指導力の基礎を確認でき	教員としての実践的指導力の基礎をしっかり確認	教員としての実践的指導力の基礎をしっかり確認できており、それを

礎	ていない。	ている。	できている。	今後の実践に活かすことができる。
教員としての資質向上のための努力目標	教員としての資質向上のための努力目標を理解できていない。	教員としての資質向上のための努力目標を理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかり理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかり理解できており、それを今後の自らの姿勢・行動につなげることができる。

③④授業計画

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

②教育・学習の方法（Course Methods）

・実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動など、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。

・具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせや相談をおこない、指導を踏まえて取り組むこと。

研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

・教育実習生としての自覚を持つこと 。

・教材研究を十分おこなうこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

＜評価基準＞

　実習に積極的に臨んだか

＜評価方法＞

　（1）レポート　（2）実習校の評価　（3）教育実習ノート

留意事項（Other Information）

・特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席・遅刻・早退は認めない。

・「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。

・教職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。

・教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫

講義コード	EGS4600A0J
科目名	卒業研究
ND6	DP6：創造・発信力
⑥担当教員名	大川　淳、小山　哲春、須川　いずみ、田口　茂樹、York　Weatherford、東郷　多津、Steven Herder、木島　菜菜子、Lyle　De Souza
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 英語英文学科
学年	4 年次
開講学期	集中
⑤単位	8

①科目の教育目標（Course Description）

本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習 I/II（３年次ゼミ）で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文（卒業論文）を執筆することである。卒業研究は大学における学習／研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する：

1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評
2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理
3. 具体的な分析方法論の習得と実践
4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

③④授業計画

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

②教育・学習の方法（Course Methods）

主に各指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

詳細は授業中に指示する。各指導教員の指示に従うこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

主査と副査の２名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。

留意事項（Other Information）

[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする（2019 年 10 月 15 日締切）。詳細は「卒業論文の手引き」を参照のこと。

[2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、卒業論文執筆にあたること。

[3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	CSS4600A0J
科目名	卒業研究
ND6	DP6：創造・発信力
⑥担当教員名	岩崎　れい、久野　将健、鎌田　均、朱　鳳、鷲見　朗子、石川　裕之、中里　郁子、平野　美保、吉田　朋子、河野　有時
科目区分	国際言語文化学部 ＞ 国際日本文化学科
学年	4 年次
開講学期	集中
⑤単位	8

①科目の教育目標（Course Description）

卒業論文ないし卒業制作が、大学４年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

１．卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する
２．テーマ決定後の研究計画を策定する
３．参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める
４．論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ
５．研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
創造・発信力	定められたフォーマットや引用ルールを守って文章を書くことができない。	期日までに提出し、学科で定められたフォーマットや決まりをまもっている。知的財産権の配慮ができている。	先行研究に関して引用ルールを守って、幅広く言及し、適切な研究方法を使って論文を書けている。	研究題目が明確かつ独創的で、その題目を論証するための研究資料を適確に提供している。

③④授業計画

指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

②教育・学習の方法（Course Methods）

ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（１名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば以下の通りである。

１．テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか
２．文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか
３．論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか
４．先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか
５．計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

詳細は手引きを参照すること。

留意事項（Other Information）

研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様

である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	SLF1301A0J
科目名	生活環境基礎演習Ⅰ
ND6	DP3：言語力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	竹原　広実、三好　明夫、酒井　久美子、牛田　好美、青木　加奈子
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
曜日時限	金曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

本演習では、主に「読む」「書く」といった言語力を高める演習を通して、大学生として正しいレポートの書き方の基礎を修得し、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。また、本学科での学習に必要な基礎的技能を修得し、現代日本の生活や福祉、社会における諸問題について主体的に考える力を養う。本学科の第 1 学年の入門科目として位置づけ、4 年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4 年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1）一定期間に決められた分量の文章を読みきる。

2）要約の方法を身につける。

3）レポート作成を通して文章の書き方や文献の調べ方、引用の仕方、剽窃等のルールを身につける。

4）夏期休暇中に数冊の文献を読むことを課題とする。これは生活環境基礎演習Ⅱの評価に加える。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
知識・理解力・言語力	要約することができない。	文章を読んで指定された箇所を要約できる。	書き手の意図を踏まえて適切に要約できる。	本全体における指定された章の位置づけを把握しながら書き手の意図を踏まえて適切に要約できる。
思考・解決力・創造・発信力	レポートを作成できない。	要約と意見を踏まえてレポートを作成できる。	要約と意見を踏まえて、さらに文献を調べて内容を深めたレポートを作成できる。	要約と意見を踏まえてレポートを作成し、素地の中で新しい見方や考え方を深めた考察を入れられる。

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス: 基礎演習Ⅰの授業概要および大学での学びについて

第 2 回目

キャリア講座

第 3 回目

ノートの取り方

第 4 回目

「ノートの取り方」振り返りとスタディスキルズ

第 5 回目

メールの書き方

第 6 回目

要約① テキストの読み方

第 7 回目

要約② 前回課題の振り返りと修正

第 8 回目

レポートの書き方① 形式と内容

第 9 回目

レポートの書き方② 引用の仕方と剽窃

第 10 回目

レポートの書き方③ 短い文章を用いた課題の取り組み

第 11 回目

レポートの書き方④ 前回課題の振り返りと修正

第 12 回目

図書館文献検索講習

第 13 回目

テキストの要約

第 14 回目

テキストをもとにしたレポートの作成

第 15 回目

全体の振り返り

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

1) 少人数単位のクラスに分かれて実施する。

各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、生活環境基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。

2) テキストや配付プリントに沿って進めていく。毎週課題が出されるので、次回までに行うこと。

3) 提出された課題は、教員がコメントをつけて返却する。コメントは見直し、修正できるように復習すること。

4) 教員や受講生同士での対話を重視する。受講生からの積極的な発言を期待する。

5) テキスト：別途購入を指示する。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1) コメントをつけて返却された課題は、必ず見直し、修正すること。

2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。

3) 毎週課題が出される。次回までに仕上げて授業に臨むこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

原則全出席とする。

授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。

評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。

留意事項（Other Information）

「授業計画」から変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等はその都度授業のなかでアナウンスするので、毎回必ず出席すること。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

『知へのステップ　第 5 版』/学習技術出版会編/くろしお出版/2019/978-4-87424-789-1 C1081/学内販売予定

その他は別途案内する。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSB1300N0J
科目名	心理学基礎演習Ⅰ
ND6	DP3：言語力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	薦田　未央、三好　智子、村松　朋子、空間　美智子
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	2
備考	必修
曜日時限	火曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

共に学ぶ友人や心理学科教員との関わりを通して、大学での学びの基盤を形成する。そして、日本語の文章や数字で表されるデータについて、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に磨きをかける。また、心理学を活かしたキャリアについてゲストスピーカーや上級生との交流を通して学ぶ。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

①大学での学習に必要な基礎的日本語能力やデータ活用の基礎の習得を通じて、アカデミックリテラシーを身につける。その中でも、大学生として正しいレポートの書き方の基礎を習得し、レポート作成時の「文献（引用文献や参考文献）」の適切な扱い方を身につける。

②資料やデジタルファイルの管理方法、オンラインを用いた学習方法について習得する。

③学生同士あるいは担任を核とした心理学科教員との人間関係を構築する。

④社会の中での心理学の役割や職種についての知識を習得し、専門教育に向けて動機づけを行い、社会的視野を広げる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	心理学の学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をある程度持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的知識がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的知識がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的知識がかなりある
言語力	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的言語力がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的言語力がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について、考えることが難しい	与えられた課題について、考えることがある程度できる	与えられた課題について、考えることがおおむねできる	与えられた課題について、考えることがかなりできる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	ある程度グループ活動を他者と協力して行うことができる	グループ活動を他者と協力して行うことがおおむねできる	グループ活動を他者と協力して行う力がかなりある
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がかなりある

③④授業計画

第 1 回目

全体オリエンテーション　＊教員全員担当

第 2 回目

テーマＡ（大学というフィールドを知ろう―情報収集）

＊半数のグループは、テーマＢに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 3 回目

テーマＡ（大学というフィールドを知ろう―発展）

＊半数のグループは、テーマＢに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 4 回目

全体会Ⅰ（キャリア・資格について）

＊教員全員担当

第 5 回目

テーマＢ（確率と仲良くなろう―サイコロでパターンの数を理解しよう）

＊半数のグループは、テーマＡに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 6 回目

テーマＢ（確率と仲良くなろう―プロフィールを当てよう）

＊半数のグループは、テーマＡに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 7 回目

全体会Ⅱ（心理学科のコースについて）

＊教員全員担当

第 8 回目

中間オリエンテーション（前半の振り返り）

＊各グループごとに、担当教員とともに振り返りを行う。

第 9 回目

テーマＣ（レポートを作成しよう―レポート作成の基礎）

＊半数のグループは、テーマＤに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 10 回目

テーマＣ（レポートを作成しよう―短いレポートの作成）

＊半数のグループは、テーマＤに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 11 回目

テーマＣ（レポートを作成しよう―相互評価）

＊半数のグループは、テーマＤに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 12 回目

テーマＤ（商品試験をしてみよう―商品の評価ポイントを考える）

＊半数のグループは、テーマＣに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 13 回目

テーマＤ（商品試験をしてみよう―実験）

＊半数のグループは、テーマＣに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 14 回目

テーマＤ（商品試験をしてみよう―発展）

＊半数のグループは、テーマＣに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 15 回目

まとめ

＊各グループごとに、担当教員とともに振り返りとまとめを行う。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

グループに分かれて、ローテーション方式で行う。内容は、

①教員によるオリエンテーション　②グループでの作業　③討論　④発表　⑤小レポート　⑥その他、上級生や OG の体験報告会の聴講、本学でのコースでの学びの紹介などを行う予定。また、高校までの学習内容のリマインドのためクイズ形式の課題を行うこともある。課題に対するフィードバックは、授業中または manaba で行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

小学校～高校での国語・数学の学習や総合的な学習の時間での発表学習をふり返る。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度・授業態度 70%、発表・レポート 30%とする。

留意事項（Other Information）

グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体験する。そのため、グループによってテーマＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄの実施順は異なる。回によって教室が異なるので、オリエンテーション時の資料に従い、その都度気を付けること。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EDB1200N0J
科目名	こども教育基礎演習
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	畠山　寛、石井　浩子、萩原　暢子、河佐　英俊、田中　裕喜、古庵　晶子、神月　紀輔、江川　正一、佐藤　真太郎、太田　容次、大西　慎也、髙田　佳孝、廣口　知世、園田　雪恵、藤本　陽三
科目区分	現代人間学部 ＞ こども教育学科 ＞ こども教育学科（実践的科目）
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	1
備考	必修
曜日時限	木曜・1 限

①科目の教育目標（Course Description）

4 年間の大学生活で必要な基礎知識を身につける。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

保育士および幼稚園・小学校教諭・特別支援学校教諭になるための基礎的な学習課題を見つけ，今後の学習を進めることができるようにする。大学生としての学び方を学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	教育・保育に興味を持てない。	教員としての力をつけようとする。	自主的に文献を読み，理想の教員の姿を創造できる	積極的に研究会やボランティアに参加し，そのことを生かして，目指すキャリアに近づこうとする。
知識・理解力	教育に関する情報から知識を得ようとしていない。	学習指導要領などを理解し学校や保育園の現状や実情を知識として持っている。	文部科学省や厚生労働省の Web ページなどから最新の情報を得ようとする。	自ら得た情報に加え，教員や文献を用い，自主的に知識を得ようとする。
言語力	文章表現力に乏しく，外国語に関しても興味がない。	大学生としてのレポート等の書き方がおおむね理解できる。	様々な人とのコミュニケーションをとるために，自主的に言語の学習をしている。	卒業論文程度の文章力を持ち，また外国語に関してもコミュニケーションの手段として積極的に活用し，外国語の文献を理解しようとする。
思考・解決力	問題の解決を人にゆだねてしまっている。	これまでの学習を生かし，自ら問題を解決しようとする。	これまでの学習や経験を活かし，自ら問題解決を探り，他の学生や教員などとも一緒に解決の道を探る。	先行研究などを生かし，問題に関して熟考し，筋道を立てて問題を解決しようとすることができる。
共生・協働する力	他の学生とのディスカッションを行わない。	他の学生とのディスカッションにより学ぼうとする	学生だけでなく，教員や現職教員からも学ぼうとする。	自らがリーダーになって，積極的にディスカッションを働きかけ，自分以外の学生の学びも考える。
創造・発信力	自分の考えを，人にわかる言葉で表現できない。	自分の考えを，序論・本論・結論の形でまとめることができる。	他者の意見を参考にしながら，自分の意見をまとめ，レポートや論述としてまとめることができる。	国内外の事例なども参考にしながら，広い視野で自分の考えをまとめ，プレゼンテーションや Web ページなどに発信できる。

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション（大西，全員）

第 2 回目

将来の自己実現に向けて、大学生活の目標とスケジュール（神月）

第 3 回目

大学講義での学び方（田中）

第 4 回目

書くこと（メール・依頼文・要約など）・実践（石井）

第 5 回目

本を読むこと（本の選定）（廣口）

第 6 回目

レポートの書き方（含：剽窃など）（畠山）

第 7 回目

話すこと（発表・敬語の使い方・意見交流など）・実践（高田）

第 8 回目

図書館での図書・論文の探し方（古庵）

第 9 回目

時事問題への関心（大西）

第 10 回目

民主主義社会の一員として「大人としての自分自身について」（河佐）

第 11 回目

自立した女性を目指して「女性の体と健康」（萩原）

第 12 回目

大学での学び「主体的に学ぶこと」（太田）

第 13 回目

こども教育学科での学び「教育・保育者を志して」（田中）

第 14 回目

本を読むこと（発表）（廣口）

第 15 回目

まとめとコース選択（大西，全員）

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

グループディスカッションや自学自習を基本とし，教員からの話を基に，自分の知識を磨いていく。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

出席できるように体調を整えること。新聞・テレビ・インターネットなどの情報を活用し，保育・教育に対して，積極的に情報を収集しておく。学びに対して，わからないところを事前に調べたり，教員に質問したりして，自ら積極的に取り組める準備をしておく。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

10

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業への参加意欲・態度（30%）：将来を見据え，積極的に授業に参加しようとする態度と，知識を得ようとする態度を評価する。各回の課題（70%）：2 回~14 回の各講義の担当者より課された課題を評価する。

留意事項（Other Information）

この授業は，こども教育フィールド研修と連動して行う。

一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

こども教育ハンドブック（入手方法については講義にて指示する。）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

授業中に指示する。

参考 URL(URL for Reference)

授業中に指示する。

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫

有資格者として勤務経験あり（石井）

教員として学校勤務経験あり（神月，藤本，河佐，江川，太田，大西，園田，高田，佐藤，廣口）

医師として病院等での診療経験あり（萩原）

講義コード	SLF1251A0J
科目名	生活環境基礎演習Ⅱ
ND6	DP2：知識・理解力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	竹原　広実、三好　明夫、牛田　好美、青木　加奈子、加藤　佐千子
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
曜日時限	金曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

本演習では大きく 2 つの学びの軸を置く。第 1 は、生活環境基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活環境に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。第 2 の軸は、社会調査の基本的な知識や考え方を身につけ、物事を客観的に見る力を養うことである。本学科の第 1 学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと 4 年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1) 5 つのテーマワークでの体験から広く生活環境の基礎を学び、2 年次以降の専門的な学びを意識する。

2) 社会調査の基本的な知識や考え方を身につけ、物事を客観的に見る力を養う。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
衣食住、生活経済、福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につける	衣食住、生活経済、福祉に関わる知識を説明できない	衣食住、生活経済、福祉に関わる複数領域の知識を説明できる	衣食住、生活経済、福祉に関わる３つ以上の領域の知識を説明できる	衣食住、生活経済、福祉に関わる知識を広く総合的に説明できる
社会調査の知識と基礎技能を身につける	社会調査の知識や考え方を身につけようとしない	社会調査の基本的な知識や考え方が理解できる	社会調査の基本的な知識や考え方を用いて、物事を客観的に説明することができる	レベル 3 に加えて、レポート作成の際に活かすことができる。

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス: 基礎演習Ⅱの授業概要の説明

第 2 回目

キャリア講座

第 3 回目

テーマワーク①「装う」

第 4 回目

テーマワーク② 「食べる」

第 5 回目

テーマワークの振り返りと学びの共有

第 6 回目

テーマワーク③「住まう」

第 7 回目

テーマワーク④「営む」

第 8 回目

テーマワーク⑤「支える」

第 9 回目

社会調査① 社会調査の基本（知識、方法）

第 10 回目

社会調査② 分析と統計処理

第 11 回目

社会調査③ 調査票の作成

第 12 回目

社会調査④ 倫理的配慮

第 13 回目

ここまでの振り返りと学びの共有

第 14 回目

生活環境基礎演習Ⅳと合同授業

第 15 回目

全体のふりかえり

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

1) 生活環境基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。

2) 各テーマワークによる体験からの学びをクラスで共有する。

3) 5 つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活環境の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した 1 年次研究レポートを作成する。

4) 講義や演習を通して、社会調査の基本的な知識や考え方を身につける。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

1) コメントをつけて返却された課題は、必ず見直し、修正すること。

2) 毎回の授業までに指定された部分のテキストを読み、予習しておくこと。

3) 課題は、次回までに仕上げて授業に臨むこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

40

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

(1) 授業参加度（テーマワークレポートを含む）：50％

(2) レポート：50％（開講前課題も含む）

留意事項（Other Information）

授業内容に変更または順番が入れ替わる可能性がある。変更がある場合は、授業内でアナウンスをするので、授業には毎回必ず出席すること。

テーマワークの担当者

「食べる」：加藤佐千子　「装う」：牛田好美　「住まう」：竹原広実　「営む」：青木加奈子

「支える」：三好明夫または酒井久美子

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

別途案内する

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	PSB1350N0J
科目名	心理学基礎演習Ⅱ
ND6	DP3：言語力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	佐藤　睦子、向山　泰代、中藤　信哉、下田　麻衣
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	1 年次
開講学期	後期
⑤単位	2
備考	必修
曜日時限	火曜・4 限

①科目の教育目標（Course Description）

友人や心理学科教員との関わりを深め、心理学科の専門科目を学ぶ基盤を形成する。そして、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に、さらなる磨きをかける。また、心理学を活かしたキャリアについてゲストスピーカーや上級生との交流を通して学ぶ。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1.アカデミックリテラシーの構築（読むこと、理解すること、文章や図・表にまとめること、発表すること等）

2.人間関係の構築（学生同士および担任を核とする心理学科教員との関わりを深める）

3.専門教育への導入（心理学科の専門教育を受けるための基盤形成）

4.社会の中での心理学の役割や職種についての知識習得（専門教育に向けて動機づけを行い社会的視野を広げる）

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をある程度持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的知識がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的知識がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的知識がかなりある
言語力	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的言語力がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的言語力がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について、考えることが難しい	与えられた課題について、考えることがある程度できる	与えられた課題について、考えることがおおむねできる	与えられた課題について、考えることがかなりできる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	グループ活動を他者と協力して行うことがある程度できる	グループ活動を他者と協力して行うことがおおむねできる	グループ活動を他者と協力して行うことがかなりできる
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がかなりある

③④授業計画

第 1 回目

全体オリエンテーション　＊教員全員担当

第 2 回目

テーマ A（新聞から社会を覗いてみようーグループ課題）

＊半数のグループは、テーマＢに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 3 回目

テーマ A（新聞から社会を覗いてみようー投稿記事の作成）

＊半数のグループは、テーマＢに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第 4 回目

テーマ B（グラフを読み取ろうー身近なグラフ探し）
＊半数のグループは、テーマＡに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第 5 回目
テーマ B（グラフを読み取ろうーグラフの読み取り）
＊半数のグループは、テーマＡに取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第 6 回目
全体会Ⅰ（フィールド研修・インターンシップについて）　＊教員全員担当
第 7 回目
テーマ C（心理学の文献を読もうー文献講読とディスカッション）
＊半数のグループは、テーマ D に取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第 8 回目
テーマ C（心理学の文献を読もうー発表資料の作成）
＊半数のグループは、テーマ D に取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第 9 回目
テーマ C（心理学の文献を読もうー発表と振り返り）
＊半数のグループは、テーマ D に取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第 10 回目
中間オリエンテーション（前半の振り返り）　＊各グループごとに、担当教員とともに振り返りを行う
第 11 回目
テーマ D（データ集計を体験しようー質問紙調査のプレ体験）
＊半数のグループは、テーマ C に取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第 12 回目
テーマ D（データ集計を体験しようー発表資料作成）
＊半数のグループは、テーマ C に取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第 13 回目
テーマ D（データ集計を体験しようーグループ発表）
＊半数のグループは、テーマ C に取り組む。　＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第 14 回目
全体会Ⅱ（就職内定者報告、資格・コース選択説明）　＊教員全員担当
第 15 回目
まとめ　＊各グループごとに、担当教員とともに振り返りとまとめを行う。
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
実施しない
②教育・学習の方法（Course Methods）
A から D の各テーマをグループに分かれてローテーション方式で学ぶほか、全体会やグループに分かれての振り返りを行う。具体的な内容としては、
①教員によるオリエンテーション ②グループでの作業 ③討論 ④発表 ⑤小レポート ⑥その他、上級生や OG の体験報告会の聴講などを行う予定。
課題に対するフィードバックは、授業中または manaba で行う。
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
心理学基礎演習Ⅰでの学習内容をふり返る。
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
40
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
授業参加度・授業態度 70%、発表・レポート 30%とする。
留意事項（Other Information）
グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体験する。そのため、グループによってテーマＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄの実施順は異なり、回によって教室が異なるので、気を付けること。テーマ A および C は三好・佐藤、テーマ B および D は向山・中藤が担当する。全体会の内容は、変更される場合もある。

テキスト**(Textbook)**（書籍名**(Title)**/著者**(Author)**/出版社**(Publisher)**/出版年**(Year Published)/ISBN**/学内販売の有無）
参考文献**(References)**（書籍名**(Title)**/著者**(Author)**/出版社**(Publisher)**/出版年**(Year Published)/ISBN**）
授業中に紹介する。
参考 **URL(URL for Reference)**
実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EDB1500N0J
科目名	こども教育フィールド研修
ND6	DP5：共生・協働する力
授業以外に必要な標準学修時間	15
⑥担当教員名	髙田　佳孝、大西　慎也、石井　浩子、萩原　暢子、田中　裕喜、古庵　晶子、神月　紀輔、畠山　寛、佐藤　真太郎、廣口　知世、園田　雪恵、河佐　英俊、江川　正一、太田　容次、藤本　陽三
科目区分	現代人間学部 ＞ こども教育学科 ＞ こども教育学科（実践的科目）
学年	1 年次
開講学期	前期
⑤単位	1
備考	必修
曜日時限	木曜・2 限

①科目の教育目標（Course Description）

保育所、幼稚園、小学校、特別支援学校の現職の保育士や教員、実習経験者などの話を聴き、自身のコース選択の視点を獲得する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

①保育・教育現場での保育士や教員の話を丁寧に聴き取り、理解することができる。

②保育・教育現場での実習経験者の話を丁寧に聴き取り、理解することができる。

③保育・教育現場についての知識を深め、教職を目指すことの責任を理解し、その後のコース選択、講義等に活かすことができる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
学びに向かう力	これから自分自身にどういった学びや経験が必要か、説明できない。	これから自分自身にどういった学びや経験が必要か、おおまかに説明できる。	これからどういった学びや経験が必要か明確に説明することができる。	自身のキャリアを見据え、これからどういった学びや経験が必要か明確に説明することができる。
キャリア選択	自らの考えでコース選択をすることができない。	講義内容を踏まえて、自らの考えでコース選択をすることができる。	講義内容を踏まえたり将来のキャリアを見据えたりして、自らの考えで納得したコース選択をすることができる。	
講話に関しての社会人基礎力	話を聴くことに相応しい態度を実践できない。	話を聴くことに相応しい態度について、教員からの助言に基づいて実践できる。	話を聴くことに相応しい態度を十分に理解し、自ら実践できる。	
協働する力	グループで共有したり話し合ったりすることができない。	グループで共有したり話し合ったりするなど、他者と関わることができる。	グループで共有したり話し合ったりする良さを理解し、積極的に他者と関わることができる。	レベル３に加え、協働によって、最適解を検討することができる。
知識･理解力（保育･教育現場の話）	保育・教育現場についての話を聴いて、理解することができない。	保育・教育現場についての話を聴いて、ある程度、理解することができる	保育・教育現場についての話を聴いて、整理して理解することができる	保育・教育現場についての話を聴いて、子どもや指導者の姿をイメージしながら、理解することができる。

③④授業計画

第 1 回目

オリエンテーション（髙田、全員）

第 2 回目
保育所とはどんなところか（古庵）
第 3 回目
幼稚園とはどんなところか（園田）
第 4 回目
小学校とはどんなところか（佐藤）
第 5 回目
特別支援学校とはどんなところか（江川）
第 6 回目
保育士の仕事（現職保育士へのインタビュー）（石井）
第 7 回目
幼稚園教諭の仕事（現職教員へのインタビュー）（藤本）
第 8 回目
小学校教諭の仕事（現職教員へのインタビュー）（大西）
第 9 回目
特別支援学校教諭の仕事（現職教員へのインタビュー）（江川）
第 10 回目
保育実習とは（先輩へのインタビュー）（畠山）
第 11 回目
幼稚園教育実習とは（先輩へのインタビュー）（藤本）
第 12 回目
小学校教育実習とは（先輩へのインタビュー）（髙田）
第 13 回目
特別支援学校教育実習とは（先輩へのインタビュー）（太田）
第 14 回目
将来への自己実現に向けて、大学生活の目標とスケジュール（修正）（神月）
第 15 回目
ディスカッション及びコース選択についての説明（髙田、全員）
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
実施しない
②教育・学習の方法（Course Methods）
①教員によるオリエンテーション
②保育・教育現場のインタビュー
③講話後の振り返り、レポート作成
なお、レポートについては、教員が添削しフィードバックする。
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
自分の子どもの頃の学習の記録・学習の作品類を見直し、保育所または幼稚園・小学校などのそれぞれの教育現場で、子どもの姿はどのようなものなのか、指導者の言動はどのようなものなのかなどの観点を整理しておく。また、現職保育士や現職教員、実習経験者の話を聴く者としての、態度・姿勢なども十分考えておく。
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）
15
⑦評価方法・評価基準（Evaluation）
出席状況・参加態度 30%，レポート 70%
保育・教育現場についてのブレンド型授業のため、原則、すべて出席すること
留意事項（Other Information）
・保育・教育現場の事情、または社会状況により、シラバス通りとならない可能性があるので、担当教員のアナウンスを聞き、留意すること。
・保育・教育現場の現職教員や実習経験者の講話については、適切な聴く態度、受講姿勢を心掛けること。
・こども教育基礎演習と連携しながら演習を進める。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）
必要に応じて、資料等を配布する。
参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）
授業中に紹介する。
参考 URL(URL for Reference)
実務経験のある教員による実践的科目
≪実践的科目≫有資格者として勤務経験あり（石井）
教員として学校勤務経験あり（藤本，河佐，江川，髙田，　太田，大西，園田，佐藤，廣口，神月）
医師として病院等での診療経験あり（萩原）

講義コード	SLS3400A0J
科目名	生活環境特論
ND6	DP4：思考・解決力
授業以外に必要な標準学修時間	120
⑥担当教員名	青木　加奈子、牛田　好美、加藤　佐千子、酒井　久美子、佐藤　純、竹原　広実、藤原　智子、三好　明夫、矢島　雅子、安川　涼子
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	3 年次
開講学期	通年
⑤単位	4
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自分の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

(1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。

(2) 各専門分野における研究動向を理解する。

(3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。

(4) (1) ～(3) までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
生活科学や福祉に関わる諸問題に対する関心と対応	生活科学や福祉に関わる現代社会の諸問題に対して関心がない	生活科学や福祉に関わる現代社会の諸問題に対して関心がある。	生活科学や福祉に関わる現代社会の諸問題に対して関心を持ち、問題の根本にある事象や解決策について積極的に考えようとする	生活科学や福祉に関わる現代社会の諸問題に対して関心を持ち、問題の根本にある事象や解決策について、他者と対話を重ねながら、積極的に考えようとする

③④授業計画

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。

(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。

(3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。

＊後期には、合同授業の 1 つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、月に 1 回実施する。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度（30%）、平常点（形成テスト等を含む）（40%）、提出物（30%）により行う。

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：実務経験あり（企業における工学系開発業務）

講義コード	PSS3600A0J
科目名	心理学演習
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	120
⑥担当教員名	伊藤　一美、下田　麻衣、中藤　信哉、尾崎　仁美、薦田　未央、佐藤　睦子、空間　美智子、松島　るみ、三好　智子、向山　泰代、村松　朋子、菊野　雄一郎
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	3 年次
開講学期	通年
⑤単位	4
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究や卒業論文作成へとつなげていく。

１．研究テーマを設定することができる

２．研究テーマにそった研究方法を計画することができる

３．研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

１．心理学のどの領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。

２．各領域の基礎理論や知見を深く理解する。

３．研究論文の読み方・書き方を習得する。

４．各自の研究計画を組み立てる。

③④授業計画

各担当教員から個別に指示する。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

なし

②教育・学習の方法（Course Methods）

１．ゼミに分属し、ゼミ担当教員（指導教員）の指導内容に沿って知識や技術を習得する。

２．受講者が発表し互いに討論する演習形式、教員からの講義形式、実習形式等が含まれる。

３．自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

１．発表者は十分な準備をする。

２．他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

120

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項（Other Information）

水曜日３講時、出席必須

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EDS3600A0J
科目名	こども教育演習
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	150
⑥担当教員名	田中　裕喜、萩原　暢子、神月　紀輔、石井　浩子、畠山　寛、園田　雪恵、古庵　晶子、大西　慎也、佐藤　真太郎、太田　容次、髙田　佳孝、廣口　知世
科目区分	現代人間学部 ＞ こども教育学科
学年	3 年次
開講学期	通年
⑤単位	4
曜日時限	水曜・3 限

①科目の教育目標（Course Description）

少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培うとともに、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立てる。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
創造・発信力	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができていない。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てることができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てて、取り組んでいる。
創造・発信力	自らが選んだ分野の研究法を理解することができていない。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができている。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができており、それを用いて研究していこうとしている。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができており、それを用いて研究に着手している。

③④授業計画

それぞれのゼミにおいて示される。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

各ゼミの担当教員の指示に従うこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

120

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EDI4601N0J
科目名	初等教育実習Ⅰａ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	田中　裕喜、神月　紀輔、大西　慎也、髙田　佳孝、佐藤　真太郎、廣口　知世、河佐英俊、藤本　陽三
科目区分	現代人間学部 ＞ こども教育学科 ＞ こども教育学科（実践的科目）
学年	3 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
前提科目	別に定める
備考	集中

①科目の教育目標（Course Description）

この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

大学で学んだ教育学・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
創造・発信力	実習を私的な理由で欠席する，子どもの問いかけなどに反応できない，責任ある行動がとれないなど，教育実習に対して積極的な取り組み姿勢がない。	実習校園の指導に従い，社会人としての責任も持って教育実習を進めることができる。	実習校園の指導に従い実習を進め，子どもの指導を自らも工夫して行おうとする。	実習校園の指導に従い実習を進め，大学の授業で学んだことを十分に生かして，子どもの学びのために指導の挑戦をしようとする。

③④授業計画

協力いただける小学校において教育実習を 4 週間行う。教育実習の方法は各小学校と打ち合わせること。
必要な情報は教育実習事前指導で指示する。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

実習校および実習指導教員の指導により、授業・保育とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。実習ノートは返却をし、その内容に関しては教員からフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

レポート、教育実習先からの評価、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

留意事項（Other Information）

１．教育実習と事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求さ

れるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。
２．上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。
３．２つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

小学校学習指導要領/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607/学内販売あり

※すでに持っている場合は、新たに購入する必要はない。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫実務経験等：

神月・藤本・河佐・大西・髙田・佐藤・廣口）　教員として公立学校の勤務経験あり

講義コード	EDI4602N0J
科目名	初等教育実習Ⅱａ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	田中　裕喜、神月　紀輔、大西　慎也、髙田　佳孝、佐藤　真太郎、廣口　知世、河佐英俊、藤本　陽三
科目区分	現代人間学部 ＞ こども教育学科 ＞ こども教育学科（実践的科目）
学年	3 年次、4 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
前提科目	別に定める
備考	集中

①科目の教育目標（Course Description）

この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

大学で学んだ教育学・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
創造・発信力	実習を私的な理由で欠席する、子どもの問いかけなどに反応できない、責任ある行動がとれないなど、教育実習に対して積極的な取り組み姿勢がない。	実習校園の指導に従い、社会人としての責任も持って教育実習を進めることができる。	実習校園の指導に従い実習を進め、子どもの指導を自らも工夫して行おうとする。	実習校園の指導に従い実習を進め、大学の授業で学んだことを十分に生かして、子どもの学びのために指導の挑戦をしようとする。

③④授業計画

協力いただける小学校において教育実習を 4 週間行う。教育実習の方法は各小学校と打ち合わせること。
必要な情報は教育実習事前指導で指示する。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

⑦教育・学習の方法（Course Methods）

実習校および実習指導教員の指導により、授業・保育とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。実習ノートは返却をし、その内容に関しては教員からフィードバックを行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

評価方法・評価基準（Evaluation）

レポート、教育実習先からの評価，教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。

留意事項（Other Information）

１．教育実習と事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求さ

れるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。
２．上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。
３．２つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

小学校学習指導要領/文部科学省/東洋館出版社/2018/978-4491034607

※すでに持っている場合は、新たに購入する必要はない。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫実務経験等：

神月・藤本・河佐・大西・髙田・佐藤・廣口　教員として公立学校の勤務経験あり

講義コード	EDP3600N0J
科目名	初等教育実習Ｉｂ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	河佐　英俊、田中　裕喜、神月　紀輔、佐藤　真太郎、大西　慎也、髙田　佳孝、廣口知世、藤本　陽三
科目区分	現代人間学部 ＞ こども教育学科 ＞ こども教育学科（実践的科目）
学年	3 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
前提科目	別に定める
備考	集中

①科目の教育目標（Course Description）

この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修し続けてきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいうべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておかなければならない。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	教育実習に取り組むことができない	教育実習に取り組もうとする	実習内で積極的に実践力をあげる努力をする	実習だけでなく実習前後も含めて，自ら教員の話を聞こうとしたり，研究会などへ参加するなど，実践力向上に取り組む
知識・理解力	学習指導要領が理解できない	学習指導要領がわかる	学習指導要領の内容を自分の授業に生かす	教育法規・教育方法等を全般的を理解できている
言語力	児童に適切な声の大きさで話すことができない，また適切な言葉が使えない	児童に適切な声の大きさやわかりやすい言葉が使える	児童の立場に立ったわかりやすい言葉を使うことができる日本語のわからない児童・保護者に英語などで簡単な指示ができる	わかりやすい授業が展開でき，日本語のわからない児童・保護者にも日本語以外の言語でも授業をすることができる
思考・解決力	授業構成の工夫をしない	授業や指導に対して工夫しようとする	授業や指導の実践力をあげるために，資料などを参考にしようとする	授業や指導のために，先行研究を踏まえ自分で理論を考え，その実践を行おうとする。
共生・協働する力	ひとりよがりの授業・指導を行う	わからないことなど，実習先の教員や実習生仲間に聞き，ともに問題解決にあたる	実習先の学校・学年・学級の目標を理解し，教員と同一歩調を取ろうとする。	自ら進んでティームティーチングなど協働作業に取り組み，成果をあげようとする。
創造・発信力	指導案や実習ノートを人のものを写したり，書き方などを自分で考えない	指導案や実習ノートなどを自分で考えて記そうとする	研究授業などでも自分の考えた授業や指導を人前で見せることができる	学級通信や学校の Web に自分の授業成果や児童の活動を個人情報等に配慮しながら発信できる

③④授業計画

別途提示する。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

⑦教育・学習の方法（Course Methods）

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。フィードバックは、実習中の授業反省会の内容を踏まえて教育実習事後指導内で行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

詳細は授業時に指示する。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

評価方法・評価基準（Evaluation）

教育実習ノートの内容、日常の意欲・態度、実習校からの評価によって総合的に評価する。評価の観点はルーブリックおよび事前事後指導内で配布された人材育成指標・履修カルテを参考にすること。なお、原則として欠席があった場合は単位認定は認めない。

留意事項（Other Information）

１．教育実習、事前事後指導の 2 科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。（４月当初より開講）

２．このような理由から、2 科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書等が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。

３．２つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

必要な資料等は授業内で配布する。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫　教員として学校に勤務経験あり（神月，藤本，河佐，大西，髙田，佐藤，廣口）

講義コード	EDP3601N0J
科目名	初等教育実習Ⅱｂ
ND6	DP6：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	60
⑥担当教員名	河佐　英俊、田中　裕喜、神月　紀輔、佐藤　真太郎、大西　慎也、髙田　佳孝、廣口知世、藤本　陽三
科目区分	現代人間学部 ＞ こども教育学科 ＞ こども教育学科（実践的科目）
学年	3 年次、4 年次
開講学期	集中
⑤単位	2
前提科目	別に定める
備考	集中

①科目の教育目標（**Course Description**）

この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修し続けてきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいうべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておかなければならない。

教育・学習の個別課題（**Course Objectives**）

大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

ルーブリック表

DP	レベル **1**(不可レベル)	レベル **2**	レベル **3**	レベル **4**
自分を育てる力	教育実習に取り組むことができない	教育実習に取り組もうとする	実習内で積極的に実践力をあげる努力をする	実習だけでなく実習前後も含めて，自ら教員の話を聞こうとしたり，研究会などへ参加するなど，実践力向上に取り組む
知識・理解力	学習指導要領が理解できない	学習指導要領がわかる	学習指導要領の内容を自分の授業に生かす	教育法規・教育方法等を全般的を理解できている
言語力	児童に適切な声の大きさで話すことができない，また適切な言葉が使えない	児童に適切な声の大きさやわかりやすい言葉が使える	児童の立場に立ったわかりやすい言葉を使うことができる日本語のわからない児童・保護者に英語などで簡単な指示ができる	わかりやすい授業が展開でき，日本語のわからない児童・保護者にも日本語以外の言語でも授業をすることができる
思考・解決力	授業構成の工夫をしない	授業や指導に対して工夫しようとする	授業や指導の実践力をあげるために，資料などを参考にしようとする	授業や指導のために，先行研究を踏まえ自分で理論を考え，その実践を行おうとする。
共生・協働する力	ひとりよがりの授業・指導を行う	わからないことなど，実習先の教員や実習生仲間に聞き，ともに問題解決にあたる	実習先の学校・学年・学級の目標を理解し，教員と同一歩調を取ろうとする。	自ら進んでティームティーチングなど協働作業に取り組み，成果をあげようとする。
創造・発信力	指導案や実習ノートを人のものを写したり，書き方などを自分で考えない	指導案や実習ノートなどを自分で考えて記そうとする	研究授業などでも自分の考えた授業や指導を人前で見せることができる	学級通信や学校の Web に自分の授業成果や児童の活動を個人情報等に配慮しながら発信できる

③④授業計画

別途提示する。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。フィードバックは、実習中の授業反省会の内容を踏まえて教育実習事後指導内で行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

詳細は授業時に指示する。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

15

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

教育実習ノートの内容、日常の意欲・態度、実習校からの評価によって総合的に評価する。評価の観点はルーブリックおよび事前事後指導内で配布された人材育成指標・履修カルテを参考にすること。なお、原則として欠席があった場合は単位認定は認めない。

留意事項（Other Information）

※この科目は，小学校教育実習に 3 または 4 週間行く場合に，初等教育実習Ｉｂと同時に履修すること。小学校教育実習が 2 週間の場合は，初等教育実習Ｉｂのみでよくこの科目は履修しないこと。

１．教育実習、事前事後指導の 2 科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。（４月当初より開講）

２．このような理由から、2 科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書等が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用による欠席は認められていない。

３．２つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

必要な資料等は授業内で配布する。

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫　教員として学校に勤務経験あり（神月，藤本，河佐，大西，髙田，佐藤，廣口）

講義コード	SLS4600A0J
科目名	卒業研究
ND6	DP6：創造・発信力
⑥担当教員名	青木　加奈子、牛田　好美、加藤　佐千子、酒井　久美子、佐藤　純、竹原　広実、藤原　智子、三好　明夫、矢島　雅子、安川　涼子
科目区分	現代人間学部 ＞ 福祉生活デザイン・生活環境学科
学年	4 年次
開講学期	集中
⑤単位	8

①科目の教育目標（Course Description）

福祉生活デザインに関する教育や研究とは、現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活科学と福祉の視点から、その望ましいあり方を追究する学問である。各専門分野における現代の生活科学や社会福祉をめぐる諸課題を検討し、今後の人間生活に必要な知見を深めることを目的とする。そこで、これまで専門基礎科目や展開・関連科目、3 年次の福祉生活デザイン特論で修得した知見を踏まえ、各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組むことを目標とする。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

各学生が個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自己学習能力	関連論文を見つけることができない	関連論文を見つけ、講読することができる	関連論文を講読し、要約、検討することができる	関連論文にもとづいて、自主的に学習する力がある
主体的な学習力	積極的に取り組む姿勢がない	自ら取り組もうとし、計画的に進めることができる	積極的に取り組むが、自ら問題解決することができない	積極的に取り組み、問題解決する能力がある
表現力、考察力	文章表現、論文の体裁、構成を整えることができない	論文構成を考え、研究の目的、方法を明確にすることができる	研究の目的、方法に応じて研究を進め、考察することができる	研究を活かしてさらに発展的に考察できる
プレゼンテーション力	口頭試問において、プレゼンの内容が明確ではない	口頭試問において、プレゼンの内容が明確である	口頭試問において、プレゼンの内容、質疑応答にも明確に対応できる	さらに高度なプレゼンをすることができ、専門的な力を発揮することができる
専門性を発揮する力	支援者としての最低限の素養がある	支援者としての基本的素養がある	支援者としての専門性を有している	支援者としての高度な専門性を有している

③④授業計画

各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。(2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査、論文作成などの授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

60

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

以下の点を総合的に評価する。

(1) 卒業論文（論文としての体裁、構成力、独自性、研究課題への取組の姿勢等）　(2) 卒業論文要旨（体裁、構成力）

(3) 口頭試問結果（プレゼンテーション、質疑応答）　　詳細は手引きを参照すること。

留意事項（Other Information）

・前年度福祉生活デザイン特論のクラスで継続して履修する。

・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。

・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。

・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

≪実践的科目≫実務経験等：

竹原広美：企業での営業企画に向けての業務経験あり

三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり

佐藤 純：行政の保健福祉機関で精神保健福祉相談員として 18 年勤務経験あり

酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり

安川涼子：企業における工学系開発業務の実務経験あり

講義コード	PSS4600A0J
科目名	卒業研究
ND6	DP6：創造・発信力
⑥担当教員名	伊藤　一美、尾崎　仁美、中藤　信哉、薦田　未央、佐藤　睦子、空間　美智子、高井　直美、下田　麻衣、松島　るみ、三好　智子、向山　泰代、村松　朋子、菊野　雄一郎
科目区分	現代人間学部 ＞ 心理学科
学年	4 年次
開講学期	集中
⑤単位	8

①科目の教育目標（Course Description）

心理学演習で学習した内容を踏まえ、４年間の学習の集大成として、卒業研究に取り組む。実験法・調査法・観察法を通してデータを収集し、適切な方法で分析を実行し、結果の考察を行う。また、研究成果のプレゼンテーションを行うことを通して、社会に発信する力を身につける。

１．研究テーマの妥当性について説明できる　　２．研究テーマに沿って研究を適切に遂行できる

３．研究結果を適切に考察することができる　　４．研究成果を他者に効果的に発信することができる

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

１．卒業研究に熱意をもって取り組む　　２．関連文献を精読する

３．計画した研究方法に従って適切にデータを収集し、研究を実施する　　４．得られたデータを適切に分析する

５．研究結果を先行研究とも比較し、論理的に考察する　　６．研究成果をプレゼンテーションを通して発信する。

ルーブリック表

DP	**レベル 1(不可レベル)**	**レベル 2**	**レベル 3**	**レベル 4**
問題・目的（独創性、有用性、体系 性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	テーマに関する知識に乏しく，独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない，もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識が概ね認められ，ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ，独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり，独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され，多角的に概説されている。

方法（研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題 が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試が出来る様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果（研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。統計手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で，明確に結果が記載されている。
考察（論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的，主観的であり，研究目的や仮説が検証されたのか，議論されていない。根拠がないまま，議論や解釈が行われている。	概ね論理的，客観的に記載されており，研究目的や仮説が検証されたかどうか，ある程度議論がされている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的，客観的に記載されており，研究目的や仮説が検証されたかどうか，議論がされている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的，客観的に記載されており，研究目的や仮説が検証されたかどうか，十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表（研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく，他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	研究内容の説明が概ね出来ており，他者にある程度伝わっている。研究内容の質問に対してある程度回答出来ている。	研究内容の説明が出来ており，他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており，他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス（スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同，協調し，また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく，自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究が遂行が出来，他者との協調が出来る。指導教員との議論もある程度は出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来，他者との協調が積極的に出来る。指導教員との議論も積極的に出来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来，他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に出来る。

③④授業計画

各担当教員から個別に指示する。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

口頭発表またはポスター発表を行う。

教育・学習の方法（Course Methods）

ゼミ別に個別指導を行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

授業時間以外の学習活動が重要である。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

120

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

１．卒業研究の内容および完成度、プレゼンテーションや質疑応答の結果に基づき、総合的に評価する。

２．評価のポイントは、テーマと研究計画がうまく対応しているか、収集したデータの処理が適切か、結果と考察が対応しているか、論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか、独創性と発展性のある研究であるか、他者にわかりやすく結果を発信出来ているか、等である。詳細は手引きを確認すること。

留意事項（Other Information）

１．卒業研究関連の日程については、学生便覧、掲示、manaba 等の連絡を参照すること。

２．配布される「卒業研究・卒業論文作成の手引き」を熟読すること。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	EDS4601A0J
科目名	卒業研究
ND6	DP6：創造・発信力
⑥担当教員名	田中　裕喜、萩原　暢子、神月　紀輔、石井　浩子、畠山　寛、古庵　晶子、大西　慎也、佐藤真太郎、太田　容次、髙田　佳孝
科目区分	現代人間学部 ＞ こども教育学科
学年	4 年次
開講学期	集中
⑤単位	8

①科目の教育目標（Course Description）

こども教育学科における 4 年間の学びの集大成として、それぞれの学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行し、卒業論文を作成する。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

ルーブリック表

DP	**レベル 1(不可レベル)**	**レベル 2**	**レベル 3**	**レベル 4**
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力があり、創造性あふれる論文を書くことができている。

③④授業計画

それぞれのゼミにおいて進め方が異なるため、第 1 回目に担当者が提示する。

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

行わない。

②教育・学習の方法（Course Methods）

各ゼミの担当教員が個別に指導を行う。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

各ゼミで個別に指導を行う。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。

留意事項（Other Information）

卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

講義コード	INF2250N1J
科目名	ＩＣＴビジネス論
ND6	DP2：知識・理解力
⑥担当教員名	北村　美穂子
科目区分	社会情報課程
学年	2・3 年次
開講学期	後期
⑤単位	2

①科目の教育目標（Course Description）

本講義では、ICT 技術（情報通信技術）によってビジネスがどのように変化したかを、ネットビジネスの進化を中心に、その基盤技術やビジネス戦略、開発手法、最新動向を学びます。また、新聞やビジネス誌で登場する、Web3.0、IoT、DX 等、IT に関する用語について実例を交えてわかりやすく解説します。

本授業を受けることで、我々の日常生活に欠かせない検索エンジンや SNS ツール、ショッピングサイト等のネットビジネスやその技術をより身近に感じ、今なお進化するデジタル社会に必要不可欠な知識や発想を身に付けることができます。

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

1. ネットビジネスの基本特性と社会に急速に浸透した理由、社会的な課題について、論理的に説明することができる
2. ICT に関する用語について、それが我々の生活にどのように結びついているか自分の言葉で説明することができる
3. 基本のマーケティングフレームワークについて学び、企業の課題を抽出、分析、解決する手法を習得する
4. 日々進化する AI やデジタル社会において、我々の生活がどのように変化するかを自ら考え、行動することができる

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
ネットビジネスへの理解	我々の身の回りのネットビジネスに興味がない、ネットビジネスの特徴について答えられない	ネットビジネスとは何か、具体例や特徴について答えることができる	ネットビジネスについて、具体例、特徴、社会的な課題について説明することができる	ネットビジネスの基本特性と社会に急速に浸透した理由、社会的な課題について、具体例と関連付けて、論理的に説明することができる
ICT ビジネスに関する基本用語の知識	ICT ビジネスに関連するニュースや新聞記事に興味がない、読んでも理解できない	ICT ビジネスに関連するニュースや新聞記事に興味があり、検索等の補助手段を使いながらニュースや記事を理解することができる	ICT ビジネスに関するニュースや新聞記事に興味があり、ニュースや記事の内容を理解することができる	ICT ビジネスに関するニュースや新聞記事等を自発的に読み、理解し、自分の言葉で説明することができる
基本のマーケティングフレームワークの習得	マーケティングフレームワークについての知識がない	基本的なマーケティングフレームワークを少なくとも１つ知っている	基本的なマーケティングフレームワークから企業の現状を把握することができる	基本的なマーケティングフレームワークを用いて、企業の課題を分析することができる
AI やデジタル社会に対する関心度	AI やデジタル社会に対して関心がない	AI やデジタル社会に関心があり、情報収集を心がけている	AI やデジタル社会に関心があり、我々の生活がどのように変化するかを自ら考えることができる	AI やデジタル社会に関心があり、我々の生活がどのように変化するかを自ら考え、行動し、かつ、情報発信することができる

③④授業計画

第 1 回目

ガイダンス

授業の目的、進め方について説明します。本授業で扱う ICT ビジネスについて概観し、授業の全体像を掴みます。

第 2 回目

ICT（情報通信技術）の歴史とビジネスとの関係

ICT 技術の歴史と、我々の社会やビジネスに与えた影響について学びます。

第 3 回目

ICT ビジネスを支える基盤技術（インターネット関連技術）
ICT ビジネスを支える基盤技術の１つとして、インターネットのしくみを中心に学びます。
第 4 回目
ICT ビジネスを支えるしくみ（システム開発手法）
ソフトウェアやアプリケーションの開発手法や品質管理について学びます。
第 5 回目
ネットビジネス概論
ネットビジネスの歴史とそれを支える技術、社会への影響について学びます。
第 6 回目
ビジネスケース１（ポータルサイトビジネス）
検索サービス等、様々なコンテンツへの入口となるビジネス（人と情報を繋ぐビジネス）について考察します。
第 7 回目
ビジネスケース２（e コマースビジネス）
amazon や楽天等に代表される e コマース（人と商品をつなぐビジネス）について考察します。
第 8 回目
ビジネスケース３（SNS ビジネス）
LINE や facebook 等に代表される SNS ビジネス（人と人をつなぐビジネス）について考察します。
第 9 回目
ビジネスケース４（その他・まとめ）【レポート課題出題】
ポータルサイト、e コマース、SNS ビジネスの最新動向や、その他のビジネスについて考察します。
第 10 回目
ビジネスフレームワーク
ビジネス戦略を立案するためのフレームワーク（SWOT 分析、３C 分析、４P 分析）を学びます。
第 11 回目
Web3.0 概論
Web3.0（分散型ネットワーク）の基本技術とその特徴、歴史的背景について学びます。
第 12 回目
Web3.0 の基礎技術（ブロックチェーン）
ブロックチェーンの基本的なしくみ、ブロックチェーン技術を基盤とする仮想通貨、NFT について学びます。
第 13 回目
AI とデジタル社会
近年急速に進展した AI について理解を深め、や DX（デジタルトランスフォーメーション）が進む社会について考察します。
第 14 回目
ICT ビジネスが社会に与える影響、授業の振り返り
ICT ビジネスが社会に与える影響について考察します。授業の振り返りを行います。
第 15 回目
まとめのテストと講評
まとめのテスト（筆記試験）を行い、テストの講評を行います。
定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート
実施しない。
②教育・学習の方法（Course Methods）
・講義を中心とするが、respon を用いてディスカッションを行ったり、自ら考える機会を設けます。
・授業の最後に毎回 respon を用いて理解度をはかり、次回の授業進行の参考にします。
準備学習の具体的な方法（Class Preparation）
・各回の授業の最後に次回の授業内容の予告を行い、必要に応じて予習内容を指示します。
・各回の授業内容の理解を前提に次回の授業を行うので復習中心の準備をして下さい。
・日頃から IT 関連のビジネスや技術について興味を持ち、気になるニュース等があれば教員に知らせて下さい。
準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

30

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

参加積極性（respon 回答）を考慮した授業参加度 20%、レポート 30%、まとめのテスト 50%

留意事項（Other Information）

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

ネットビジネス進化論 尾原 和啓 NHK 出版 978-4140818213

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

日本の IT 企業にてビジネス開発に携わる経験を有する

授業コード	INF1400N0J		
科目名	社会情報基礎演習Ⅰ		
副題			
担当教員	吉田　智子、鎌田　均、北村　美穂子		
単位数	1.0単位	配当学年	1年
開講年度学期	2023年度前期	曜日講時	木曜2限
授業以外に必要な標準学修時間		前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	「社会情報基礎演習」は、社会情報課程の１年次生を対象として、大学での「学び」について理解するとともに、「学び方」の基礎を習得するための授業である。前期の「社会情報基礎演習」は、大学の学びや研究で求められる基本的な能力を養うことを目標とする。また、複数のプロジェクトを通して大学での新しい人間関係を構築していくことも目指している。
教育・学習の個別課題	１. 社会情報課程での「学び」について理解する。 ２. 図書館の利用の仕方を理解し、文献や資料を収集する。 ３. 電子文書と電子書籍への理解を深める。 ４. 情報技術の基礎を実習を通して学ぶ。 ５. 仮説思考と社会調査に入門する。 ６. 学生が教職員と互いに学び合う関係性を築く。

ルーブリック表

DP	レベル１	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組み、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組み、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について、理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見をもち、他者に伝えようとしない。	自分の意見をもち、他者に伝えようとすることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段と手法とによって伝えることができる。

ND6

カリキュラム学科　2023年度 前期 大学 社会情報課程

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画

第1回	ガイダンス（この授業の位置づけの理解と今後の予定の把握）
第2回	電子情報とは？電子文書と電子書籍（鎌田）
第3回	半導体によるインタラクティブな世界　～ littleBitsを利用した作品紹介と操作実習～（吉田）
第4回	キャリア講座（社会人基礎力、SPIやITパスポート試験の内容を知ろう）
第5回	図書館とOPACの活用、レポート（論文）提出までの10のステップの実践
第6回	ICT企業研究　～ゲスト講師と共に考える～
第7回	プログラミング言語入門（北村） ～プログラミング言語の歴史、種類とその特徴、オブジェクト指向プログラミングとデータ構造～

第8回	データベース入門（北村） ～データベースとは何か（身の回りのデータベース，種類や特徴）、関係データベース～
第9回	Wolfram Alphaの利用 ～AI、プログラミング、知識データベースの実践(1)～
第10回	Wolframプログラミング環境の利用 ～AI、プログラミング、知識データベースの実践(2)～
第11回	ここまでのまとめと、各自の振り返り、勉強会開催の可能性の議論
第12回	仮説思考と社会調査＜入門＞(1) データ分析を通じて本学カフェテリアの魅力をアップするプロジェクトの概要説明
第13回	仮説思考と社会調査＜入門＞(2) 本学カフェテリアの概要を関係者から聞く
第14回	仮説思考と社会調査＜入門＞(3) 本学カフェテリアの魅力や問題点を調査するには
第15回	前期の授業の振り返り
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション／実習、実験／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	1　授業は基本的にゼミ方式で行う。 2　一部の回はPC実習を伴う。 3　情報検索方法を学び、資料を読み内容を理解する。 4　この授業で扱うテーマに対して、受講者自身が勉強会を企画する。
準備学習の具体的な方法	1　疑問に思ったことや分からなかったことを書き出しておく。 2　課題に対して積極的に取り組む。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	以下の方法・基準によって評価する。 （1）課題への取り組み姿勢と内容：70% （2）勉強会の企画と推進：30%
留意事項	テーマや授業の順序は変更することがある。 外部講師による招待講義を実施することが予定されている。

ノートPCの授業での利用	授業にノートPCを持参することを推奨する。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト			
参考文献			
知へのステップ	学習技術研究会	くろしお出版	978-4-87424-789-1
参考URL			

実務経験のある教員による実践的科目	

授業コード	INF1450N0J		
科目名	社会情報基礎演習Ⅱ		
副題			
担当教員	濱中　倫秀、大風　薫、吉田　智子、北村　美穂子、鎌田　均		
単位数	1.0単位	配当学年	1年
開講年度学期	2023年度後期	曜日講時	木曜2限
授業以外に必要な標準学修時間		前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	「社会情報基礎演習」は、社会情報課程の１年次生を対象として、大学での「学び」について理解するとともに、「学び方」の基礎を習得するための授業である。後期の「社会情報基礎演習」は前期で学んだ基礎知識を、大学内カフェテリアの課題発見～解決までのプロジェクトに生かしつつ、実践的に学ぶことを目標とする。
教育・学習の個別課題	1. 社会情報課程の「学び」について理解する。 2. 仮説思考と社会調査の発展編を学ぶ。 3. グループ作業の基礎を学ぶ。 4. 調査票の作成から実査、データ分析、まとめとプレゼンテーションまでの一連の流れを学ぶ。

ルーブリック表

DP	レベル１	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組み、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組み、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献・データ分析方法について理解できない。	授業の内容や用いられている文献・データ分析方法について理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献・データ分析方法について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献・データ分析方法について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	調査分析の目的・内容や結果、自分の考えを言語を用いて表現できない。	調査分析の目的・内容や結果、自分の考えを言語を用いて表現できる。	調査分析の目的・内容や結果、自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、調査分析の目的・内容や結果、自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしたりできない。	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとすることができる。	課題の問題点を明らかにしたり、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加しようとするができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見をもち、他者に伝えようとしない。	自分の意見をもち、他者に伝えようとすることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見をもち、他者に効果的な手段と手法とによって伝えることができる。

ND6

カリキュラム学科　2023年度 前期 大学 社会情報課程

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画

第1回	ガイダンス（前期授業の振り返り）
第2回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(1)　カフェテリア運営会社の現状と問題意識
第3回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(2)　調査とは何か
第4回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(3)　仮説思考による調査課題の検討
第5回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(4)　仮説と調査課題の発表
第6回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(5)　プロジェクトチームの決定・チームビルディング・グループワークの進め方
第7回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(6)　調査票の作成
第8回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(7)　調査票のブラッシュアップ

第9回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(8)　実査
第10回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(9)　データ整理
第11回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(10)　データ分析：単純集計
第12回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(11)　データ分析：２変数の関係
第13回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(12)　結果のまとめと提言
第14回	仮説思考と社会調査＜発展編＞(13)　プレゼンテーション
第15回	後期の授業の振り返り
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション／実習、実験／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	1　授業は基本的にゼミ方式で行う。 2　データ分析を通して、本学カフェテリアの課題発見から解決提案までのプロセスを体験し、学ぶ。
準備学習の具体的な方法	1　疑問に思ったことや分からなかったことを書き出しておく。 2　課題に対して積極的に取り組む。 3　グループワークで意見を言うのが苦手な人は、あらかじめアイデアを準備してから授業にのぞむ。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	以下の方法・基準によって評価する。 （1）課題への取り組み姿勢と内容：70％ （2）課題解決案及びプレゼンテーション内容：30％
留意事項	テーマや授業の順序は変更することがある。

ノートPCの授業での利用	授業にノートPCを持参することを推奨する。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	

講義コード	INF3600
科目名	社会情報演習
ND6	DP：創造・発信力
授業以外に必要な標準学修時間	120
⑥担当教員名	神月　紀輔
科目区分	社会情報課程
学年	3 年次
開講学期	通年
⑤単位	4

①科目の教育目標（Course Description）

基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究へとつなげていく。

１．研究テーマを設定することができる

２．研究テーマにそった研究方法を計画することができる

３．研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる

教育・学習の個別課題（Course Objectives）

１．社会情報学の領域の広がりを確認し、どのような領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。

２．各領域の基礎理論や知見を深く理解するため、専門分野の図書、学術論文、インターネット上の資料などの読解力を身につける。

３．研究論文の読み方および書き方の基本的事項を習得する。

４．各自の関心領域に合わせて問題意識を徐々に深め、研究計画を組み立てる。

ルーブリック表

DP	レベル 1(不可レベル)	レベル 2	レベル 3	レベル 4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない	ある程度，自律的で積極的な学習態度が身についている	概ね，自律的で積極的な学習態度が身についている	自律的で積極的な学習態度が十分身についている
知識・理解力	情報を利用した研究法や，統計分析の知識が身についていない	ある程度，研究法や統計分析の知識が身についている	概ね，研究法や統計分析の方法が身についている	情報を活用した研究法や統計分析の方法が十分身についている
言語力	研究成果を言語化したり，人に説明する力が身についていない	ある程度，研究成果を言語化したり，人に説明することが身についている	概ね，研究成果を言語化したり，人に説明することが身についている	研究成果を言語化したり，人に説明することが十分身についている
思考・解決力	社会学や情報学の知識や方法論を使って，問題を解決する力が身についていない	ある程度，社会学や情報学の知識や方法論を使って，問題を解決する力が身についている	概ね，社会学や情報学の知識や方法論を使って，問題を解決する力が身についている	社会学や情報学の知識や方法論を使って，問題を解決する力が十分身についている
共生・協働する力	他の学習者や教員と協力しながら問題を解決しようとする意欲が身についていない	ある程度，他の学習者や教員と協力しながら問題を解決しようとする意欲が身についている	概ね，他の学習者や教員と協力しながら問題を解決しようとする意欲が身についている	他の学習者や教員と協力しながら問題を解決しようとする意欲が十分身についている
創造・発信力	研究成果を他者に発信する力が身についていない	ある程度，研究成果を他者に発信する力が身についている	概ね，研究成果を他者に発信する力が身についている	研究成果を他者に発信する力が十分に身についている

③④授業計画

それぞれのゼミによって示される

定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート

実施しない

②教育・学習の方法（Course Methods）

１．ゼミに分属し、ゼミ担当教員（指導教員）の指導内容に沿って知識や技術を習得する。

２．受講者が発表し互いに討論する演習形式、教員からの講義形式、実習形式等が含まれる。

３．自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。

４．提出物などの課題や発表などの取り組みについては、manaba などを通じての添削や授業内でのコメントなどでフィードバックされる。

準備学習の具体的な方法（Class Preparation）

１．それまでに専門科目で学んだ授業内容を復習する。

２．社会状況に関心を向けるとともに、自分なりの問題意識や疑問をもち、批判的な思考を心掛ける。

３．関心あるテーマについては、図書や論文、インターネットなどで調べる習慣をつける。

４．Word、Excel、PowerPoint など、卒業研究に必要な PC スキルを身につけ、データ管理の方法についても日頃から意識を持つようにする。

５．自分の発表の際には十分な準備を行い、他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。

準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）

120

⑦評価方法・評価基準（Evaluation）

授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。

留意事項（Other Information）

出席必須である。具体的な授業計画は担当教員が具体的に示し、卒業研究に向けての課題進捗によって調整・変更する。

テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）

それぞれのゼミによって示される

参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）

それぞれのゼミによって示される

参考 URL(URL for Reference)

実務経験のある教員による実践的科目

一部の教員は該当する

京都ノートルダム女子大学履修プログラムに関する規程

（趣旨）

第１条　この規程は、京都ノートルダム女子大学（以下「本学」という。）が各学部・社会情報課程・学科の枠を超えたテーマに関する学修及び専門職業人養成に関する学修等の体系的な履修のために設けるプログラム（以下「プログラム」という。）に関して、必要な事項を定める。

（プログラム）

第２条　前条により設けるプログラムの名称及び目的は、以下のとおりとする。

(1)　情報活用力プログラム

情報活用力プログラムは、情報社会において必要な情報科学の知識・技能を身につけるとともに、それらが社会に与える影響を理解した上で、新たな情報を作り出し、課題を発見し、その解決に向けて主体的に解決策を検討し、実践できる人材の養成を目的とする。

(2)　日本語教員養成課程

日本語教員養成課程は、第二言語として日本語を教える体系的な知識・技能を有し、国内外の日本語教育現場において定められた日本語教育プログラムに基づき日本語指導を行うことができる日本語教師の養成を目的とする。

２　プログラムの単位の修得方法及び修了の要件は、別表に定めるとおりとする。

３　プログラムを修了した者には、所定の修了証を授与する。

４　前２項の規定にかかわらず、情報活用力プログラムに関する別表の科目区分「基礎・基幹」の要件を満たして16単位を修得した者（情報活用力プログラムを修了した者を除く。）は、情報活用力プログラム（基礎）を修了したものとし、申し出により所定の修了証を授与する。

（自己点検・評価）

第３条　教育センターは、前２条に定める趣旨及び目的に基づいて実施する各プログラムの教育の質保証のため、本学学則第１条の２の規定に準じ、自己点検及び評価を実施し、その改善・充実に努めなければならない。

（主担当）

第４条　プログラムには、その専門性に応じ、当該分野に関連の深い学部若しくは社会情報課程又は教育センターの推薦により、責任者を定めるものとする。

附　則（平成29年2月15日制定）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附　則（平成30年1月24日改正）

１　この改正は、平成30年4月1日から施行する。ただし、平成30年度以後の入学者に適用し、平成29年度以前の入学者（平成29年度以前の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。以下同じ。）については、なお従前の例による。

２　臨床の医学、日本語講読Ⅰ、日本語講読Ⅱ、日本語表現Ⅰ及び日本語表現Ⅱに係る改正については、前項の規定にかかわらず、平成29年度の入学者（平成29年度の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）に適用する。

３　平成29年度以前の入学者に適用する授業科目については、第１項の規定にかかわらず、京都ノートルダム女子大学履修規程（平成29年12月20日改正）附則第３項の規定に準じ、移行措置を講

じるものとする。
4　平成29年度の入学者がホスピタリティ論又はIntercultural Communication and Adjustmentの単位を修得したときは、第１項の規定にかかわらず、別表①ホスピタリティプログラム、別表②医療サポート語学プログラム（英語）及び別表③日本語教員養成課程のプログラム修了の要件となる単位に含むことができる。
5　別表②医療サポート語学プログラム（英語）のプログラム修了の要件に係る改正については、第１項の規定にかかわらず、平成29年度の入学者に適用することができる。この場合において、平成29年度の入学者は、医療サポート語学プログラム病院研修を履修することを要しない。

附　則（平成30年9月19日改正）
1　この改正は、平成30年9月20日から施行する。ただし、平成30年度以後の入学者に適用し、平成29年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。
2　外国語（英語）、外国語（英語）指導法、小学校英語教育Ⅰ及び小学校英語教育Ⅱに係る改正については、前項の規定にかかわらず、平成31年4月1日から施行する。ただし、平成31年度以後の入学者に適用し、平成30年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。
3　平成29年度の入学者が総合計45単位以上を修得したときは、第１項の規定にかかわらず、この改正後の第２条第３項の規定により修了証を授与することができる。

附　則（平成30年12月19日改正）
この改正は、平成31年4月1日から施行する。ただし、平成30年度以後の入学者に適用し、平成29年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。

附　則（平成31年2月20日改正）
この改正は、平成31年4月1日から施行する。ただし、接遇のための日本語の単位数に係る改正については、改正の日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附　則（令和2年10月21日改正）
1　この改正は、令和3年4月1日から施行する。ただし、令和3年度以後の入学者に適用し、令和2年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。
2　前項の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学者が本学情報処理士資格課程所定の単位を修得して修了したときは、第２条第１項第４号に定める情報活用力プログラム（基礎）を修了したものとみなす。

附　則（令和3年3月17日改正）
この改正は、令和3年4月1日から施行する。

附　則（令和4年3月16日改正）
この改正は、令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年度以後の入学者に適用し、令和3年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。

附　則（令和5年2月15日改正）

この改正は、令和5年4月1日から施行する。ただし、令和5年度以後の入学者に適用し、令和4年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。

附　則（令和5年10月18日改正）

この改正は、令和5年4月1日から適用する。

別表（科目名の前の○印は必修科目、△印は選択必修科目を示す。）

(1) 情報活用力プログラム

区分	コースナンバー		授業科目名（＊は他学科等開放科目）	単位数	開設学科等	備考
基礎・基幹	GBL 1401		△情報演習Ⅰａ	1	教育センター	△から１単位選択必修
	GBL 1402		△情報演習Ⅰｂ	1	教育センター	
	GBL 2400		○情報演習Ⅱ	1	教育センター	
	GBL 2250		○情報技術リテラシー	2	教育センター	
	GEN 1202		○情報の科学と倫理	2	教育センター	
	GEN 2450		○ＡＩとデータサイエンス入門	2	教育センター	
	GBL 1200		文章作成法Ⅰ	1	教育センター	８単位以上選択必修
	GBL 1201		文章作成法Ⅱ	1	教育センター	
	GBL 1452		ＳＮＳコミュニケーションスキル	2	教育センター	
	GBL 2450		情報処理	2	教育センター	
	GBL 2451		プログラミング演習	2	教育センター	
	EGF 1100		英語英文学基礎演習Ⅰ	2	英語英文学科	
	EGF 1150		英語英文学基礎演習Ⅱ	2	英語英文学科	
	CSB 1600		基礎演習Ⅰ	2	国際日本文化学科	
	CSB 1650		基礎演習Ⅱ	2	国際日本文化学科	
	SLF 1301		生活環境基礎演習Ⅰ	2	生活環境学科	
	SLF 1251		生活環境基礎演習Ⅱ	2	生活環境学科	
	PSB 1300		心理学基礎演習Ⅰ	2	心理学科	
	PSB 1350		心理学基礎演習Ⅱ	2	心理学科	
	EDB 1200		こども教育基礎演習	1	こども教育学科	
	EDB 1500		こども教育フィールド研修	1	こども教育学科	
	INF 1400		社会情報基礎演習Ⅰ	1	社会情報課程	
	INF 1450		社会情報基礎演習Ⅱ	1	社会情報課程	
	合計			16単位以上		
専門	EGS 3500		英語英文学演習Ⅰ	2	英語英文学科	４単位以上選択必修
	EGS 3550		英語英文学演習Ⅱ	2	英語英文学科	
	CSS 3600		専門演習Ⅰ	2	国際日本文化学科	
	CSS 3650		専門演習Ⅱ	2	国際日本文化学科	
	SLS 3401		生活環境特論	4	生活環境学科	
	PSS 3600		心理学演習	4	心理学科	
	EDS 3600		こども教育演習	4	こども教育学科	
	INF 3600		社会情報演習	4	社会情報課程	
	CSA 2259	＊	インターネット社会論	2	国際日本文化学科	
	LDR 3203	＊	マーケティング論	2	生活環境学科	
	PSR 3203				心理学科	
	EDN 3402	＊	情報教育	2	こども教育学科	
	CNS 2601	＊	子供のネット安全教育の理論と実践	2	こども教育学科	
	EDP 3403		ICT活用教育	1	こども教育学科	
	TEA 3853				教育センター	
	GBL 2200		○アルゴリズム基礎	2	教育センター	
	GBL 3400		○ＡＩとデータサイエンス	2	教育センター	
	合計			8単位以上		
関連	GEN 1150		生命倫理	2	教育センター	１０単位以上選択必修
	GEN 1450		暮らしの統計学	2	教育センター	
	GBL 2300		アカデミック・ライティング	2	教育センター	
	GCP 1550		短期インターンシップ	1	教育センター	
	GCP 2500		キャリア形成ゼミ	2	教育センター	
	GCP 2550		インターンシップ	2	教育センター	
	EGL 2453	＊	ことばのしくみ	2	英語英文学科	
	EGL 3403	＊	対人コミュニケーション	2	英語英文学科	
	EGL 3406	＊	ことばの音と形態	2	英語英文学科	
	EGL 3455	＊	ことばと社会	2	英語英文学科	
	EGL 3458	＊	ことばと意味	2	英語英文学科	
	LDA 1250	＊	家庭電気・機械及び情報処理	2	生活環境学科	
	LDR 2201	＊	ビジネスの基礎Ⅰ	2	生活環境学科	
	PSR 2201				心理学科	
	LDR 2252	＊	ビジネスの基礎Ⅱ	2	生活環境学科	
	LDR 3253	＊	ソーシャルマーケティング論	2	生活環境学科	
	LDR 3254	＊	女性起業論	2	生活環境学科	
	PSR 3254				心理学科	
	PSA 2202	＊	生活環境の心理学	2	心理学科	
	PSA 2203	＊	消費者行動の心理学	2	心理学科	
	PSA 2205	＊	知覚・認知心理学	2	心理学科	
	PSA 2254	＊	学習・言語心理学	2	心理学科	
	EDI 4601		初等教育実習Ⅰａ	2	こども教育学科	
	EDI 4602		初等教育実習Ⅱａ	2	こども教育学科	
	EDP 3600		初等教育実習Ⅰｂ	2	こども教育学科	
	EDP 3601		初等教育実習Ⅱｂ	2	こども教育学科	
	INF 2250	＊	ICTビジネス論	2	社会情報課程	
	TEA 4856		中等教育実習Ⅰ	2	教育センター	
	TEA 4857		中等教育実習Ⅱ	2	教育センター	

	EGS 4600		卒業研究	8	英語英文学科	
	CSS 4600				国際日本文化学科	
	SLS 4600				生活環境学科	
	PSS 4602				心理学科	
	EDS 4601				こども教育学科	
	INF 4600				社会情報課程	
			各学科専門教育科目のうち情報分野を含むもの	4単位以内		
	合計			10単位以上		
総合計				34単位以上		

【プログラム修了の要件】
1　上表のとおり単位を修得すること。
2　卒業研究及び各学科専門教育科目のうち情報分野を含むものとして算入できる単位は、教育センターが別に定めるところにより、当該科目の学修内容に情報分野を含むものとして確認を受けたものに限る。

(2) 日本語教員養成課程

領域	コースナンバー		授業科目名（*は他学科等開放科目）	単位数	開設学科等	備考
社会・文化・地域	GEH 1250		日本文学	2	教育センター	
	GEH 1201		日本近現代史	2	教育センター	
	GEH 1202		東アジア近現代史	2	教育センター	
	GEH 1252		ヨーロッパ近現代史	2	教育センター	
	GEH 1253		文化人類学	2	教育センター	
	CSA 1203		比較文化概論	2	国際日本文化学科	
	CSA 2202	*	日本伝統文化論	2	国際日本文化学科	
	CSA 1204	*	国際関係論	2	国際日本文化学科	
	CSA 1200		国文学概論	2	国際日本文化学科	
	CSA 3254	*	日本文学特講	2	国際日本文化学科	２単位以上選択必修
	CSA 2250	*	日本古典文学講読	2	国際日本文化学科	
	CSA 3251	*	日本近代文学講読	2	国際日本文化学科	
	CSA 2265	*	漢文学特講	2	国際日本文化学科	
	CSA 2255	*	京都学	2	国際日本文化学科	
	CSA 3263	*	出版文化史	2	国際日本文化学科	
	CSA 2273	*	日本思想	2	国際日本文化学科	
	CSA 2212	*	日本美術史	2	国際日本文化学科	
	CSA 3201	*	日本美術特講	2	国際日本文化学科	
	CSA 3250	*	日本年中行事論	2	国際日本文化学科	
	合計			2単位以上		
言語と社会	GES 1202		社会学概論	2	教育センター	
	GES 1251		暮らしの経済学	2	教育センター	
	GEH 1150		歴史の中の女性	2	教育センター	
	GES 1500		ボランティア概論	2	教育センター	
	CSA 2268	*	多文化理解	2	国際日本文化学科	２単位以上選択必修
	CSA 1252	*	現代ジャーナリズム入門	2	国際日本文化学科	
	PSR 1251				心理学科	
	EGL 3455	*	ことばと社会	2	英語英文学科	
	合計			2単位以上		
言語と心理	GEN 1401		心理学入門	2	教育センター	
	TEA 2801		発達と学習の教育心理	2	教育センター	
	PSA 2201	*	発達心理学概論	2	心理学科	２単位以上選択必修
	PSA 1250	*	教育心理学概論	2	心理学科	
	PSA 2502	*	障害者・障害児心理学	2	心理学科	
	PSA 2205	*	知覚・認知心理学	2	心理学科	
	合計			2単位以上		
言語と教育	CSA 2304		○日本語教育入門	2	国際日本文化学科	
	JLT 2850		○日本語教授法	2	教育センター	
	JLT 3800		○日本語教育実習Ⅰ	2	教育センター	
	JLT 3850		日本語教育実習Ⅱ	2	教育センター	２単位以上選択必修
	JLT 3855		日本語教育実習Ⅲ	2	教育センター	
	CSB 1500		日本語コミュニケーションⅠ	2	国際日本文化学科	
	CSB 1550		日本語コミュニケーションⅡ	2	国際日本文化学科	
	CSB 2500		日本語コミュニケーションⅢ	2	国際日本文化学科	
	CSA 2260	*	子どもの読書とメディア	2	国際日本文化学科	
	CSA 2561	*	識字活動と子どもの権利	2	国際日本文化学科	
	CSA 2512	*	昔話とストーリーテリング	2	国際日本文化学科	
	EGF 2202		コミュニケーション学概論	2	英語英文学科	
	EGL 3456	*	異文化間コミュニケーション	2	英語英文学科	
	EGE 2502		Intercultural Communication and Acculturation	2	英語英文学科	６単位以上選択必修
	EGL 3403	*	対人コミュニケーション	2	英語英文学科	
	EDP 2201		外国語（英語）	2	こども教育学科	
	EDP 2454		外国語（英語）指導法	2	こども教育学科	
	EGR 2202	*	こども英語指導法（理論編）	2	英語英文学科	
	EGR 2252	*	こども英語指導法（実践編）	2	英語英文学科	

	LIB 3800		児童サービス論	2	教育センター	
	GBL 1401		情報演習Ⅰａ	1	教育センター	２単位以上選択必修
	GBL 1402		情報演習Ⅰｂ	1	教育センター	
	GBL 2400		情報演習Ⅱ	1	教育センター	
	GBL 2450		情報処理	2	教育センター	
	合計			16単位以上		
言語	CSA 1201		○国語学概論	2	国際日本文化学科	
	CSA 2352	＊	○日本語文法	2	国際日本文化学科	
	CSA 2353	＊	○日本語研究	2	国際日本文化学科	
	EGF 2201		言語学概論	2	英語英文学科	４単位以上選択必修
	CSA 2264	＊	日中近代語彙比較論	2	国際日本文化学科	
	CSA 2219	＊	言語文化概論	2	国際日本文化学科	
	CSA 2307	＊	スピーチの基礎	2	国際日本文化学科	
	EGL 2453	＊	ことばのしくみ	2	英語英文学科	
	EGR 3450	＊	応用言語学	2	英語英文学科	
	EGR 3202	＊	外国語としての日本語	2	英語英文学科	
	CSA 3202				国際日本文化学科	
	GBE 1302		英語理解Ⅰ	1	教育センター	４単位以上選択必修＊
	GBE 1303		英語表現Ⅰ	1	教育センター	
	GBE 1352		英語理解Ⅱ	1	教育センター	
	GBE 1353		英語表現Ⅱ	1	教育センター	
	GBE 2300		日常の英会話	1	教育センター	
	GBE 2350		旅行の英会話	1	教育センター	
	GBE 2351		留学の英会話	1	教育センター	
	GBE 2301		おもてなしの英会話	1	教育センター	
	GBE 2307		ビジネス英会話	1	教育センター	
	GBE 2352		歌って覚える英語表現	1	教育センター	
	GBE 2308		英語リスニング	1	教育センター	
	GBE 2354		実用英語基礎	1	教育センター	
	GBE 2305		身近な英文法	1	教育センター	
	GBE 1355		海外研修（語学）Ⅱａ	2	教育センター	
	GBE 1356		海外研修（語学）Ⅱｂ	2	教育センター	
	GBJ 2300		日本語特講Ⅰ	1	教育センター	
	GBJ 2350		日本語特講Ⅱ	1	教育センター	
	GBJ 1300		日本語講読Ⅰ	1	教育センター	外国人留学生のみ適用
	GBJ 1350		日本語講読Ⅱ	1	教育センター	
	GBJ 1301		日本語表現Ⅰ	1	教育センター	
	GBJ 1351		日本語表現Ⅱ	1	教育センター	
	GBF 1300		ドイツ語	2	教育センター	４単位以上選択必修
	GBF 1350		フランス語	2	教育センター	
	GBF 1301		スペイン語	2	教育センター	
	GBF 1351		アラビア語	2	教育センター	
	GBF 1302		中国語Ⅰ	2	教育センター	
	GBF 1352		中国語Ⅱ	2	教育センター	
	GBF 2300		中国語Ⅲ	2	教育センター	
	GBF 1303		コリア語Ⅰ	2	教育センター	
	GBF 1353		コリア語Ⅱ	2	教育センター	
	GBF 2301		コリア語Ⅲ	2	教育センター	
	GBF 1354		海外研修（語学）Ⅰ	2	教育センター	
	合計			18単位以上		
総合計				45単位以上		

【プログラム修了の要件】
1　上表のとおり単位を修得すること。ただし、英語英文学科を卒業した者は、＊の選択必修４単位を修得したものとみなす。
2　学士の学位を有すること。

「情報活用力プログラム」（学部等横断プログラム）の概要

わたしらしく、誇らしく
Be Notre Dame Be Myself

プログラムの目的と修了で身につく力（全学部学科等共通）

以下の力を身につけた人材の育成。

▶情報社会に必要な情報科学の基礎的知識・技能を身につけている。　▶情報が社会に与える影響を理解できる。
▶新たな情報を作り出し、課題を発見できる。　▶課題の解決に向けて主体的に解決策を検討することができる。

特　色	▶情報関連科目の充実に加え、その知識・技能を各専門分野で活用できるよう、各学科等の演習科目や関連科目も配置。 ▶上級情報処理士の科目も含むため、同時に資格取得を目指すことも可能。
修了要件	▶プログラムを構成する科目群から、必修の要件を満たして34単位以上を修得

区分	基礎基幹※		専門		関連
4					・卒業研究（情報分野を含む内容のもの）
3			・AIとデータサイエンス	・情報教育 ・ICT活用教育 ・マーケティング論 ・各学科等専門演習等	・ソーシャルマーケティング論 ・女性起業論 ・消費者行動の心理学 ・対人コミュニケーション　など
2	・情報演習Ⅱ ・情報技術リテラシー ・AIとデータサイエンス入門	・情報処理 ・プログラミング演習	・アルゴリズム基礎	・インターネット社会論 ・子供のネット安全教育の理論と実践	・アカデミック・ライティング ・キャリア形成ゼミ ・インターンシップ ・ＩＣＴビジネス論　など
1	・情報演習Ⅰａ・ｂ ・情報の科学と倫理	・文章作成法Ⅰ・Ⅱ ・SNSｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽｷﾙ ・各学科等基礎演習等			・暮らしの統計学 ・生命倫理 ・短期インターンシップ ・家庭電気・機械及び情報処理
	必修：８単位	**選択必修：８単位以上**	**必修：４単位**	**選択必修：４単位以上**	**選択必修：10単位以上**

※基幹基礎科目群は「情報活用力プログラム（基礎）」（MDASHリテラシーレベル（認定済み））に該当

サポート体制

▶プログラム関連教員との学習相談・・・対面：オフィスアワーなど　オンライン：ＬＭＳ上で質問を受け付け
▶プログラム全体に関すること、履修に関する相談・サポート・・・ND教育センター
▶情報技術に関するサポート・・・図書館情報センター（システム管理課）

©2022 Kyoto Notre Dame University